

令和5年7月号 VOL.64

企画・編集：特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会



軽音楽部 Magazine

DIGIRECO.JR

第7回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会
2023.1.8
準グランプリ
浜松学芸中学校・高等学校
ポピュラー音楽部
COVER PHOTO



ライブ本番までに
済ませておきたい **3つの準備**

部活動と人

ワクワクを共存できる関係を築く

高志保博孝

一般社団法人サトヤマカイギ 代表理事
株式会社スマートホテルソリューションズ代表取締役社長

読んで学べる実技レッスン
全員練習「スケール編」
アンサンブル向上委員会
ロック解体新書
ロックな楽典

ミッション

軽音楽部の諸活動を通して、若い人材を育てる

ビジョン

- ①軽音楽部の学校内外における認知向上を図る
- ②社会や地域貢献を視野に入れた部活動の提案
- ③生徒による自主自立した部活動運営の支援

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション（意思伝達）」「クリエイティビティ（創造力）」「チームワーク（協働）」「エンターテインメント（顧客満足）」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動であると認知されてきたからだと思います。

私たちは、支援活動を推進するには公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、当協会を設立しました。これまでに、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。



特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会

ご支援いただいている特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団
一般社団法人サトヤマカイギ
大阪音楽大学
名古屋芸術大学
宝塚大学
日本工学院専門学校
専門学校 ESP エンタテインメント東京
専門学校東京ビジュアルアーツ
専門学校名古屋ビジュアルアーツ

ビジュアルアーツ専門学校
名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校
ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社
フェンダーミュージック株式会社
有限会社エムエージー
Ableton 株式会社
株式会社トップトラベルサービス
株式会社福々家
株式会社サウンドハウス



軽音楽部 Magazine

令和5年7月号 VOL.64

■軽音楽部Magazine VOL.64
■創刊：平成25年12月18日（水）
■新装創刊：令和5年3月20日（月）
■発行：令和5年6月20日（火）／第12巻7号通巻64号
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校軽音楽部協会
〒224-0003 横浜市中区中川中央1-37-6-405
TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900
E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク



COVER PHOTO 撮影協力

浜松学芸中学校・高等学校 ポピュラー音楽部（静岡県）

2002年創部。日頃は、高校軽音楽部対象の大会へ参加するほか、文化祭や学内演奏会、地域の音楽祭などで演奏しています。部員が主体となって活動すること、他者に対して敬意をもつことを大切にしています。最近では、オリジナル曲の制作に取り組むバンドが徐々に増えてきています。部活動では、ステージに立つことに加えて、音響や照明・広報など活動をサポートする作業も含め、活動の一環としてとらえています。

第7回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会 準グランプリ「Someiro Days」

今回は準グランプリという賞をいただくことができとても光栄に思います。前回の中部大会では奨励賞をいただくことができましたが、悔しい思いもありました。再度の挑戦を評価していただきありがとうございます。残りの活動期間は少ないですが、メンバーみんなで楽しいことをたくさんできればいいなと思います。本当にありがとうございました。

Special Issue

11 ライブ本番までに済ませておきたい3つの準備

Interview

09 部活動と人

ワクワクを共存できる関係を築く

高志保博孝

一般社団法人サトヤマカイギ 代表理事
株式会社スマートホテルソリューションズ 代表取締役社長

Exercise / Lesson

23 読んで学べる実技レッスン

34 全員練習「スケール編」

35 アンサンブル向上委員会

Music Theory

36 ロック解体新書

52 ロックな楽典

音楽／エンタメ業界の仕事2023

64 アーティスト：日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校

66 照明：専門学校東京ビジュアルアーツ

68 照明：専門学校名古屋ビジュアルアーツ

Miscellaneous

04 From Chief-In-Editor

05 イベント・カレンダー

06 配布校リスト

広告

17 バンド練習から校内ライブまで使える

音響&照明機材：サウンドハウス

2,033校に無料配布

本誌は高等学校軽音楽部以外には配布しておりません。写真掲載に関しては各高等学校の許可を得ています。本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用の際は当協会までご一報ください。



「練習内容」を考えてみよう

社会活動が日常を取り戻しつつあり、軽音楽部の活動もそれに合わせて活発になってきています。当協会でも各地でセミナーや合同演奏会を開催しています。そんな中で感じるものの1つに「練習内容」があります。「練習」と一言と言っても、実は「個人の練習」や「バンドの練習」もあり、それ以外にも「ライブに向けた練習」もあります。それぞれの目的にマッチした練習の方法や内容があり、それらを意識することで効率的、効果的に楽器の演奏スキルが上達したり、バンドとしてのまとまりが良くなり、ライブでの表現力を高めることができるようになります。「個人練習」が十分にできていない状態で「バンド練習」をしても効率は悪く、「バンド練習」が十分にできていない状態で「ライブ練習」をしてもまとまりません。もちろん、みんなで音を出すだけでも楽しいと思いますが、部活動の目的は楽しむことではありません。運動部…例えば、野球部を例にしましょう。キャッチボールをしたり、バッティングをしたり、フライを捕ったり、ゴロを拾ったり、ノックをしたりという「個人練習（基礎練習）」でスキルアップをしないで、いくら試合をしても、チームとしてはなかなか上達しません。基礎体力をつけるためのランニング、グラウンドの整備、ピッチャーの投球練習

やバッターの打球練習などなど…そう考えると、普段の野球部は「個人やパートの練習しかしていない」と思えてきます。軽音楽部にとっての「バンド練習」や「ライブ練習」は野球部の「練習試合」と言えます。軽音楽部では逆に、「練習試合」を繰り返す日常になっていないでしょうか。「個人練習」や「パート練習」は野球部で言う基礎体力の強化に相当すると置き換えると、軽音楽部でも部員全員でスケール練習、リズム練習や発声練習を試してみる価値はあるのではないのでしょうか。

また、野球部では次の試合に出るメンバー以外は練習しない…なんてことはありません。そういう意味では、「今日はバンドで音出しができないから帰宅する」という発想は野球部にはないでしょう。何もかもを文化部と運動部で同期させようとは言いませんが、同じ「部活動」という視点で軽音楽部を見直してみると、日々の練習の方法や内容に工夫できる部分があるのではないかと思います。バンド単位での勝ち負けではなく、部活動としての活動を目指すのであれば、運動部から学ぶことは少なくありません。一度、周囲の部活動を見渡してみることも大切かもしれません。

では、また次号で…。



編集長 三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長
日本部活動学会（JASECA）理事
株式会社ミュージックネットワーク 代表取締役
mitani@keionkyo.org
Twitter @yoshiyukimitani



軽音協



軽音楽部 Magazine
VOL.64 電子版



YouTube
チャンネル

軽音楽部 Magazine

令和5年8月発行 VOL.65

次号予告

特集

◎サウンドチェックの作法(仮)

イベント・カレンダー

特定非営利活動法人 (NPO 法人)

全国学校軽音楽部協会

info@keionkyo.org



KEI O N G A K U B U S E M I N A R

軽音学ぶセミナー

軽音楽部に関する基礎知識や実技を一挙に学べる

7/16 (日) 大阪府

大阪音楽大学
パート別レッスン、バンドクリニックなど

7/23 (日) 神奈川県

昭和音楽大学
GarageBand 講座

8/3 (木) 富山県

富山県立富山工業高等学校
パート別レッスン、バンドクリニックなど



KEI O N G O D O E N S O U K A I

軽音合同演奏会

練習の成果を発表し、他校からも学べる練習試合

7/15 (土) 京都府

舞鶴赤れんがパーク (舞鶴市)

8/25 (金)~27 (日) 石川県

林西寺 (白山／白峰地区)



高等学校軽音楽コンテスト

第6回 近畿北陸大会

7/30 (日) 京都府

第13回 愛知県大会

8/1 (火) 愛知県

第8回 中部大会

8/2 (水) 愛知県

第3回 関東大会

8/24 (木) 東京都

2,040校に
無料配布中!

本誌を配布希望の軽音楽系部活動様は、お手数ですが、軽音協事務局までご連絡ください。
TEL 045-913-0901
MAIL info@keionkyo.org

本誌に関する
ご意見ご感想

本誌に関するご意見、ご感想、ご質問、取り上げて欲しいテーマ、お悩み相談、イベント案内など、軽音楽系部活動に関する各種情報は軽音協事務局まで…。

公式LINE
アカウント

本誌発行やイベント・カレンダーに掲載の情報をリアルタイムで入手できるように軽音協の公式アカウントに友達申請を行ってください。

参加希望と
バックナンバー

セミナー／イベントに参加希望の場合は、顧問の先生を經由して参加してください。また、本誌のバックナンバーは軽音協のホームページにあります。

6

4108	横濱市	三浦学院高等学校 経営者委員会	4202	茨城県	地玉国立深谷高等学校 経営者委員会
4109	横濱市	湘南学院高等学校 キーパート	4203	茨城県	地玉国立深谷第一高等学校 経営者委員会
4169	横濱市	神奈川県立横浜国立高等学校 経営者部	4257	茨城県	正治高等学校 経営者部
4777	横濱市	神奈川県立横浜国立高等学校 経営者部	4185	茨城県	地玉国立川崎高等学校 現任キーパート
6773	横濱市	神奈川県立横浜国立高等学校 現任音楽部	4184	茨城県	地玉国立川崎高等学校 キーパート
6800	横濱市	神奈川県立横浜国立高等学校 経営者部	4186	茨城県	地玉国立川崎女子高等学校 フォーク (軽音楽部)
6888	横濱市	神奈川県立横浜国立高等学校 経営者部	4187	茨城県	地玉国立川崎女子高等学校 キーパート
6889	横濱市	神奈川県立横浜国立高等学校 フォーミング部	4187	茨城県	地玉国立川崎女子高等学校 キーパート
6801	海老名市	神奈川県立海老名高等学校 フォーミング部	4247	茨城県	山手野田高等学校 経営者部
4123	海老名市	神奈川県立海老名高等学校 キーパート	4248	茨城県	山手野田高等学校 経営者部
4079	海老名市	神奈川県立海老名高等学校 経営者部	4235	茨城県	川崎市立川崎高等学校 経営者部
6766	鎌倉市	栄光学園高等学校 Rock Music 愛好会	4172	茨城県	地玉国立川崎工業高等学校 経営者委員会
6803	鎌倉市	神奈川県立鎌倉高等学校 経営者部	4246	茨城県	地玉国立川崎工業高等学校 フォーミング部
6804	鎌倉市	神奈川県立鎌倉高等学校 日音楽	4173	茨城県	地玉国立川崎工業高等学校 経営者部
6833	鎌倉市	神奈川県立七尾川高等学校 経営者部	4171	茨城県	地玉国立川崎工業高等学校 経営者部
6849	鎌倉市	神奈川県立七尾川高等学校 経営者部	4212	茨城県	地玉国立川崎工業高等学校 経営者部
4086	鎌倉市	神奈川県立大船渡高等学校 経営者部	4213	茨城県	地玉国立川崎工業高等学校 経営者部
6862	鎌倉市	清風女子学院高等学校 経営者部	4181	朝阳市	地玉国立朝陽高等学校 キーパート
6807	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 経営者部	9481	朝阳市	地玉国立朝陽高等学校 キーパート
4120	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎女子高等学校 経営者部	4182	朝阳市	地玉国立朝陽高等学校 キーパート
4121	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎女子高等学校 経営者部	4195	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6893	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎女子高等学校 経営者部	4224	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6821	茅ヶ崎市	茅ヶ崎中央高等学校 経営者部	4263	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
4076	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 経営者部	4263	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6819	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 経営者部	6711	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
4077	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 経営者部	4192	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6822	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 経営者部	9488	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 キーパート
6808	高座郡	神奈川県立高座高等学校 経営者部	4214	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6827	高座郡	神奈川県立高座高等学校 経営者部	4193	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
4105	高座郡	神奈川県立高座高等学校 経営者部	4253	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
4100	高座郡	神奈川県立高座高等学校 経営者部	6712	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6908	三浦市	三浦市立三浦高等学校 経営者部	4254	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6909	三浦市	三浦市立三浦高等学校 経営者部	6726	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6760	小田原市	相模工業高等学校 経営者部	4226	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6836	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	6726	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6837	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4226	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
4087	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4228	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
4114	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4229	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6884	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4230	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6885	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4261	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
4131	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4178	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6886	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4186	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6858	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4256	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
4113	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4256	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6785	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 経営者部	4222	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6814	川崎市	横浜国立大学高等学校 キーパート	4174	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6823	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	4242	茨城県	地玉国立朝陽高等学校 経営者部
6834	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5158	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
6847	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5160	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
4112	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5162	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
6862	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5163	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
4080	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5168	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
6869	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5168	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
4039	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5168	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
4119	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5168	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
4118	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5168	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
4144	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5171	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
6913	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5176	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
6819	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 経営者部	5178	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
6870	川崎市	川崎市立城島高等学校 経営者部	5180	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部
4094	川崎市	川崎市立城島高等学校 経営者部	5182	埼玉県	千葉国立工業高等学校 経営者部

4420	水戸市	茨城県立水戸第一高等学校 軽音楽部	7266	松本市	長野県松本工業高等学校 軽音楽部
5420	水戸市	茨城県立水戸第一高等学校 軽音楽部	7264	松本市	長野県松本工業高等学校 軽音楽部
5426	水戸市	茨城県立水戸第二高等学校 軽音楽部	7265	松本市	長野県松本工業高等学校 FMC 部
5433	水戸市	茨城県立水戸第二高等学校 軽音楽部	7266	上伊豆郡	長野県上伊豆高等学校 軽音楽部
5425	水戸市	茨城県立水戸第三高等学校 軽音楽部	7282	上伊豆郡	長野県上伊豆高等学校 軽音楽部
5531	水戸市	茨城県立水戸第三高等学校 軽音楽部	7227	上田市	上田市高等学校 軽音楽部
5421	水戸市	水戸立総合高等学校 軽音楽部	7347	上田市	上田市高等学校 軽音楽部
5429	水戸市	茨城県立水戸第三高等学校 軽音楽部	7267	上田市	長野県上田市高等学校 現代音楽部
5431	水戸市	水戸市音楽高等学校 軽音楽部	7268	上田市	長野県上田市高等学校 軽音楽部
5435	石岡市	茨城県立石岡第一高等学校 クラブ	7363	上田市	長野県上田市高等学校 軽音楽部 フォーク組
5438	石岡市	茨城県立石岡第二高等学校 軽音楽部	7270	上田市	長野県上田市高等学校 軽音楽部
5453	土浦市	つくば国際大学高等学校 軽音楽部	7252	土浦市	茨城県土浦市高等学校 軽音楽部
5446	土浦市	茨城県立土浦第一高等学校 軽音楽部	7300	土浦市	茨城県土浦市高等学校 軽音楽部
5447	土浦市	茨城県立土浦第二高等学校 軽音楽部	7305	土浦市	茨城県土浦市高等学校 (バンド部)
5452	土浦市	常陸短期大学 軽音楽部	7271	土浦市	茨城県土浦市高等学校 軽音楽部
5454	土浦市	本郷高等学校 軽音楽部	7272	土浦市	茨城県土浦市高等学校 フォークソング部
5451	土浦市	土浦大学 軽音楽部 (バンド部)	7273	土浦市	茨城県土浦市高等学校 現代音楽部
5456	土浦市	茨城県立土浦第三高等学校 軽音楽部	7275	土浦市	茨城県土浦市高等学校 FMC 部
5457	土浦市	茨城県立土浦第三高等学校 軽音楽部	7274	土浦市	茨城県土浦市高等学校 軽音楽部
5466	日立市	茨城県日立第一高等学校 軽音楽部	7241	千曲市	長野県千曲高等学校 軽音楽部
5464	日立市	茨城県日立第二高等学校 軽音楽部	7242	千曲市	長野県千曲高等学校 フォークソング部
5460	日立市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7280	千曲市	長野県千曲高等学校 軽音楽部
5463	日立市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7285	中津市	長野県中津市立総合高等学校 軽音楽部
5468	日立市	明秀学園日立高等学校 フォークソング部	7253	長野市	長野県中津市立総合高等学校 フォーク部
5470	長野市	長野県長野第一高等学校 軽音楽部	7259	長野市	長野県長野第一高等学校 軽音楽部
5474	長野市	長野県長野第二高等学校 軽音楽部	7259	長野市	長野県長野第二高等学校 ミュージック部
5475	長野市	長野県長野第三高等学校 軽音楽部	7286	長野市	長野県長野第三高等学校 軽音楽部
5473	長野市	長野県長野第四高等学校 軽音楽部	7287	長野市	長野県長野第四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六高等学校 フォークソング部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第二十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第三十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第四十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第五十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第六十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第七十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第八十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第九十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百零九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百一十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百二十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百三十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百四十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十六高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十七高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十八高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百五十九高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百六十高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百六十一高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百六十二高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百六十三高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百六十四高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288	長野市	長野県長野第一百六十五高等学校 軽音楽部
5476	長野市	茨城県日立第三高等学校 軽音楽部	7288		

7827	東京都	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	7972	高橋市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5949	明石市	兵部立明石高等学校 音楽部	8739	高知市	高知市立高知東高等学校 軽音楽部同好会
7828	東京都	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	8024	高橋市	大府立大冠高等学校 軽音楽部	9517	明石市	明石工業高等学校 音楽部	8742	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7829	東京都	三浦立三浦高等学校 オルゴールソング部	8076	高橋市	大府立大冠高等学校 軽音楽部	■新設部	■新設部	■新設部	8743	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部同好会
7831	津市	青山高等学校 軽音楽部	8078	高橋市	大府立大冠高等学校 軽音楽部	5952	岐阜市	岐阜市立岐阜高等学校 軽音楽部	8744	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部同好会
7834	津市	青山高等学校 いびんクラブ部	7952	津市	賢賢学院中学校 軽音楽部	5963	岐阜市	岐阜市立岐阜高等学校 軽音楽部	8764	高知市	太平洋高等学校 軽音楽部
7833	飯盛部	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	4277	津市	青丘（ハル）高等学校 軽音楽部	5962	岐阜市	岐阜市立岐阜高等学校 軽音楽部	8769	高知市	土佐高等学校 軽音楽部
7840	津市	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	8025	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5965	岐阜市	岐阜市立岐阜高等学校 軽音楽部	8771	高知市	土佐高等学校 軽音楽部
7817	津市	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	8075	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5967	西野部	岐阜市立大冠高等学校 軽音楽部	8771	高知市	土佐高等学校 軽音楽部
7819	津市	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	7966	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5969	五條市	岐阜市立五條高等学校 軽音楽部	8754	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7823	津市	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	8023	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5973	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8761	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7839	津市	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	7967	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5979	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8764	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
9512	津市	三浦立三浦高等学校 軽音楽部	7968	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5977	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8763	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7851	愛媛県	道後立道後高等学校 軽音楽部	8020	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5987	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7898	近江川市	道後立道後高等学校 軽音楽部	8081	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5987	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7852	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	8089	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5987	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7884	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	8097	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5991	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7865	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	8105	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	6005	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7890	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	8111	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	6007	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7882	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	8115	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	6008	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7885	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	4270	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	6002	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7887	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	4301	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	6003	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7888	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	4300	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	6010	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7893	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	4265	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5986	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7902	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	5089	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5989	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7901	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	5197	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	5989	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7890	長浜市	道後立道後高等学校 軽音楽部	4294	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8162	伊都部	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7897	長浜市	道後立道後高等学校 軽音楽部	4271	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8162	伊都部	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7828	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	4297	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8146	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7902	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	4279	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8146	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7906	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	7987	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8178	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
7909	津市	道後立道後高等学校 軽音楽部	8006	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8154	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
■新設部	■新設部	■新設部	8087	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8154	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5642	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8089	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8178	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5643	東京都	京成府立船橋高等学校 フォークソング部	8116	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5645	津市	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5647	津市	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5648	津市	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5656	津市	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5654	津市	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5657	津市	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5664	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5665	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市	高知市立高知高等学校 軽音楽部	8721	高知市	高知市立高知高等学校 軽音楽部
5673	東京都	京成府立船橋高等学校 軽音楽部	8084	津市	大府立三島高等学校 軽音楽部	8175	津市				

高志保 博孝

大阪大学大学院修了後、リーマン・ブラザーズに入社し金利デリバティブトレーダーに従事。その後、外資系証券会社を経て、2018年（株）スマートホテルソリューションズ代表取締役就任。2022年（一社）サトヤマカイギ代表理事就任。

部活動と人

ワクワクを共存できる関係を築く

高志保 博孝

一般社団法人サトヤマカイギ 代表理事 / 株式会社スマートホテルソリューションズ 代表取締役社長

「部活動と人」では、高校時代に打ち込んだ部活動が、将来どのように役に立つのかをいろいろな分野で活動中の方々に伺います。今回は、株式会社スマートホテルソリューションズ代表取締役社長であり、一般社団法人サトヤマカイギの代表理事もされている高志保代表に、高校生時代の部活動の経験から現在取り組まれている事業にどのような影響を与えたのかを伺いました。（聞き手…三谷佳之／全国学校軽音楽部協会理事・本誌編集長）

■社会で活躍されている方々に「部活動は将来のためになるよ」ということを発信していくコーナーです。どのようにご紹介したら良いでしょうか。

高志保…どうでしょう（笑）。一般社団法人サトヤマカイギの代表理事をしています。サトヤマカイギは、日本の精神文化を見直し、和を持って尊しの共存とツナグを敬う持続性の本質を探る体験の場です。北陸の霊峰・白山の麓にある白峰地域から始まり、伊豆、焼津と活動が広がっています。軽音協さんと同じように、若い人につなげていくとか、人間同士が連携することなどが目的です。実際に「部活」って言い方をしているんです。例えば、会社で隣の部署がものすごく忙しくしているようなら、「あそこ大変そうだね…」で終わると思うんですが、部活で「僕はディフェンスなんでフォワードのことは知りません、やりません」ってならないと思うんです。事業が部署とかで分断されていて、人間て大人になると自分で考えたり人との関わりを大切にしなければいけない気がして…。そういうのをなくしていこうというのもサトヤマカイ

ギの一環です。地域の連携とか、損得勘定じゃない生き方とか。

■会社も運営されていますよね。

高志保…はい。メインの事業としては「スマートホテルソリューションズ」という株式会社の代表取締役社長をやっています。ホテルのシステム開発の会社で、ホテルの宿泊業務を徹底省力することをミッションとして、人間が本来すべきではない遂行業務をなくすことを目標としています。グループ内にシステムの会社がベトナムにあたりとか、全体でいうと150名ぐらいの会社です。月のうち一週間ぐらいは横浜の事務所にいるんですが、その他は出張や新しい地域にいつて仕事している感じです。

■高校時代は部活動をされていましたか

高志保…学生時代は野球部一筋でした。野球部って、監督がいてカチツと指導するっていうイメージがありますが、僕はそういうのからはハミ出ちゃうタイプで…。問題児でしたよ。辞めようとしたこともありましたが、その時は同級の仲間が止めてくれました。みんな相談にはいっぱい乗ってくれましたね。僕は小学校の頃から団体行動が苦手で、主張を曲げないから「自分勝手」と評価されることも多かったように思います。成績表には「集団行動苦手」「人の話を聞かない」「自分勝手」といつも書かれていましたし。野球部では監督というのありました。でも納得できないことはやれなかったんですね。やる気のない態度になったり、それが顔に出るので先生も鬱陶しかったんだろうと思います。でも、好きな野球

を通じてチームメイトや仲間と出会えたことは部活動をやっていて良かったことの1つです。いろいろなことを学び、経験することができました。軽音楽部のように、自分で考えてみんなで決めて……という部活動をしたことはないですが、これからの時代に合う人材育成の場にもなる気がします。応援していきたいですね。

■社会に出てからはどうでしたか。

高志保…自分の言いたいことをちゃんと言うとか、自分が思ったことをきちんと表現するってことは、社会に出てから役に立っています。適当に他人の言うことに合わせないというのは、僕を正當に評価してくれる人たちが集まるためのフィルターになっています。表面的に人に合わせたりしないので楽ですし、表面的に生きている人が近寄ってこないで面倒くさくない。そういうのって大事だと思います。世間では、大人になることが「上手に生きること」みたいな評価になっていると感じることがあります。でも、そんな表面的に取りつくるって会議に参加しているだけ、みたいなもので人生にとって無駄じゃないですか。何かやりたいことがあるとか、それを主張したら協力してくれる人が増えるとか、その方がなんか「生きて」ますよね。今、会社でストレス症状が出るなど感じる社員には、「思いつくこと全部やってごらん」って言っています。

■近年は特にデジタルチックにみんな同じような考え方や感性が多くなっているように感じます。でも、表面的じゃない生き方

てなかなか勇気が要ります。

高志保…サトヤマカイギで出会う高校生などにも、よく自分の感性をもっと信じてあげてと言っています。先生や親に媚びないで欲しいし、やりたいことをちゃんと表現して欲しい。僕も、かつてはうまくやれませんでした。自分が信じていることを大事にしてきたおかげで、社会人になってからも良いことがたくさんありました。メッセージとしては「いいからもっと自分の感性を信じて！」と伝えたいです。フォーマットにとらわれず、フレームワークにはまらないというか、それで良いんだと思っ

■高校以降はどうされていたのですか。

高志保…高校時代は朝から部活だったので、大学受験には間に合わないなと思い、自分で浪人することを決めてたんです。2年計画で挑みました。ただ、真っ直ぐに勝負していたのでは追いつかないとも思っていたので、最初の頃は成績が良い人の勉強方法を研究していました。実際の勉強を一切せずに（笑）。それが功を奏したのかはわかりませんが、結局は大阪大学に入学して大学院までいきました。でも、普通じゃ面白くないと思って、大学院まで行って文系就職する人はほとんどいないと思うんですけど、外資系のトレーディング会社に就職しました。ろくに英語も喋れないのにアメリカに研修にいかにされて大変でしたが、そんな時は日本人同士で助け合ったりして。違った

視点で現状を見て、みんながアイデアを出し合えば乗り越えられます。フォーマットにとらわれていると想像力の幅も広がりにせんからね。そんなことも、学校の授業ではなく部活動で培ったものかもしれません。

■とはいえ、周りとのコミュニケーションも大事です。軽音楽部もバンドというチームでの活動がメインです。

高志保…若者にはよく「好きなようにしなさい」と言うんですが、大自然の中で好き勝手やってたら死んじゃうんですよ。その中で共存しなくちゃいけない。自分の存在が他人にとってもメリットがあるようにしないと生きていけないんです。それが前提の「好きなように」なんです。失敗することもあると思いますが、そこから学ぶこともあります。好き勝手やっていたらいつの間にか一人ぼっちになっていたとか、それって周りからしたら面白くない存在だったってことです。初めはやりたいたいことがあったから一緒にいてくれたのに、いつの間にか自分のやりたいことだけになってたなあとか。そういうた失敗を繰り返すことも大事な気がします。

■学生時代には、いろいろな経験をしたいですね。近年は人とのコミュニケーションが苦手という子供も増えていきます。

高志保…入り口が「合わせること」ばっかりになってるんじゃないかと思うんです。私たちは自然界の人間なので、だからこそ感性を大事にして欲しい。道で人が血を流して倒れていたら助けるじゃないですか。でも、会社のフレームワークに入ったら「助

けなくて良い」ってなるんです。大人になったら「人間」じゃなくなっていくんです。人間としての感性を大事にしながら共存を目指して欲しい。単に合わせるだけの関係はワクワクしませんから、ワクワクを共存できる関係を築いていくことを部活動で学んで欲しいと思います。

■最後に軽音楽部の生徒たちに何かメッセージをお願いします。

高志保…大人もそうですけど、最近では自分で感じたことなどをインターネットでわざわざ確かめて、その挙句に「そうか違うのか」って自分を捨てたりすることも多いと思うんです。でもネットに書いてあることって誰がどんな意図で書いたかわからないのに、そっちを信じてめっちゃくちゃ虚しくないですか。自分が感じたことや思ったことを大事にして欲しいです。今はテクノロジーが発達して、周りとは違ってデコボコしてるのはいけないことだみたいな感じもあって、それに苦しんでいる人も多いと思うんですけど、これからはデコボコが必要になってくる時代です。均一化の良いことはみんなAIやシステムがやってくれますから、人間としての感性を大事にしてください。田植えするとか、山に登るとか、雨に降られるとか、自然が相手だと大変です。予定通り、予測通りいかないことだらけですから。でもそういうたことを経験することも大事なんだと思います。夏に行われる白山サトヤマカイギ奉納祭では、「自然とツナグ」だけをテーマに軽音楽部の高校生が演奏してくれます。上手に、よりも思ったことを表現して欲しいですね。



ライブ本番までに 3つの準備

軽音楽部での活動や楽器の演奏をする上で、目標の1つとなるのが「ライブ」です。夏はただでさえ各地で大会やコンテストが多くなる季節。新入部員の1年生にとっては待ちに待った初めての「本番」という人も多いでしょう。ライブはその名の通り泣いても笑っても一発勝負。悔いのないステージを万全の体制で迎えるために、しっかりとした準備をして本番に臨みましょう！

プレイヤーとして

＝余裕を持つための準備

本番に向けてメンタル的な余裕を持つためには、早めにメロディと歌詞を覚えることが一番です。メロディと歌詞が早くから頭に入っていれば、発声やリズム、合奏、感情を含めた細かい表現といった「歌うこと」に意識を持っていくことができます。

歌詞を覚えるには自分で「書く」ことが効果的です。同時に「プレス」の位置や歌い方などを書き込んでおくと、やるべきことが明確になっていきます。正確なメロディで歌えるように、ピアノアプリなどで音程確認をしておくといいでしょう。何となくではなく、歌のピッチが安定します。また、ボーカルの入るタイミングをきちんと把握することも大事です。イントロは何小節で歌が入るのか…などをしっかりと理解しておきましょう。

本番では歌うだけではなく、フロントマンとして客席に気を配りながらライブを盛り上げることもボーカリストの大事な役割です。楽器も演奏する人は覚えることが多



いので、早めに「やること」を覚えてしまいましょう。

＝機材の扱い

ボーカリストは、基本的にマイクとマイクスタンドが唯一の機材です。楽器を弾きながら歌う人は、マイクスタンドの位置や高さ、角度をシミュレーションして自分のベストなセッティングを見つけておきましょう。ハンドマイクの場合は、マイクの持ち方も普段から気をつけてお

かなくてはなりません。普段の練習場所とライブ会場では音響の環境が違います。マイクのグリル部分を覆うように握ったり、モニタースピーカーにマイクを向けたりしてハウリングを起こさないように普段から十分に注意しておきましょう。

学校にモニタースピーカーがあるなら、自分の声の返り具合を試しておくことと本番でも怖くありません。自分の声や他の楽器がどのくらい聴こえていれば歌いやすいかを知っておくと、サウンドチェックの時に指示しやすくなります。

＝体調管理

体が楽器であるボーカリストが最も気をつけなければいけないのは体調管理です。風邪などをひかないようにすることはもちろん、喉のケアも忘れずに行いましょう。

本番の日が近くなったら大声で騒いだりせず、よく睡眠を取り、辛い物など刺激の強いものは控えましょう。また、本番直前の練習で頑張っておきすぎて喉が枯れてしまうこともあるので注意しましょう。

＝フレーズのチェック

本番でベストなプレイをするためには、できるだけ反復練習をして体で覚えていくしかありません。何度もミスしてしまうフレーズは本番でも間違える可能性が高いので、その部分だけ集中して繰り返し練習しましょう。しかし、それでも弾けないフレーズは余裕を持って弾けるフレーズに変えてしまうのも1つの方法です。これは逃げではなく、いわゆる「リスクマネージメント」というものです。

ギターソロやテーマメロディを弾く場合は、フレーズの最初と最後をよく練習しておきましょう。気持ち良くフレーズに入れたり綺麗に終わることができれば、結果として楽曲全体も良い印象になります。

＝音作り

ギターアンプは、できれば普段の練習から本番と同じ機種を使用してツマミの位置を決めておきましょう。エフェクターを使う場合も、練習中にしっかりと音作りをし



ておくことはもちろんですが、スイッチングするのであれば各音色のボリューム設定も忘れずしておきましょう。また、おろそかにされがちなのが音色を切り替えるタイミングです。小節の頭なのか、弾き始める1拍前なのか…。切り替えもフレーズの1つだと捉えて練習しておきましょう。

しかし、どんなに準備や調整をしても、本番のステージでは聴こえ方が変わります。すぐに微調整ができるように、アンプやエフェクターのことをきちんと理解し

ておきましょう。エフェクターを借りたり使い回したりするのはやめておいた方が無難です。自分が使い慣れているものでなければトラブルに素早く対処できません。

エフェクターを使う場合は、出番前にできる限りエフェクターボードに組んでおいて、ボードごとステージへ持って行けるようにしておくことでセッティングが早くなります。シミュレーションしておきましょう。

＝楽器の状態

弦は本番の前日に張り替えておきましょう。張り替えたならチューニングが安定するまで弾いて、弦をよく伸ばしておきます。しかし、それでも温度差によってチューニングは安定しないので、ステージが上がったら何度もチェックしましょう。また、張り替えたばかりの弦でも切れることがあるので、予備の弦の持参は必須です。

その他、接続ジャックやシールドケーブルといった電気系統の接触不良や、ネックの反りなどの楽器の状態も事前にチェックしておきましょう。

＝フレーズのチェック

ベースは、リズムとコード（和音）の両方でボトムを支える、アンサンブルにとって重要なパートです。自分のことだけにとられず、他のメンバーの音にも意識を向けられることが大切です。

具体的には、コード（和音）に対して自分が弾いている音が間違っていないか、ドラムが出すリズムやフレーズとのコンビネーションは悪くないか…などを、何度もチェックしましょう。

既存曲の場合、難しいテクニックが駆使されていることもあります。練習を怠らないようにすることはもちろんですが、どうしても弾けないフレーズは思いきって簡単にしてしまうことも、ミスが目立つベースには有効な手段といえます。

＝機材の準備

ライブでは複数のベーシストが同じベースアンプを使います。サウンドチェックで作った音色や音量は忘れないようにメモシ



たり写真に撮っておきましょう。

広い会場になるとシールドケーブルをアンプではなく、DI（ダイレクトボックス）につなぎます。これは、音響スタッフに任せておけば良いことで、自分で用意するものではありませんが、初めて使用する場合は使い方や音の聴こえ方、注意点などを先輩に聞いておきましょう。

エフェクターを使うのであれば、あらかじめ普段の練習の時に音作りをしておき、ライブ当日は微調整程度に留めましょう。

事前の音作りを終えたら、蛍光シールなどで目盛りをマーキングしておく見えやすく便利です。また、本番で使わないエフェクター類は外しておきましょう。音の劣化が軽減されます。

＝楽器の状態

弦は手汗や皮脂などで劣化し、徐々に音にハリがなくなります。弦の新しさによる音の違いには好みがあるので交換の時期は人それぞれですが、交換したばかりの弦はチューニングが狂いやすいので、演奏する前に何度も確認するようにしましょう。また、念のために予備の弦は必ず準備しておくことで安心です。

楽器は使うにつれて状態が変わります。本番当日に音が出なくなってしまった…ということにならないように、本番日が近づいて少しでも心配なことがあれば、楽器店に持って行って見てもらいましょう。シールドケーブルの断線やジャックの接触不良もよくあります。楽器と同じように普段から大切に扱いましょう。

＝テンポとフレーズ

まずドラマーが必ずやっておくべきことは、演奏する楽曲のテンポを確認できるようにしておくことです。本番では緊張や焦りからテンポ感がおかしくなってしまうことがあります。

普段の練習の時から演奏前には必ずメトロノームで確認するようにして、できれば本番前も確認できる準備をしておきましょう。個人練習でもメトロノームに合わせて練習をして、ズレてしまう部分を重点的に修正しておきましょう。

本番が近づいて、どうしても叩けないパターンやフィルインは、無理なく叩けるフレーズに変えてしまうことも、バンド全体のことを思えば間違いではありません。

＝セッティングの確認

ライブで使うドラムセットは、普段のものと違うことも多いと思います。セッティングしづらかったり叩きにくく感じることもあるかもしれません。なるべくいつもと同じよう



に調整したいところですが、はっきり言ってこの部分は諦めるしかありません。せめて、本番で使用するドラムセットのタムのインチと深さ、タムホルダーの形状、シンバルの数などを事前に確認しておき、できるものは前もってシミュレーションしておくで安心です。

持ち込み機材が多いと転換に時間がかかります。あまり叩かない小物はセッティングリストから外すなど、持ち込み機材をなるべく少なくしていくことも選択肢の1つです。

セッティングにどのくらい時間がかかるのかを事前に測って、効率の良いセットチェンジの練習もしておきましょう。

反対に、演奏面で最も影響するペダルは自分のものを持参の方が良いでしょう。使い回しのペダルを好みに調整している時間はありません。普段使っているものを使えなければ購入も視野に入れておきましょう。また、スネアを持ち込むのであれば、打面ヘッドは前日に張り替えて少し叩いておくと皮が馴染みます。

＝音量のバランス

大きな会場ではドラムにもマイクを立てます。叩く音量が小さ過ぎるとマイクが音を拾わなかったり、突然大きな音を出すとスピーカーが壊れてしまう可能性もあり、音量の加減が大切です。普段からバランスの良い音量での演奏を心がけましょう。

また、スネアを叩いた時のサウンドの安定度、3点（スネア、バスドラム、ハイハット）の音量バランス、フィルインの音量などもチェックしておきましょう。

＝フレーズの整理

既存曲をコピーする場合、たくさんキーボードのフレーズが入っていて、どうしても演奏できない場合があります。また、高度なテクニックが必要で再現できないことも多いと思います。全体像を把握して、セクションごとに必要なフレーズを取捨選択したり、どうしたら不自然ではなく似た感じに聴こえさせられるかを検討しておきましょう。スプリット機能を使ったりフレーズを簡素化するなど、有効な手段を考えて早めに整理しておくことで、やることははっきりして練習に臨めます。

複数の音色を連続して変えなければならない時も、なるべく音が途切れないようにスイッチングできる方法を考える必要があります。ボタンを押すタイミングを見つけれれば良いのですが、ペダル類を使って操作する方法もあります。また、本番は立って演奏するのであれば普段から立って練習しておきましょう。



＝音作りの整理

キーボードの事前準備には音作りが不可欠です。例えば、ピアノの音色で演奏をする場合、楽器にプリセットされているすべての音色で弾いて確かめ、バンド練習時に内蔵エフェクターやイコライザーを使って音色を整えていきます。使う音色すべてを同様に試しておきましょう。

演奏で使う音色が決まったら整理しておきます。作った音色や音量を保存できる機種の場合は、リネームしてライブで使う順

にセーブしておく便利です。

本番で会場のキーボードを使用する場合は、必ず事前に機種をリサーチしてUSBメモリなどで自作の音色を取り込めるのかを確認しておきましょう。取り込めない場合は当日の音色作りに時間がかからないように、事前に楽器店で本番と同じ機種を触ったり操作を調べておけば安心です。

＝セッティングの確認

本番の会場ではキーボードスタンドが使い慣れていない機種な場合があるので、事前にスタンドの種類も確認しておきましょう。普段使っているものを持ち込めればベストです。当日のセッティングは高さ調整以外にも、電源コードを挿す、シールドケーブルをDI（ダイレクトボックス）につなぐ、ペダル類を準備する、音色を確かめる…とたくさんあります。普段から素早くできるようにしておきましょう。

大きな会場ではステレオで出力することが一般的です。なるべく普段の練習の時からステレオで出力するようにしましょう。

アンサンブルとして

バンドやユニットで演奏する利点は「1人ではない」ということです。メンバー同士で助け合い、おぎない合うことで演奏が「1+1=2」以上のものになります。しかし、逆に言えば1人ひとりが個々にどんなに頑張っても、全員でまとまった「合奏」ができていなければ良い音楽にはなりません。本番までに、個々の技術力を活かした「全員で音楽する」ことの最終確認をしましょう。

音量のバランスを取る

普段の練習場所とライブ本番のステージでは、広さや部屋の共鳴、使用機材などが違うため、当然ながら自分たちが出すサウンドや聴こえ方は変わります。大会や広いステージに慣れていれば予測をつけて音作りをしておくこともできますが、経験の少ない人にとっては未知の世界です。

しかし、どちらにしても当日の微調整は必要となります。例えば、ギターのエフェクターのかかり具合、ベースとバスドラムの低音域のマッチング、キーボードの音色ごとの聴こえ方、スネアの響き具合…などは、サウンドチェック時と本番とでも変わります。普段から、ギターアンプやベースアンプ、マイクやキーボードを入力しているミキサー、ドラム全体のチューニングなど、各パートの音量や音色のバランスを常に注意して、演奏しながらでも微調整できるようになることを目指しましょう。

音色や音量のバランスは、セクションによっても変える必要があります。例えば、ギターはコード弾きからソロなどの単音になるだけでも、音圧に差が出て音が小さく

なったように聴こえてしまいます。物足りないと感じたら、音色を変えたり音量を上げたりするためのエフェクターを用意したり、マルチエフェクターを使用する場合は変化がつかないように設定をしておきましょう。

キーボードは演奏が片手でも何とかなるのであれば、慣れないうちはボリュームペダルよりも楽器のマスターボリュームをいじってしまった方が繊細に表現できると思います。

他にも、キーボードによるメインリフのメロディやドラムのフィルインなど、音量や音色がおかしくないかをメンバー同士で互いにチェックし合っておきましょう。

リズムを合わせる

ドラムとベースは「リズム隊」と呼ばれ



▲ライブは「合奏」を披露する場です。力を1つに合わせよう

ますが、バンドのグルーヴはドラムとベースだけで作るものではありません。それぞれが良いリズムで演奏できることが理想ですが、最終的にはドラムとベースによって作り出されているリズムの土台に、ギターやキーボードなどの他の楽器が乗り、さらにその上でそれらを従えてボーカリストが歌うという図式になります。

それぞれのパートが自分のやるべきことをしっかりと行いつつ、どこかで他のメンバーのことも意識していなければいけません。まずは、すべてのパートに唯一共通しているをメンバー全員で共有しましょう。



▲録音や録画をしてみて、客観的に音量やリズムが合っているかをチェック



▲良いアンサンブルに有効なのは、メンバー同士でたくさん話し合うこと

ドラマチックさの演出を確認

良いアンサンブルのポイントは、技術的なことやリズムを合わせることだけではありません。メンバー間で気持ちが1つになっていることが最も重要です。歌詞の意味、楽曲のイメージや世界観、伝えたいメッセージなどが全員で共有されているかを確認しましょう。

ポイントは、そのイメージを音量のダイナミクスで表現できているかです。サビはどのくらい盛り上がるのか、対してAメロはどのくらい抑えるのか…。セクションごとに決めた演出がきちんとできているか、そして、そのつなぎ目もドラマチックになっているかも確認しましょう。

「通し練習」で最終チェック

ライブ本番の日が近づいたら、本番のステージを想定して、セットチェンジから演奏終了後の片付けまでを含めた一連の流れをそのまま通して行ってみましょう。どんなタイミングで演奏を始めるのか、ギターソロはギタリストがステージの前に出るのか、エンディングでは何か決めポーズを作るのか…など、台本を書くように細かく行動を決めておいても良いでしょう。

大会や演奏会のルールに従って時間通りに素早くセッティングすることはとても重要です。大会であれば、時間オーバーは失格になる可能性もあります。時間を測って何度もシミュレーションしておきましょう。そうすることで、当日は慌てることなくステージ

に向き合うことができます。余裕を持った演奏ができます。

また、演奏前にボーカリストが何か喋るのであれば、同じように行っておきます。ステージに上がると頭が真っ白になるなんてことはよくあります。話す内容、演奏を始めるタイミング、最初の1

音を出すまでの立ち姿…。歌番組に出ているような気持ちでオープニングの演出を考えましょう。もちろん、何もしなくても構いませんが、ステージに上がった瞬間からもう観客はこっちを見ているということを忘れてはいけません。それは演奏が終わってからも同じです。ステージを降りるまでをしっかりと自己プロデュースしましょう。

スマートフォンやタブレットなどで動画を撮影して、客席からはどんな風に見えるのかを意識したり、軽音楽部のバンド同士で意見交換をして修正点を指摘しあうといった練習を繰り返すと効果的です。

サウンドチェックの準備

ほとんどの場合、ライブ本番前には「サウンドチェック」を行います。誤解している人も多いのですが、サウンドチェックは本番前の練習時間ではありません。演奏者が良い環境で本番を迎えられるように、音響スタッフがバンドが出す音を確認したり、



▲ライブはスタッフとの共同作業。有意義なサウンドチェックが成功への鍵

照明スタッフがバンドのステージングや演奏に合わせた照明を確認する時間です。

注意点は、「本番でやることをそのままやる」「サウンドチェックでやらなかったことは本番でやらない」ということです。例えば、本番でギターソロの時に音量を大きくするのであればサウンドチェックの時にやっておかなくてはなりません。予定外のことを本番で突然やってしまうとスタッフに迷惑がかり、機材トラブルの原因にもなります。ライブは演奏者とスタッフの共同作業です。その気持ちを込めて、お互いに元気よく「よろしくお願いします!」と挨拶しましょう。

そして、サウンドチェックは演奏者のための確認時間でもあります。セッティングの調整、音量や音色の最終的な調整、モニタースピーカーの調整などを行います。イベントによってはサウンドチェックの時間がごく短い場合もあります。普段の練習時に楽曲のどの部分を演奏すれば音響スタッフがわかりやすいか、何をチェックしておけば良いのか…など、スムーズに進めるための準備をしておきましょう。



モニタースピーカーに慣れておこう

ステージで各メンバーの足元にある「モニタースピーカー」は、自分の音や他パートの音を返してもらって自分の演奏や合奏をしやすいするためのものです。モニターの音作りのコツは、返す音をなるべく少なくして必要なものを返してもらうことです。慣れていないと難しいかもしれませんが、ステージの中を演奏しやすい環境にすることを目指しましょう。

できれば、ボーカリストは普段の部活動でモニタースピーカーを使っていた方がベストです。常にモニター環境を気にして、音量、スピーカーの向き、イコライジングなどを調整していると、本番のサウンドチェックでも好みのモニターが素早く作れるでしょう。演奏中でも修正の指示が出せるぐらいが理想です。



▲モニタースピーカーの調整も大切なポイントの1つ

ステージングとして

大会では演奏力だけではなく、元気良く若さ溢れる高校生らしいパフォーマンスが賞の獲得につながることもあります。しかし、大会に限らず、ライブ本番では自分の演奏やバンドのアンサンブルが崩れないように注意しながら、客席に対する「視覚的な表現」も求められます。本番への最終調整として、ステージングの準備も怠らないようにしておきましょう。

一体感を「演出」する

ステージング、ライブパフォーマンスなどいろいろな言い方をしますが、ライブでは視覚的な表現も大事です。ライブ経験が少ない人は、恥ずかしかったり自分の演奏で精一杯になってしまうかもしれませんが、まずは無理なくできることからやっていきましょう。

ステージングのキーワードは「一体感」です。メンバー全員が一丸となってステージを作り上げる、その一体感を意識すればアンサンブルはまとまり、バンドとしてのトータルサウンドも良いものになっていきます。可能であれば、一体感の演出として「衣装」を合わせることも効果的です。

表情、目線を考える

楽曲には、歌詞やアレンジに「感情」が含まれています。楽しい、悲しい、切ない、嬉しい、怒り、希望、失望、迷い…。楽曲の中でその感情が変化していくことも多いでしょう。それを歌（歌詞）や楽器の演奏という耳からの情報だけではなく、目からも訴えかけていくことが「ステージング」です。

歌詞や感情に添った表情をすることはとて

も効果的です。特に、目元や口の動きは重要で、それはボーカリストだけではなくメンバー全員が考えておくべきポイントです。

大事なのは目線です。しっかりと前を向いて客席に歌詞のやメッセージを届けられるように、練習時から会場の広さを想定したステージングを心がけておきましょう。特に楽器陣はずっとネックや鍵盤を見てしまいがちなので気をつけましょう。

動きを考える

イントロやサビの前など「ここぞ！」という時にはドラムの方を見たり、キメ、シンコペーションなどのリズムに変化が起きる箇所には全員で体の動きを合わせることも、バンドの一体感として映ります。

自分では大きく動いているつもりでも、撮った動画を見返すと意外とこじんまりしていた…なんてこともよくあります。歌ったり演奏している時に自分がどう見えてい



▲本番を想定した「ライブ練習」をしておくと、ステージでも余裕が出る

るのかを何度も確認しておきましょう。とはいえ、慣れていないのであれば無理に大袈裟なパフォーマンスを考える必要はありません。全員がしっかりとリズムに乗れて共有できていれば、その体の動きだけでバンドの躍動感が出ます。

本番ではモニタースピーカーやマイクスタンドがあるので、自分の立ち位置からあまり動けなくなってしまいます。少しオーバー目にアクションするぐらいが見ている方には自然に見えます。また、ギターソロでステージの前に出たり、ボーカリストがステージを大きく使ったりすることで、観客の目線は動き、ワイドなパフォーマンスに見せることができます。



照明でステージングがレベルアップ！

本番のステージに照明がある場合は、ステージング演出のプランに組み入れましょう。事前に配布されているセッティング図に「全体的に青っぽく」「Aメロは薄暗い中でボーカルにピンスポットを」「ラストはリズムに合わせてピカピカして」といっ

たリクエストを書き込んでおきましょう。もちろん、できることには制限がありますが、実は「お任せします！」という優しさが一番困ってしまう注文なのです。



▲照明のイメージもみんなで話し合おう

バンド練習から校内ライブまで使える 音響&照明機材



軽音楽部の活動に必要なものはギターやベース、ドラムやアンプだけではありません。ボーカルやキーボードの音声を拡散する「音響機材」やステージでのライブを演出するための「照明機材」など、バンド練習やライブを行うのに欠かせない機材や備品があります。

音響や照明の機材は時代と共に進化を続け、どんどん扱いやすくなっています。特に音響機材はシーンを問わずに使用できるものが多いので、使い回せるものを最大限に活用しつつ、練習環境や発表場所に適した機材を揃えるのが賢明と言えます。

そこで、今回は楽器をはじめ、音響機材や照明機器をリーズナブルな価格で提供する国内最大級のオンラインショップ「サウンドハウス」で取り扱いのあるアイテムを例に、バンド練習から校内ライブまで使える機材を見ていきましょう。

音響&照明機材の基本的な構成

吹奏楽部や合唱部と異なり、私たち軽音楽部に所属するバンドは「電気」を使って演奏します。ギターやベースはアンプやエフェクターに接続して音を作り、ボーカルやキーボードはミキサーに電気信号を送り、音を増幅させるパワーアンプを経由して、スピーカーで拡散します。

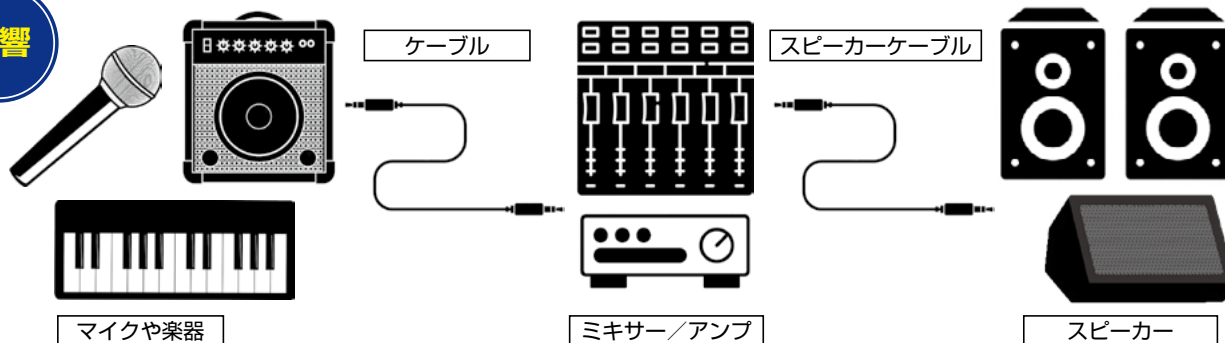
一方、アコースティックな楽器であるドラムは、普段の練習時はマイクを立てずに演奏しますが、演奏する会場によってはバスドラムやスネアドラム、ハイハットなどにマイクを立てて、音を集音します。

観客に音を届けるための「PA スピーカー」と、ボーカルが自分の声を聴く（モニタリ

ングする）ための「ボーカルモニター（スピーカー）」は最低限揃えておきたい音響機材の1つです。演奏会場が視聴覚室→講堂→体育館と大きくなるにつれて、ボーカル以外のメンバーもモニタリングをするための「楽器用モニター（PA スピーカーで代用可）」をはじめ、ベースやキーボードの音質劣化を防ぐための機材（DI）が必要になるなど、演奏する場所の規模や目的によって、揃えておきたい音響機材は変わります。接続するマイクケーブルやスピーカーの本数によってミキサーに搭載されている「チャンネル数」も変わるので、活動規模や予算に合った機材を揃えるようにしましょう。

また、校内ライブや文化祭をはじめとする発表の場では、「照明」もステージの演出に欠かせません。特に本番の演奏では照明の色味やパターンの切り替えなど、視覚的な「演出」を考えることも大事な表現の1つです。音響機材と同様に視聴覚室や体育館など、会場の広さによって用意する機材は異なりますが、いずれにせよプロの現場で使われているようなものは必要ありません。はじめて照明機材を導入する際に扱いやすく、灯体やスタンド、リモコンやフットスイッチなどがセットになった「簡易照明システム」も各社から販売されているので、ぜひチェックしてみてください。

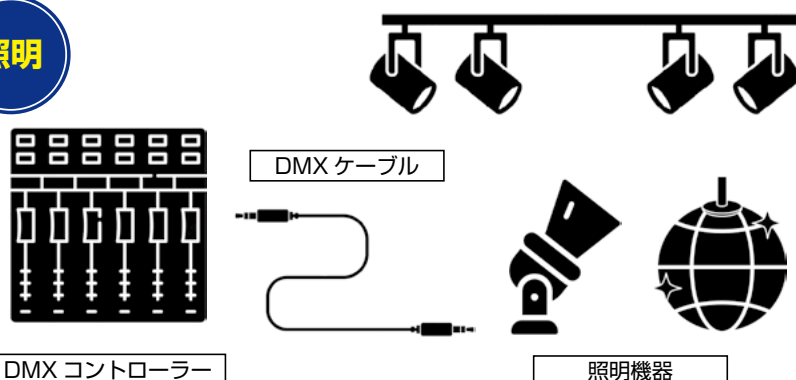
音響



ボーカルや楽器演奏による空気振動はマイク（マイクロフォン）によって電気信号化され、シールドケーブルを経由してミキサーに送られます。ミキサーでは、楽器やボーカルのバランスを整えたり（ミックス）、音質を加工したのちに電気信号をパワーアンプへと送ります。その後、

パワーアンプを経由して増幅させた電気信号を PA スピーカーやモニタースピーカーに送り、電気信号を再び空気振動に変換し、スピーカーから拡散しているのです。なお、近年は機材のデジタル化が進み、低コストや軽量化に加え、操作性の向上や利便性も高くなっています。

照明



DMX 対応の照明器具と DMX コントローラーを接続することで、それぞれの灯体の調光や調色、操作を制御することができます。「DMX」とは、DMX512（Digital Multiplex with 512 pieces of Information）の略称で、照明器具の調光や調色などの制御を行うための通信規格を意味します。なお、接続には専用の「DMX ケーブル」を使用しますが、一般的なマイクケーブルと似ており、間違えて接続すると誤動作や故障につながるため、必ず専用のケーブルを用意しましょう。

電気楽器に欠かせない音響機材



ボーカルやコーラス、キーボードをはじめ、アンプやドラムセットまで、それぞれの音声を集音／拡散したり、演奏しやすい環境を整えるには音響機材が欠かせません。視聴覚室や中規模の会場でのライブを例に必要な機材を確認しましょう。

① マイクロフォン

一般教室くらいの広さであれば、ドラムは生音で（マイクを立てない）、ギターやベースはそれぞれのアンプから出る音で練習やライブが行えますが、ボーカルやコーラスはマイクを使用し、ミキサーに音声信号を送らなくてははいけません。

会場が広くなれば、もちろんアンプやドラムにもマイクを立てる必要があります。本来はボーカルやアンプ、シンバル類など、楽器や用途に適したマイクが販売されていますが、こだわりなどがなければ、ボーカル用のダイナミックマイクで統一すれば大丈夫です。

ちなみに、ボーカリストは昨今の衛生面の観点から自分用のマイク（マイマイク）を用意するケースが多くなりました。購入する際はマイク正面からの收音が得意で、

耐久性にも優れている「ダイナミックマイク」を選びましょう。



① AKG / D5 ダイナミックマイク
¥9,780（税込）

② マイクスタンド

楽器を演奏しながら歌うバンド（メンバー）も少なくありません。その際のマイクスタンドは「ストレート」タイプではなく、角度や長さを自由に調整できる「ブーム」タイプを選択しましょう。ボーカルやコーラスだけでなく、ドラムやアンプの音を拾

う際もマイクを使用しますが、その場合のスタンドもブームタイプがオススメです。



② CLASSIC PRO / MSB/BLACK
ブームマイクスタンド ¥1,980（税込）

③ ミキサー

ミキサーはマイクケーブルやシールドケーブルを伝って送られてきた電気信号を

まとめ、文字通り、ミックス（整理）してスピーカーに送る機材です。まさに、音響機材の「心臓部」と言えます。普段の練習ではボーカルやコーラス、キーボード、アコースティックギターなどの信号を入力できるチャンネル数を持つコンパクトなミキサーで十分ですが、演奏会場によってはアンプやドラムの音を集音し、拡散するケースもあり、その際は16チャンネル程度のミキサーがあると安心です。

ミキサーには、音声信号を増幅させるためのアンプが内蔵された「パワードタイプ」もありますが、スピーカーをアンプが内蔵されたモデルにすれば、パワードタイプのミキサーは必要ありません。また、軽音楽部では豊富な機能を誇り、高価な「デジタルミキサー」よりも安価で直感的に扱える「アナログミキサー」が根強い人気です。



③ BEHRINGER / XENYX QX2222USB
アナログミキサー ¥47,800（税込）

④ DI（ダイレクトボックス）

ベースやキーボード、アコースティックギターの電気信号をミキサーに送る際、ステージとミキサーを設置する場所が遠くなってしまう場合はノイズの軽減とインピーダンス（交流回路の電圧と電流の比）を下げる目的で、「DI（ダイレクトボックス）」



④ CLASSIC PRO / CDI-2P
ステレオDI ¥3,580（税込）

を使用します。普段の練習時には必要ありませんが、ホールや体育館などの広い会場で演奏する際に必須となる機材の1つです。

⑤ マルチケーブル

大きな会場で演奏する際は何本ものマイクケーブルをミキサーに接続することになります。そこで便利なのが「マルチケーブル」です。たくさんのマイクケーブルをステージ側でまとめて、ミキサーへと配線することができる機材で、ステージ上がスッキリとします。ケーブルでごちゃごちゃになっているステージは移動の際に危険だけでなく、ミキサーに接続するチャンネルの間違いや混乱の原因にもなるので、マイクケーブルの本数が多く、乱雑に感じてきたら、マルチケーブルの導入を検討しましょう。



⑤ CLASSIC PRO / MULTILINK 12/4-20
マルチケーブル ¥19,000（税込）

⑥ PAスピーカー&スタンド

PAとは「Public Address」の頭文字で、大衆に届ける「放送設備」全般を指します。軽音楽部においては、観客に向けたスピーカー（音響システム）がそれにあたります。一般教室や視聴覚室くらいの部屋であれば、さほど大きなPAシステムを用意する必要はなく、ボーカルや楽器の音がバランスよく聴こえれば、十分と言えます。

なお、PAスピーカーには音声信号を増幅させるためのアンプが内蔵された「パワードタイプ」のものが 있습니다。③のミキサーがアンプを内蔵していないモデルの場合はパワードタイプのPAスピーカーを選択するようにしましょう。また、背丈よりも高い位置にPAスピーカーがあると遠くの観客にまで音を届けられるので、スピーカー

スタンドの用意も欠かせません。



⑥左 CLASSIC PRO / CSP12P PA
スピーカー ¥39,800（税込）

⑥右 CLASSIC PRO / SPS/BLACK
スピーカースタンド ¥3,780（税込）

⑦ モニタースピーカー

モニタースピーカーは自分が奏でている音や他のメンバーの音を聴くため（モニタリングする）ために必要なスピーカーです。ライブでは全パート分のモニタースピーカーが揃っているのが理想で、演奏者は音響担当者にモニタースピーカーから出して欲しい音やバランスを伝えることで、演奏しやすい環境を作ります。

ボーカリストは普段の練習時からモニタースピーカーの扱いや環境に慣れておくことが大切で、それが結果として、ライブ本番にベストな状態で臨めることにつながります。ちなみに、PAスピーカーをモニタースピーカーとして使用することもできるので、同一のモデルを少し多めに揃えておけば、バンド練習からライブ本番まで、用途に応じて使い分けられます。



⑦ PAスピーカーをフロア用（足元）のモニタースピーカーとして使用しているケース。各パートのメンバーの立ち位置に合わせて向きを調整しよう

ライブ感が断然アがる照明機材



練習の成果を発揮する本番のステージにおいて、照明も欠かせない機材の1つです。曲調に合わせて色味を変えたり、タイミングを合わせるなど、目でも耳でも楽しめるのがライブの醍醐味と言えます。早速、照明について見ていきましょう。

① 灯体（パーライトなど）

従来までの灯体（照明器具）は本体が重く、使用時に熱くなりがちでしたが、LED電球が当たり前になり、グッと身近なものになりました。

最も代表的なのは「PAR（パー）ライト」と呼ばれるアルミニウム製の反射鏡を用い

た照明です。光がまっすぐに飛ぶので、芝居の舞台や音楽をはじめとするコンサートで多く使われています。スタンドに取り付けて角度や向きを調節したり、床に設置することで客席や演者も照らせるなど、自由なセッティングが可能です。

他にも、光の方向を自由に操作できる「ムービング」タイプや床に置いておくだ

けでミラーボールのような演出が楽しめる「センターピース」タイプも軽音楽部のライブ演奏時に効果を発揮します。例えば、ムービングライトはスポットライトとして、ボーカリストやギターソロを弾くギタリストを照らしたり、バラード調の曲でセンターピースをミラーボール風に使えば、効果抜群です。



▲ STAGE EVOLUTION / LEDPAR12 LED
パーライト ¥31,800（税込）



▲ STAGE EVOLUTION / MINI SPOT 10
¥13,800（税込）



▲ STAGE EVOLUTION / TWINKLE BALL DMX
センターピース ¥4,980（税込）

② DMX コントローラー

照明器具の調光や調色などの制御を行うための通信規格である「DMX」に対応しているモデルであれば、付属のリモコンやフットスイッチを使用することで、ある程度は操作することができます。しかし、各社から販売されている「DMX コントローラー」に各灯体を接続すれば、より細かな操作や設定の保存、呼び出しが可能になるのです。

このDMX コントローラーには、大きく分けて「調光向け」と「エフェクト向け」があります。軽音楽部をはじめとする学校の現場であれば、コントローラーのチャンネル数は、さほど多くはなくても問題ないので、チャンネル数と同じ数のフェーダーとボタンで操作することができるなど、使用方法が比較的簡単な「調光向け」タイプがオススメです。音響機材のミキサーと同ような操作感でコントロールができます。



▲ STAGE EVOLUTION / SCENESETTER NEO DMX コントローラー
¥25,800 円 (税込)

音響&照明の基礎用語と注意事項【ケーブル編】

① アース

音響機材や照明機材の他にも、冷蔵庫や電子レンジなどの電化製品には「アース」が付いています。これは安全のため、電子機器や使用電圧の高い器具に取り付けることになっているものです。コンセントの先からコードが出ているタイプや3本目の端子があるコンセントなど、仕様はさまざまです。延長コードを選ぶ際もアースが付いているかどうかを確認してみましょう。



② ケーブルの種類

一般的にギターやベースなどの楽器の接続に使用しているケーブルは「TS フォン」や「モノラル標準ジャック」と呼ばれるものです。また、ボーカル用のマイクなどに

は「キャノンケーブル」と称される「XLR ケーブル」が使われています。前者は基本的に「アンバランス構造」になっていますが、後者は「バランス構造」なので、ノイズに強いほか、ロックが付いているので、抜けにくく、丈夫にできています。



▲ XLR ケーブル

▲ TS フォンケーブル

③ スピーカーケーブル

ヘッド部とキャビネット（スピーカー）部が分かれている、セパレートタイプのギターアンプやベースアンプでは、両者を接続するスピーカーケーブルが使われています。一見すると、両方の端子がTS フォンなので、楽器用のケーブルと同じだと思わ

れがちですが、両者は流れる電気の量が1,000 倍も違います。絶対に間違えて接続することのないように気をつけましょう。

④ DMX ケーブル

DMX に対応した照明機材を接続するには「DMX ケーブル」が必要です。現時点では、見た目がマイク用のXLR ケーブルと同様に「3 ピン」になっているものがほとんどですが、両者は規定されているインピーダンスに違いがあるなど、仕様や用途が異なります。簡単に言うと、音響用のケーブルを照明機材に使用すると電流が多く流れるので、火災になる危険性が高くなったり、反対に照明用のケーブルを音響機材に使用するとノイズが多くなってしまいます。機材に適したケーブルを使用しましょう。



▲ DMX ケーブル

楽器をはじめ、音響機材や照明機器から各種スタンドからケースまで、豊富な商品群をリーズナブルな価格で提供する国内最大級のオンラインショップ！今すぐホームページをチェック！

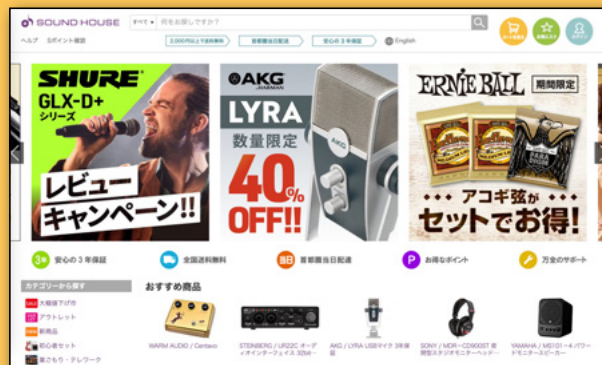
<https://www.soundhouse.co.jp/>

株式会社サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3

平日：10:00～17:00 土曜：12:00～17:00

お問い合わせ TEL：0570-02-8888





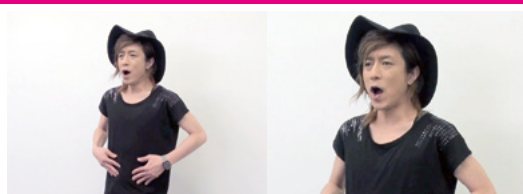
読んで学べる 実技レッスン

ボーカル ③ ボーカルのリズム・トレーニング

STEP1 : 4分音符・8分音符でリズム・キープ

STEP2 : 裏拍でリズム・キープ

Tips : 西洋と東洋のリズム感の違い

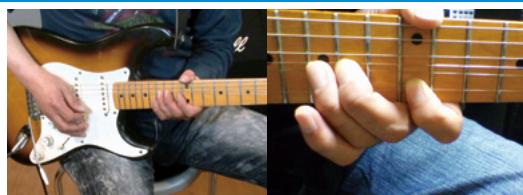


ギター ③ 「チョーキング」を極めよう！

STEP1 : チョーキングをスムーズに行うコツ

STEP2 : チョーキングのバリエーションを覚えよう

Tips : 「チョーキング」と「ベンディング」

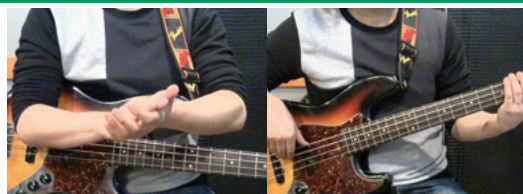


ベース ③ ワンランク上のメトロノーム・トレーニング

STEP1 : メトロノームを「裏」に感じる

STEP2 : 裏拍でのリズム・トレーニング

Tips : 一味違うメトロノーム活用法

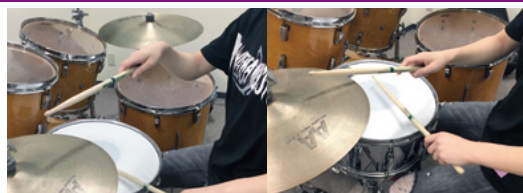


ドラム ③ 「8ビート」の基礎練習

STEP1 : 「4ウェイ」と「アップ・ダウン」

STEP2 : 繰り返すフレーズと変化するフレーズ

Tips : 「8ビート」って言うのは日本だけ！？

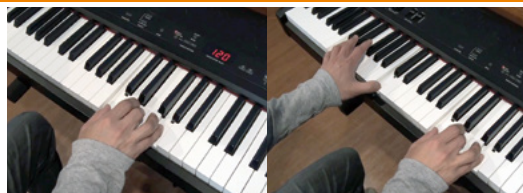


キーボード ③ チェンジ・アップ

STEP1 : 正しく拍を感じて、タイミング良く演奏…

STEP2 : 音の長さ、休符を組み合わせる演奏する

Tips : 日常の中にあるリズム





ボーカル ③

ボーカルのリズム・トレーニング

ロック風、ポップス風、R&B 風と、歌い方には様々なスタイルがありますが、どのジャンルの歌い方にも求められるテクニックとして、「4 分音符や 8 分音符でリズム・キープする」とこと、「裏拍でリズム・キープする」ことが挙げられます。この 2 つをマスターすれば、どんなジャンルにも役立ちます。(文・伊丹谷良介)

STEP 1

4 分音符・8 分音符でリズム・キープ

歌唱テクニックで重要なポイントは「発声力」と「リズム感」です。ボーカリストには、正しい発声できた上に、それを音楽に乗せて歌う「リズム感」が必要です。リズム感が乏しければ、せっかくの良い発声力も台無しになってしまいます。特に、最近の J-POP や J-ROCK には、リズム感のスキルが求められる曲が多くなっています。発声力と同時にリズム感のスキルも磨きましょう。

4 分音符のトレーニング

まず、4 分音符を「いち・にい・さん・しい」と発声せず、「one・two・three・four」と英語の発音読みの感覚で発声できるようにしましょう。なぜかと言うと、日本語は「母音」の言語なので、ひらがなの時の文字数を見てもわかるように「い」と「ち」の 2 つの音がセットになっているため、1 つの音符では発声しにくいからです。これでは鋭くはっきりとした 4 分音符を発声することはできません。

かといって、「ワーン・トゥー・スウリー・フォー」と、カタカナ読みで発声しては意味がありません。例えば、「one」は「ワン」と発声せず、「ワッ」くらいのひとかたまりの音のイメージで発声すれば、正確なタイミングで発声することができます。カタカナ表記で書くと、「ワッ・トゥッ・ツリッ・フォッ」くらいの感覚がちょうど良いでしょう。それができたら、メトロノームなどを鳴らして、好きなテン



譜例 1 声を遠くに飛ばすように、大きな声でジャスト・タイミングで発声しよう



譜例 2 録音して正確なリズムで発声できているかを確認すると、より効果的

ポに合わせて 4 分音符のカウントを発声してみよう (譜例 1)。

8 分音符のトレーニング

次に、8 分音符のトレーニングです。8 つの音を 4 分音符と同じように、ひとかたまりの音のイメージで「ワッ・トゥッ・ツリッ・フォッ・ファイ・シッ・セッ・エイッ」というように、メトロノームなどに合わせて発声してみてください (譜例 2)。4 分音符より音符が細かいので、最初は遅めの J = 80 くらいのテンポでトレーニングすると良いでしょう。何となく行うのではなく、必ず「録音」して、メトロノームとジャスト・タイミングで発声できているかを確認しながら行いましょう。

このトレーニングは、腹式呼吸を使った声で

行った方がより効果があります。ゆっくりなテンポから徐々に速くしていくなど、様々なテンポでのトレーニングを心がけましょう。



▲リズム・トレーニングの時でも、声を出す場合は腹式呼吸で行おう

STEP 2

裏拍でリズム・キープ

J-ROCK や J-POP は、洋楽に強く影響を受けているため、「裏拍」にアクセントのあるリズム・アレンジがほとんどです。また、メロディーもリズムに対してアクセントが作られているため、日本語の歌詞でも英語のような裏拍のリズム感があり、それを歌いこなすスキルがボーカリストに求められることになります。

日本語の日常会話には「裏拍のリズム感」がないため、ついつい日本語のリズム感である「表拍」のアクセントで歌ってしまいがちです。ポピュラー・ミュージックを歌うためには、裏拍のリズム・トレーニングをすることが重要です。

8 分音符の偶数（裏拍）

まず、STEP1 に習って「8 分音符」をしっかりと発声します。次にその 8 分音符の奇数（表拍）「1、3、5、7」を小さな声で、偶数（裏拍）「2、4、6、8」を大きな声で発声します（譜例 3）。おそらく、奇数だけよりも偶数だけを大きな声で発声する方が難しいはず。慣れるまで何度も何度も練習してみてください。ポイントは根気よく、しぶとくテンポに合わせて反復することです。繰り返して発声していると、だんだんリズムに乗って発声しやすくなってくると思います。

スムーズにリズムに乗ってできるようになったら、次は奇数を発声せず、偶数だけをテンポに合わせて大きな声で発声してみましょう。メ



譜例 3 偶数の裏拍だけにアクセントを付けて発声してみよう



譜例 4 「4 分音符」「8 分音符」「8 分音符の裏拍」の 3 小節を何度も繰り返して練習しよう

トロノームなどを使って、焦らずにゆっくりなテンポから始めてください。

パルス・チェンジで練習

8 分音符の裏拍だけを発声できるようになったら、「4 分音符」→「8 分音符」→「8 分音符の裏拍」を繰り返しテンポに合わせて発声する練習を行います（譜例 4）。この時、8 分音符の裏拍は「1、2、3、4」に置き換えて発声します。おそらく「8 分音符の裏拍」から「4 分音符」に切り替わるタイミングで、リズムがひっくり返ってしまいがちになるのではないかと思います。それは裏拍を体で取れていないから起こることなので、地道に練習を繰り返しましょう。

これができれば、自然な裏拍が体に染みついて、どんな曲でもいろいろなリズム感に対応できるようになります。このトレーニングも、ゆっくりなテンポからだんだんテンポ・アップさせていくように練習しましょう。



Tips!

西洋と東洋のリズム感の違い

「リズム感」において、西洋人と東洋人には大きな違いがあります。例えば、カタコトで日本語を喋る外国人のアクセントを聞いてみると、彼らの喋る日本語には大きく分けて 2 種類の「訛り」があることがわかります。東洋の外国人は「コン（強）ニチ（弱）ワァ（強）」と表拍のアクセントで訛り、西洋の外国人は「コン（弱）ニチ（強）ワ（弱）」と裏拍のアクセントで訛ります。東洋の中国語や韓国語はアクセ

ントが表拍で、西洋の英語やフランス語はアクセントが裏拍のため、そういった訛りの癖が出るのです。

現代の音楽は、西洋で生まれた音楽をもとに作られているので、東洋人が裏拍で歌にくいのは当然とも言えます。日本人を含め、東洋人は西洋のリズム感に合わせたメロディーを歌えるように、しっかりとリズム・トレーニングすることが不可欠だということです。



▲訛るのは表拍？裏拍？会話もリズム



ギター ③

「チョーキング」を極めよう！

「チョーキング」は、フレーズに組み込むことで躍動感を与え、表情にバリエーションをつけることができる、ギターならではの奏法です。フレーズを生かすも殺すもチョーキング次第！ギターをよりかっこ良く弾くためにも、自在にチョーキングが扱えるようになることを目指しましょう。(文・岩尾 徹)

STEP

1

チョーキングをスムーズに行うコツ

チョーキングとは、弦を指で押し上げたりして音程を変化させるテクニックです。初心者にとっては少し難しく感じるかもしれませんが、握力がない人にとっては苦手な奏法の1つかもしれません。しかし、チョーキングはちょっとしたツボを押さえれば、必ずスムーズにできるようになります。

チョーキングの基本動作

チョーキングは「弦を引っ張る」動作なので、何も考えずに行くとそれなりに力が必要となります。力が入るということは「力む」ということにつながるので、演奏上あまり良いことはありません。チョーキングはいかに力を使わずに行うかが大事なのです。

まずは、チョーキングをする時のネックを握るフォームにポイントがあります。親指をネックの上部に軽く引っ掛けるイメージで握り(写真1)、残りの指を指板に軽く添えてみてください。ネックの下部に人差し指の付け根あたりが触れると



写真1 親指は軽くネックに引っ掛ける感じ

思うので、そこを支点として親指の位置はそのままの状態の手首を動かします(写真2)。これがチョーキングの基本動作となります。例えとして「ドアノブを握って回す動作」をイメージすると良いとも言われるように、指で弦を引き上げるのではなく、指はなるべくそのままの状態で、「手首」でチョーキングするようにします。

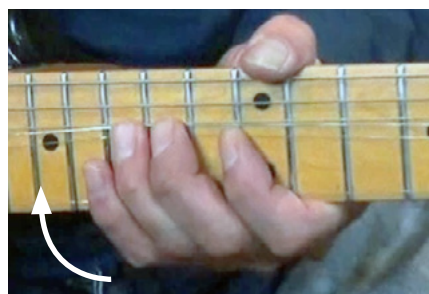
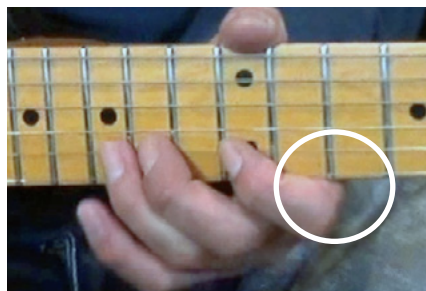


写真2 ○印の部分を支点にして、指はあまり動かさず手首を動かすように

また、人差し指でチョーキングする場合を除いては、押さえる指は1本ではなく必ず2本以上を添えて行うことが大事です(写真3)。一連の動作をスムーズに行うには慣れが必要なので、一度にマスターしようとはせず「日頃から意識して弾く」くらいの気持ちで続けていきましょう。

「チョーキング」は、フレーズに組み込むことで躍動感を与え、表情にバリエーションをつけることができる、ギターならではの奏法です。フレーズを生かすも殺すもチョーキング次第！ギターをよりかっこ良く弾くためにも、自在にチョーキングが扱えるようになることを目指しましょう。(文・岩尾 徹)



写真3 指と指との間隔が離れないように注意

ピッチ(音程)を意識する

チョーキングを手の感覚だけで行ってしまうのはいけません。ギターはメーカーによってスケールが違います。スケールとはナットからブリッジまでの長さのことです。「長さが違う」ということは「弦のテンション(張力)が違う」ということになります。手の感覚だけでチョーキングをしてしまうと、弦のテンションが変わった時に対応できず、ピッチが高くなったり低くなったりして安定しません。また、弦のゲージ(太さ)が変わっても同様なことが起きます。

日頃から、チョーキングして出した音程を耳で確かめるようにしましょう。例えば、2弦15フレットのDの音(レ)を、1音チョーキングするとEの音(ミ)になります。この時、2弦17フレットのEの音を弾いてみて、音程が一致していればOKです。

STEP 2

チョーキングのバリエーションを覚えよう

チョーキングは、ただ弦を引っ張って音程を上げるものではありません。「弦を引っ張り上げ、そして下げる（戻す）」という過程を意識して工夫することで、フレーズに様々な表情をつけられるようになります。

「速さ」をコントロールする

チョーキングで弦を上げる時間をコントロールすることによって、音を出した時の聴こえ方が変わります。例えば、Eの音（ミ）を出すために3弦7フレットのDの音（レ）を1音チョーキングした場合、上げるスピードをコントロールすることによって、譜例1のように聴こえ

方が変化します。ゆっくり上げることはできると思うので、まずはできる限り「素早く上げる」ことを目標として練習していきましょう。

ある程度、素早く弦を上げられるようになったら、メトロノームを使って練習していきましょう。テンポはゆっくりで構わないので、メトロノームの一定のリズムがある中で、チョーキングをした過程が音符として表記できるぐらい、しっかりとコントロールしてみてください。力ずくで上げたり指だけで上げたりすると、素早く上げるのはもちろんのこと、スピードをコントロールすることは難しくなります。STEP1で練習したように、手首を使って手全体で上げるようにしましょう。



チョーキングを「ミュート」する

チョーキングして弦を上げ下げする時の音をミュートすることによって、さらに表情豊かなフレーズになります。「ミュート」とは音を出さないようにすることで、今回の場合はピックで弦に軽く触れると良いでしょう。譜例2のようにミュートしないでチョーキングを行う原形から、下げる時の音をミュートした場合（譜例2の例1）、上げる時の音をミュートした場合（譜例2の例2）と、同じ音をチョーキングしてもミュートをするだけで聴こえてくるフレーズは大きく変化します。

楽曲のフレーズをコピーする時、チョーキングをどのように処理しているのかをよく聴いて、それを忠実に守って弾いていくことで、ミュートするタイミングや自分なりのやりやすい方法が見つかるでしょう。



譜例1 チョーキングの上げるスピードを変える



譜例2 ミュートの仕方でフレーズが変わる

Tips!

「チョーキング」と「ベンディング」

バンド・スコアなどで、チョーキングの動作を「ベンディング (bending, bend)」と表記されているのを見たことはありませんか。実は、チョーキングという表記は日本独特のものなのです。英語圏では、「弦を曲げる」という意味からベンディングと呼ばれています。確かにチョーキングのチョークは「締める」という意味なので、行っている動作と何も関連性がないですよ。日本でなぜそう呼ばれるように

なったのかははっきりとはわかりませんが、同じ意味なので迷わないように注意してください。

チョーキングの楽譜での表記方法も、「Cho.」「C.」「D.」（チョーキング・ダウン）、「H.C.」（ハーフ・チョーキング）…など、いろいろな書き方があります。音符で音程を確認したり、実際に原曲を聴いて耳でも判断するようにしましょう。



▲英語圏では、弦を「曲げる」と言う



ベース ③

ワンランク上の メトロノーム・トレーニング

練習の時などに使用する「メトロノーム」は、自宅での個人練習にもバンドのリズム強化の練習にも使える、とても重要なアイテムです。ワンランク上のメトロノーム・トレーニングで、音楽に大切な「テンポ」や「グルーブ」に強くなり、ベーシストとしてさらなる技術向上を目指しましょう。(文・山田潤一)

STEP 1

メトロノームを「裏」に感じる

リズムには「表拍」と「裏拍」があります。表拍とはリズムを取った際の1、2、3、4の部分で、裏拍とはその間のことを言います。音楽的に言うと、8分音符を弾いた時の奇数を表拍、偶数を裏拍と呼びます。通常、メトロノームを使った練習ではクリック音を表拍と捉えて行うことが多いと思うのですが、今回はワンランク上のメトロノーム・トレーニングとして、裏拍と捉えて行うトレーニング方法を紹介します。裏拍を感じることで、リズムを細かく取れるようになり、演奏が安定します。

裏拍の取り方

実際に楽器で練習する前に、まずは裏拍に慣れるための練習をしましょう。メトロノームのテンポを♩ = 80ほどの速さに設定して、クリック音に合わせて「1、2、3、4」と声でカウントしながら、数字のちょうど「間」の場所に手拍子をしてください。1→手拍子→2→手拍子→3→手拍子→4→手拍子…といった感じです(譜例1)。しっかりと8分音符になっているかがポイントなので、連続した8分音符のフレーズを弾いていることをイメージしながら行ってください。体全体でリズムを感じられるように、メトロノームが鳴っている表拍に「足踏み」も付け加えるとさらに良いでしょう。

次に、この感覚を忘れないようにしながら、手拍子が表拍、メトロノームが裏拍にくるように半拍ズラします。メトロノームを自分で「裏

拍に感じる」ようにして、数字のカウントと手拍子が表拍にくるようにします(譜例2)。慣れるまでは大変かもしれませんが、頑張って挑戦してみてください。練習する時は、表拍に足と手拍子の両方でビートをしっかりと取り、メトロノームが鳴る裏拍は、手を開いて足を上げた状態になるように意識しましょう。自分が手を叩いてカウントする時に、メトロノームが鳴っていない状態であれば正解です。

裏拍を取りながらベースを弾く

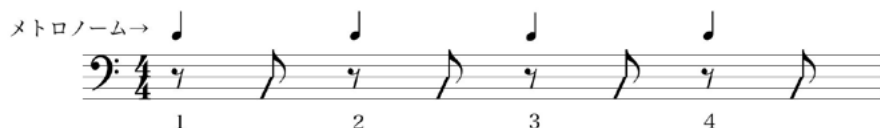
メトロノームの裏取りに慣れてきたら、ベースを使って練習します。まずは、3弦3フレットのCの音(ド)を、8分音符で♩ = 70~80ぐらいのテンポで弾いてみます。慣れないうちは意外と難しいものですが、足でリズムを取って、足を上げるタイミングがメトロノームと合うように意識しながら行ってください。練



▲手拍子だけではなく、表拍は足踏みをしよう

習時には必ずレコーダーなどで録音して、自分のプレイを聴き返しましょう。裏拍と自分が弾いている場所がズレていないか、しっかりと確認してください。

さらに、裏拍にアクセントをつけたり、裏拍だけ弾いてみる…など、8分音符に変化をつけると、より効果的な練習になります。また、運指練習などの普段の基礎トレーニングにもぜひ取り入れてみてください。



譜例1 「1 and 2 and 3 and 4 and…」と、裏拍部分を「and」と声に出して手拍子をしてみよう



譜例2 メトロノームと足を上げるタイミングが一緒になるように意識しよう

STEP 2

裏拍でのリズム・トレーニング

最近の楽曲は、曲中でリズムが変化したり、様々なジャンルの音楽が混ざっているアレンジが増えていきます。そういった多種多様なリズムに対応するためには、裏拍を感じながらのフレーズ・トレーニングが重要となってきます。裏拍を取ることに慣れてない人は、大抵の場合、演奏中の体の動きがぎこちなくなってしまう。日頃、音楽を聴く時から裏拍を意識していくことも大切です。

有名な「Don't think, Feel ! (考えるな、感じる!)」という言葉がありますが、裏拍を取ることも同様で、考えるのではなく「感じる」ことが大事です。最終的には、意識しなくても自然に裏拍を取れていることが目標です。

4 分音符と 8 分音符の練習

では、メトロノームを裏に感じながら、実際にフレーズを弾く練習をしていきましょう。譜例 3 は 4 分音符だけの単純なフレーズですが、メトロノームを裏にして弾くとメトロノームと合うところがないので意外と難しいものです。ポイントは、足で表拍をしっかりと踏み、打点を作った上で裏を感じることです。

譜例 4 は 8 分音符のフレーズですが、2 拍目と 4 拍目の表拍はシンコペーションなので演奏しません。しっかりと足で 4 分音符のリズムを踏んで、自分でビートを出すように意識

しましょう。また、裏拍には常に音符があるので、自分の弾いているタイミングとメトロノームが一致するように心がけて弾きましょう。



譜例 3 4 分音符。裏拍を感じながら弾こう



譜例 4 裏拍のメトロノームと合うように

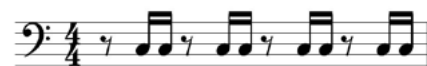
16 分音符の練習

16 分音符になると少し難易度が上がります。

まず譜例 5 は、16 分音符の 3 つ目と 4 つ目を弾くフレーズになっていますが、この時も 16 分音符の 3 つ目はメトロノームと合う場所なので、しっかりと耳で合っているかを意識しつつ、声でドラムのハイハットのように 16 分音符を「タカツク、タカツク…」と口ずさみながら練習すると良いでしょう。これは 16 分音符の 2 つ目、3 つ目、4 つ目を弾く譜例 6 も同様ですが、休符から始まっているフレーズは、表拍をしっかりと体で取れていないとリズム自体が悪くなってしまいます。休符の部分を、

少し弦を叩いてリズムを出す「タッチ・ミュート」をすると、テンポも安定して裏拍も取りやすくなると思います。

普段、バンドで自分が弾いている曲なども、メトロノームを裏にして練習するとリズムの強化に非常に有効です。



譜例 5 「1、2、3、4」のビートを意識しよう



譜例 6 16 分音符を声に出しながら弾こう



▲「タッチ・ミュート」で休符を感じよう

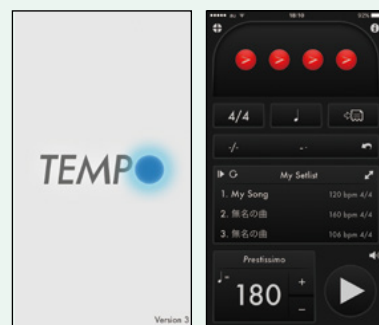
Tips!

一味違うメトロノーム活用法

メトロノームは、感じ方次第で様々なリズムに感じることができます。例えば、2 拍目と 4 拍目にメトロノームを感じて練習すると、バック・ビートを感じてどっしりとした安心感のあるリズムのための練習になります。やり方は、メトロノームを楽曲の半分のテンポに設定して、それを 2 拍目と 4 拍目に感じて弾くだけです。ドラマーが叩いているスネア・ドラムのように感じながら弾いてみましょう。

また、「3 連符の 3 つ目」や「16 分音符の 4 つ目」にメトロノームの音がかかるように感じたり、意外とシンプルに「1 拍目にしか出さない」というやり方など、使い方のバリエーションは様々です。

メトロノームは、スマートフォンの無料アプリでも十分なので、皆さんもただテンポを出すだけではなく、一味違うメトロノーム・トレーニングに挑戦してみてください。



▲メトロノームの無料アプリ「Tempo Lite」



ドラム ③

「8 ビート」の基礎練習

「8 ビート」はテクニック的にもあまり難しくなく、基本的なパターンが叩ければいろいろな楽曲を演奏することができます。しかし、あなどってはいけません。すべてのドラミングの土台であり、最も奥が深いのが「8 ビート」です。基礎をしっかりと踏まえて8 ビート・パターンを自在に叩けるようにしましょう。(文・辻 伸介)

STEP

1

「4 ウェイ」と「アップ・ダウン」

ドラム用語に「4 ウェイ」と「アップ・ダウン」というものがあります。4 ウェイとは、正確には「4 ウェイ・インデペンデンス」と言い、両手両足をバラバラに独立させて動かすという意味です。アップ・ダウンとは、その名の通りテクニック的にもリズム的にも重要な「上下運動」のことです。

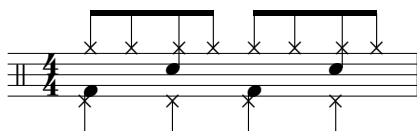
この2つは、考えようによっては真逆の意味を持ちます。両手両足をバラバラに動かしながら、1 つの上下運動のリズムを感じる…などと言うと、少し難しく感じるかもしれませんが、8 ビートをキレイに叩けるようになるためには、この2つのことを同時に意識しながら練習することが大切なのです。

「4 ウェイ」の練習

右足で1 拍目と3 拍目にバス・ドラムを踏んで、左手で2 拍目と4 拍目にスネア・ドラムを叩けば、「ドン、タン、ドン、タン…」というリズムが生まれます。そこに右手で8 分音符のハイハットを加えれば、最もシンプルなドラム・パターンが出来上がります(譜例 1)。可能であれば、左足をゴースト・モーションさせてみてください。ゴースト・モーションとは、左足のつま先でハイハット・スタンドのペダルを踏み込んだまま、かかとだけを動かすことです。ハイハットを開いて音は出しません。まずは4 分音符で踏んでみましょう。

この時点で、両手両足が違う動きをしている

ので、既に「4 ウェイ」を行っていることになります。ドラミングとは、基礎から応用まで、どこまでいっても「4 ウェイ」なのだと言えます。両手両足をバラバラに動かすには「訓練」しかありません。それぞれが「つられない」ように、何度も繰り返し練習して、脳に筋肉の動かし方を覚えさせましょう。



譜例 1 第5 線上の×印はハイハット(右手)、第3 間はスネア(左手)、第1 間はバス・ドラム(右足)、下第1 間の×印はフット・ハイハット(左足)のゴースト・ノートです

「アップ・ダウン」の練習

「アップ・ダウン」は、リズムの要となるドラムにとって必要不可欠な要素です。最もわかりやすく上下運動しているのは、ハイハットを演奏する「右手」です。基本的な8 ビートのパターンを叩く場合、右手は8 分音符でアップ・ダウンを繰り返します(写真 1、2)。

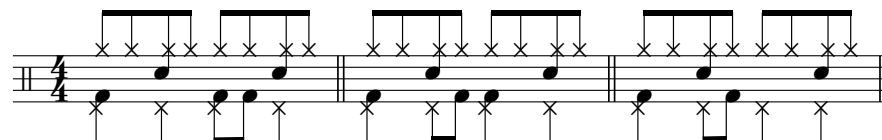
この右手の動きをキープしながら、譜例 1 を演奏してみてください。右手だけで行うのではなく、体全体でアップ・ダウンのリズムを感じましょう。スムーズにできるようになったら、バス・ドラムのフレーズを譜例 2 のようにいろいろと変えていきます。右手がつかれてアップ・ダウンが崩れてしまわないように注意してください。



写真 1 アップ・ストローク。叩いて上に上げる



写真 2 ダウン・ストローク。下に振り下ろす



譜例 2 右手のアップ・ダウンが崩れないように注意しよう

STEP 2

繰り返すフレーズと変化するフレーズ

ドラムの両手足の動きは、ずっと同じことを繰り返すフレーズと、アクセントに合わせて次々に変化するフレーズでできています。ドラムの演奏は、ループする繰り返しフレーズの気持ち良いリズムを持続させながら、アクセントをつける位置などをしっかりと正確に演奏しなければなりません。楽曲に出てくるフレーズを1つ1つ練習していくことも大切ですが、様々なフレーズに対応できるようになるためには、基礎力をアップすることが近道です。

バス・ドラム（右足）を変化させる

安定した8ビートを演奏するためには、ハイハットとスネアで繰り返しの演奏をしながら、バス・ドラムをいろいろな場所に踏める練習をする必要があります。4分の4拍子の場合、1小節に8分音符は8つ入ります（譜例3）。これらをまず、上半身が右足につられないように注意しながら、①だけ、②だけ…のように、ど

れか1つだけを踏んでいきます。それができたら、①と②、②と③など2打踏む組み合わせ、3打踏む組み合わせ…といろいろな組み合わせで練習していきます。左足のゴースト・モーション（STEP1を参照）を4分音符や8分音符で繰り返しフレーズに加えると、さらに難易度が上がります。まずはゆっくりなテンポで始めて、スムーズにできるようになったら、少し難しくなりますが16分音符でもやってみてください。

ハイハット（右手）を変化させる

ハイハットのパターンにバリエーションを持たせることができれば、ドラム・パターンに幅が出て、楽曲の表情を様々に変えていけるようになります。今度はスネアとバス・ドラムのフレーズを繰り返しのフレーズとして固定して、ハイハットのパターンを変えていく練習です。余裕のある人は左足のゴースト・ノートも加えてみてください。右手が変わるとテンポが乱れ

やすくなるので、メトロノームを使って注意しながら行いましょう。

ハイハットのパターンは、通常の8分音符のアップ・ダウン、8分音符の裏アクセント、4分音符、8分音符の裏打ち、左足を使っている裏オープン…などで行います（譜例4）。ハイハットだけではなく、ライド・シンバルでもやってみてください。

4ウェイの練習はドラム・セットやスティックがなくてもできます。地道に両手両足を自在に動かせることを目指しましょう。



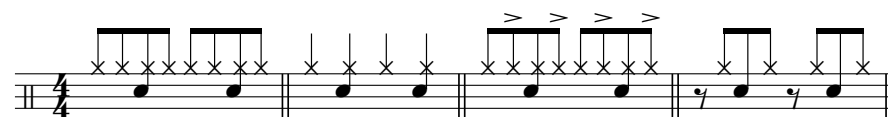
▲変化する足のフレーズにつられないようにアップ・ダウンをキープしよう



▲ドラム・セットやスティックがなくても練習できます



譜例3 1つ目だけ踏む、2つ目だけ踏む…と、1つずつ確実に練習していこう



譜例4 慣れてきたら、つなげて4小節ずつ行うなど、チェンジ・アップ的な練習をしよう

Tips!

「8ビート」って言うのは日本だけ！?

初めて聞く人はビックリするかもしれませんが、「8ビート」や「16ビート」、さらにはジャズでよく使う「4ビート」という言い方は、日本人が作った和製英語です。英語圏で8ビートのことは「8 note rhythm」や「8 note feel」と言います。「8 note」とは8分音符のことで、8分音符を主体としたリズム（フィーリング）という意味です。「ビート」は「拍」という意味なので、英語圏で8ビートという「8

拍？」ということになってしまいます。もし外国人と音楽の話をしたり、海外に行くことがあったら気をつけましょう。

逆に日本人が8ビートを演奏する時には、「1、2、3、4」という4分音符しか意識していないことが多いとも言えます。しっかりと8分音符を意識することで、8ビートが上手になるかもしれません。



▲英語圏では和製英語に気をつけよう！



キーボード ③

チェンジ・アップ

1つの曲の中には様々なリズムが登場します。リズムを把握するために、まずはその物差しとなる「拍数」を体で感じること、そして、小節単位でどんな長さの音でリズムが構成されているかを理解することが大切です。音符の長さが増えたり減ったりしても、安定した演奏ができるように基礎力を身につけましょう。(文・竹中敬一)

STEP 1

正しく拍を感じて、タイミング良く演奏する

ポピュラー・ミュージックには、聴いている人々の気持ちを高揚させ、体を動かす(踊らせる)要素があります。皆さんが好きな音楽にも、ビートの効いた、思わず体が動き出す、そんな楽曲が多いのではないのでしょうか。

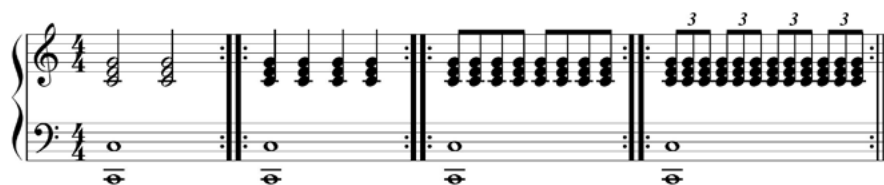
音楽を聴いて気持ち良く体を動かすためには、その音楽がある一定の「テンポ」と「拍子」をキープしていることがとても重要になってきます。音を間違えないで弾くことよりも、音のタイミングをしっかりと合わせて弾くことの方が、ポピュラー・ミュージックにとっては重要な場合もあります。

声に出して数えながら弾く

バンドの中でのキーボードの役割の1つに、



▲まずは右手だけでやってみよう



譜例 1 4小節弾いたら逆方向に戻っていきこう。カウントを声に出しながら行おう

「コード・パッキング」があります。正確なリズムとタイミングでプレイできないと、バンド・アンサンブルが崩壊してしまいます。タイミングを意識しながら弾く練習を繰り返しましょう。

例えば、4拍子のリズムで一定のテンポを感じながら、演奏する音符を4分音符からだんだん短くしていくなど、音符を変化させる練習を「チェンジ・アップ」と言います(譜例1)。ま

ずは、Cメジャーのコードを右手だけで練習していきましょう。この時、必ずメトロノームを使って拍数を声に出してカウントするようにします。譜例1の場合は4拍子なので「1、2、3、4」と数えながら弾きます。「声に出す」ことはとても大切です。カウントしながら練習する

癖をつけると、難しいフレーズを弾く時にはフレーズのリズムが整理でき、つまりいた時には小節の頭で自分をリセットできます。そして最終的には、楽曲のノリを感じながら演奏できるようになっていきます。

「小節単位」を意識する

右手だけで演奏できるようになったら、左手も加えてみましょう。譜例1の下段が左手のフレーズです。それぞれの小節の1拍目で弾いて4拍の間、音を伸ばします。「小節単位」の意識を持つことが大切です。

練習の仕上げとして、メトロノームなどのガイドを出さずに、自分の中でテンポを決めて弾いてみましょう。一定のテンポを感じながら弾いているかを確認する最もわかりやすい練習です。音の長さが短くなるに従って演奏が速くならないように注意しましょう。逆に、音が長くなってくると、待ちきれずに間隔が短くなってしまいがちです。自分の演奏をレコーダーなどで録音して聴き返してみると良いでしょう。

STEP 2

音の長さ、休符を組み合わせて演奏する

一定のテンポをキープしながら、そこに表情がつけられるようになると、より豊かで生き生きとした演奏になります。Cメジャーのコードを音の「長さ」を気にしながら、記号で指定されたように演奏してみましょう。同じ音を弾く場合でも、音の長さによってその印象が変わってきます。

音の長さの違いを意識する

まずは、「テヌート」と「スタッカート」を

明確に弾き分ける練習です（譜例2）。テヌートとは「音の長さを十分に保って演奏すること」、スタッカートは「音符を本来の長さより短く演奏すること」を指示する記号です。テンポは一定にキープします。最初はメトロノームなどを聴きながら、そして、自分で「1、2、3、4」とカウントしながら練習しましょう。3小節目からはカウント（表）に対して、裏のタイミングの演奏に変わります。演奏につられてカウントが崩れないようにしましょう。また、カウントにつられて音の長さがいい加減にならないようにしましょう。



▲音符に「表情」をつけて演奏しよう

両手による実践的な練習

それでは、ここまでの練習を踏まえて「チェンジ・アップ」にチャレンジしてみましょう（譜例3）。左手はオクターブで拍を刻む動きなので、「1、2、3、4」と数えるカウントと連動させてください。音符が変化していくとタイミングが取りにくくなると思うので、メトロノームでの練習は必須です。カウントと共に動く左手を基準に考えると、リズムの仕組みがわかると思います。テヌートで弾く場合とスタッカートで弾く場合とを、自分でいろいろと変えて練習してみても構いません。

2小節目は、少し難度の高いリズムで「2拍3連」というパターンです。本来は、このような記譜の仕方はしないのですが、タイミングをわかりやすくするために細かい音符で表現しています。4小節目のリズムとの違いを弾きながら理解しましょう。



譜例2 左手はオクターブのC音を毎小節の頭に弾こう。「―」がテヌート、「・」がスタッカート



譜例3 2小節目は「2拍3連」。仕組みをわかりやすくするために「タイ」を使って書いている

Tips!

日常の中にあるリズム

日常生活の中から同じ周期で音が出るものや状況を探してみると、独自のリズムを持った面白いものが見つかります。例えば、洗濯機や食洗機が水を使ってバシャバシャと洗う音、自動車のウインカー、踏切の音、カエルや鳩の鳴き声、単純な作業音など…。そんな音に気づいたら、しばらくじっとその音を聴いてみましょう。その繰り返すリズムは何拍子に聴こえるでしょうか。自分でリズムを考

え、手を叩いてみてください。メトロノームを前にしなくても、耳をすませば身のまわりにはたくさんのリズムがあるのです。

最近復活の兆しを見せる「アナログ・レコード」ですが、片面を聴き終わったあとの針が溝をこすり続ける「ノイズ」が、一定のリズムに聴こえることがあります。1990年代にはHIPHOPなどで「汚し系」サウンドとしてループ音に使われたりもしました。



▲ノイズも温みがあるループ・サウンドに聴こえる

全員練習「スケール編」

C メジャースケールの応用

前回、C メジャースケールの練習についてお話ししましたが、今回はそれを発展させていきましょう。しかし、すでに取り組んでいるメソッドがあるのであれば、そちらを優先して構いません。というのも、メジャースケールの発展系の練習法は様々あり、例えば、ギターとベースならルート（ベースは3弦）の3フレット以外から始めたり、2オクターブで行ったりする方法もあります。キーボードなら、スタートの音をCではなくC#、D、D#…と変えてメジャースケールを弾いていくだけで黒鍵を使うため、運指やポジションが変わります。

もう少し楽器に慣れたきたら、そういったトレーニングもぜひ行って欲しいのですが、初心者ではかなり難易度が高くなるので、1オクターブ、ワンポジションをしっかりと綺麗に弾けるようにすることの方が大事です。焦らず着実に実力をつけていきましょう。

本誌4月号で紹介したリズムトレーニングに「チェンジアップ」という練習方法があります。メトロノームをかけて、同じテンポのまま様々に手を持つリズムを変えていく、というものです。これにメジャースケールの練習を合体させます。運指（指使い）は6月号を参照してください。

テンポは余裕を持ってできるくらいから始めていきましょう。メトロノームを4分音符と捉え、まずは音に合わせてCメジャースケールを弾きます。余裕があればそのまま下行フレーズも弾きましょう（譜例1）。難しくければ最初は1小節空けてから弾き始めても構いません。

ギターやピック弾きのベースの場合は、まずはじめにすべてをダウンピッキングで行い、右手の運指が慣れてきたらダウン／アップを交互に行う「オルタネイトピッキング」にも挑戦してみましょう。ベースが指弾きの場合は、弦を弾く指をはじめは1本で、慣れてきたら人差し指と中指を交互に弾くオルタネイトでの練習も行ってください。キーボードは、はじめは片手ずつ、慣れてきたら両手同時にやっていきます。

上行も下行も指くぐり、指またぎのタイミングが左右違うので気を付けましょう（譜例2）。

次は8分音符です。同じ音を2回ずつ弾く方法から、8分音符ごとに音を変える方法へとステップアップさせていきましょう（譜例3）。この4分音符バージョンと8分音符バージョンを連続して行うのがチェンジアップ練習です。

ポイントはメトロノームにしっかりと合わせることです。何となくではなく、足や体全体を使ってリズムに乗りながら弾くように心がけましょう。また、部活動の全体練習で行ったり、バンドメンバー同士で行ったりすると効果的です。自分ができているかどうかだけではなく、人と合っているか、どちらがどうテンポやリズムからズレているのか…を見極め、綺麗に合うように調整していきましょう。余裕があれば、5月号で紹介した表拍と裏拍を交互に続けて弾く練習も取り入れてください。



▲ギターやベースは弦を弾くタイミングも重要

以上のことがスムーズにできるようになってきたら、テンポを少しずつ上げていきます。♩ = 100を目指して頑張りましょう。チェンジアップも運指も丁寧さがポイントです。

上級編として、16分音符や3連符もチェンジアップメニューに付け加えるのもお勧めです。ギターとベースは両方ともオルタネイトで弾いてみてください。特に3連符はテンポが乱れやすいので注意しましょう。やはり体でリズムを取りながら行うことがポイントです。



譜例1 Cメジャースケール。オルタネイトでも練習しよう



譜例2 キーボードの両手弾きの指使い。運指のタイミングをスムーズに行おう



譜例3 8分音符の場合は同じ音を2回バージョンと1音ずつ変えるバージョンの両方をやると効果的

アンサンブル向上委員会

バンド練習を見直そう① 「テンポ感？リズム感？」

アンサンブルとは「合奏」のことです。バンド演奏で最も大事にしなければならないのは「合わせる」こと。初心者にとってはまだそこまで気がまわらないことも多いかもしれませんが、少しずつ周りの音も聴けるようにしていきましょう。

楽曲の速さを示す「テンポ」は、メトロノーム記号（♩＝〇〇）やBPM (Beats Per Minute) といった形で、数字で表されます。これは知っている人も多いでしょう。では「リズム」とは何でしょう。他にも似たような言葉に「ビート」「タイム」「グルーブ」などがありますが、違いを説明できるでしょうか。日本人は言葉を雰囲気で理解する国民性があるので、アドバイスする方もされる方もちゃんと意味がわからなくてもそれらの言葉を使っています。それではどんな練習をして、何を強化すれば良いのかが曖昧になるのも当然です。

テンポの意味は上記の通りですが、リズ

日本人は世界一リズムが悪い！？



ポピュラーミュージックはアフリカ系アメリカ人によって生み出され、欧米人によって進化してきました。彼らの音楽であるブルース、ジャズ、クラシック、ラテン音楽がルーツです。簡単にいえば日本人にとってはまったく異文化な音楽だということです。最も大きな違いはタイム、リズム、テンポといった感覚です。日本の雅楽や民謡などを思い出せば西洋風なそれがないことがわかると思います。従って、日本人はポピュラーミュージックをする上では世界一リズムが悪い…ということになるわけです。まずはリズムやテンポという概念を理解して、その感覚を身につける練習が必要なのです。



□ 時にはリズムについて話し合おう

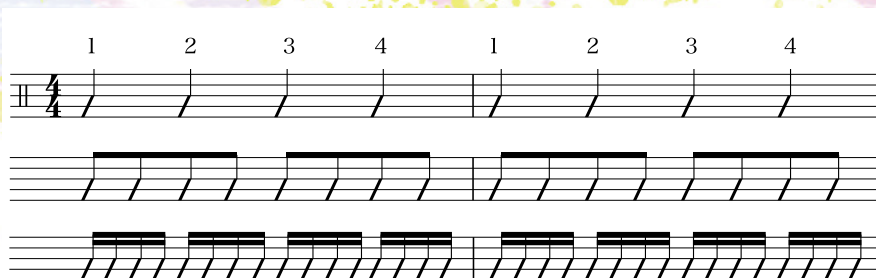
ムは「音価（音符の長さ）」による抑揚のことです。ビートは「拍」と訳され、メトロノームの音1つひとつのことに当たります。タイムとは拍が集まってできた「拍子」や拍の中に流れる細かい「パルス」のことです。「1、2、3、4」で一括り（1小節）な抑揚、1拍の中を8分音符や16分音符で感じたりすることを指します。そして、グルーブとは音楽を聴いて体が自然と動いてきてしまうような、バンド全体で表現される演奏のうねりのことです。

ポピュラーミュージックでは、ほとんどの場合、テンポの変化による表現をしないので、ずっと同じテンポで演奏できること、安定した「テンポ感」を持つことが目標です。クラシックの奏者以上にメトロノームでの練習が必須となります。

よく「リズムを感じる」といった言葉が

使われますが、往々にしてビートやタイムを感じることを指している場合が多いようです。体でパルスを感じながら、その感覚を全員で合わせていきましょう。本来のリズム感については音符や休符の長さに注意したり、音の切れ際をメンバー間で合わせるように意識していくことで向上します。

メトロノームの設定を1拍目を強調するようにして、ビート1つひとつを4分音符と考えます。そして、それぞれのビートをさらに細かい音符で感じます（譜例）。タイム感人は人それぞれ違うので、メンバー同士、お互いにどんなタイム（パルス）を感じているのかを探って合わせていくことがバンドとしての一体感につながります。そして、以前お話した「バックビート」や「アップダウン」をメンバーで共有できれば、バンドの良いグルーブが生まれるでしょう。



▲上段が4分音符のビート。楽曲によって感じるパルスを8分音符や16分音符にメンバー同士で決めていく

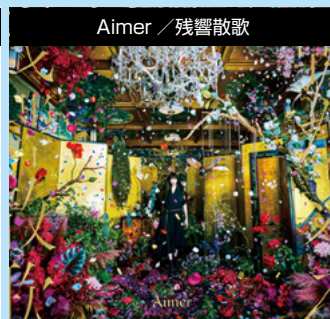
ロック 解体新書

人気楽曲をワンポイント解説

パートごとのフレーズや音作りなどに焦点を当てて、1曲をじっくり解析していくとともに、その効果や習得方法などを解説しています。例題曲のコピーをする時やオリジナル曲を作る時に役立ててください。



ボーカル編



ギター編



ベース編



ドラム編



キーボード編





ロック解体新書 ボーカル編

文・伊丹谷良介

Aimer Falling Alone

～ロックなグルーヴを演出するボーカルスタイル～

2011年にメジャーデビューし、多くのアニメやドラマのテーマソングを担当して注目を集めた女性シンガー、Aimer（エメ）。この楽曲は、2016年にリリースされた4thアルバム『daydream』に収録され、ONE OK ROCKのボーカル、TAKAが楽曲提供とプロデュースをしたことでも話題となった。

激しく歌うことだけが「ロック」なのではない、ということを証明する彼女のボーカルスタイルに迫ろう。

グルーヴや疾走感を強調するテクニック・・・

この楽曲は、激しいロックサウンドの伴奏をバックに独特の透き通るような歌声が絶妙にマッチし、激しさの中にも切なさを感じさせる。決して声質だけに頼らず、しっかりとしたボーカルテクニックを使って個性をさらに高め、楽曲のグルーヴを強調している。

例えば、Aメロの「♪深く深く落ちていく～」の部分をよく聴くと、スタッカートを使って「♪ふか(っく)、ふか(っく)、お～ちて、ゆ(っ)く～」と歌っている(譜例)。言葉を短く切ってキレ良く区切ることで、楽曲のビートにアクセントが付き、伴奏との一体感が出ている。また、サビの「♪I'm Falling alone～」という部分では、16分音符で細



譜例 点(スタッカート)の付いた部分を強く、区切るように発音する

かなビブラートを効かせている。ロングトーンに16分音符のリズムを加えることで、うねるようなグルーヴ感を強調しているのだ。

他にも、Bメロの「♪涙が頬をつたう～」の部分では半拍半のリズムが、サビの「♪枯れ落ちた～」の部分ではシンコペーションが使われている。Bメロでは「涙」の「な」と「み」以外が、サビでは「落ちた」の「た」の部分が裏拍のリズムになっていて、裏拍にアクセントを置くことで疾走感がメロディに加えられている。

英語詞の演出・・・・・・・・・・・・・・・・

ロックという音楽は英語圏の国で生まれたため、当然ながら英語の発音やリズムが良く合う。この楽曲も、英語の歌詞をうまく使って楽曲にスムーズな流れを演出している。

サビの「♪枯れ落ちた偽りのdreaming I'm falling alone～」という部分では、後半の英詞「dreaming I'm falling alone」で歌詞の意味合いとメロディの流れをうまくつなぎ、英語の歌詞ならではの発音が滑らかなグルーヴを生んでいる。

英語の歌詞を歌いこなすには、しっかりとした英語の発音で歌うことが大切だ。文法はできても発音はあまり得意ではない日本人には耳が痛いところだが、例えば「dreaming」という言葉を「ド・リ・イ・ミ・ン・グ」と6つの音で感じるのではなく、「ドゥリイ・ミング」と2つのまとまりで音を感じて歌うことを心がけると、滑らかなメロディに乗ることができるだろう。

英語の歌詞をコピーをする場合は、歌詞カードを「読む」だけではなく、歌を注意深く「聴いて」音のまとまりを自分なりに研究してみると良いだろう。

参考にするなら、この曲もオススメ！



EGOIST 英雄 運命の詩

コンポーザーである Supercell の ryo がプロデュースを手がけ、アニメ作品に登場する架空バンドとして誕生したエゴイストの2017年にリリースされた8枚目のシングル。重厚なサウンドと女性ボーカルがマッチしたインパクトは必聴。



Melissa Etheridge Ain't it Heavy

グラミー賞の常連、アメリカのシンガーソングライター、メリッサ・エスリッジのヒット曲。ロックのグルーヴに乗せたスタッカート、ビブラート、シャウトなどの卓越した歌唱力とハスキーな歌声が魅力。1992年リリース。



ロック解体新書 ボーカル編

文・伊丹谷良介

Eve 廻廻奇譚

～原作に寄り添うアーティスト性とクリエイト～

人気アニメ「呪術廻戦」のオープニング主題歌でもあるこの楽曲は、2020年10月に各音楽配信サービスにリリースされた、Eve（イブ）の大ヒット曲だ。単なるタイアップ曲としてではなく、シンガー・ソング・ライターとしてどのような形で作品に寄り添えるのかを深く考え、魂を込めながら念入りに作られている。まさに、人気アニメと人気シンガー・ソング・ライターのスペシャルなコラボレーション作品と言える。

響きの良い歌詞と歌唱力・・・・・・・・・・

この楽曲の魅力は多くあるが、まず「歌詞の世界観」に注目したい。原作を読み込んだ上で書かれ、作品のストーリーが歌詞の世界観にしっかりとクロスオーバーされているところが魅力的だ。この楽曲の歌詞には、Aメロの「有象無象（うそうむそう）」や「虚心坦懐（きょしんたんかい）」のような、難しい言葉がたくさん散りばめられている。そういった言葉は、本来持つ意味以外に「響き」を応用し、音楽的に吟味された歌詞として構成されている。その言葉が圧倒的な歌唱力で歌い上げられた時、言葉は魂の叫びとなり、音楽の一部となるのだ。

また、例えば「物の怪」という歌詞の前に、実際にはない「あ」をゴー



譜例 矢印がゴースト・ノート。その後のシンコペーションと相まってリズムカルに

スト・ノートとして入れて、「♪（あ）物の怪みたいだあ～」と歌い上げられているところもポイントだ（譜例）。主要メロディーの前に小さい「あ」を入れることで、英語詞のようなグルーブが生まれている。

この楽曲のメロディーの音域幅はとても広い。一番低い音程のファから2オクターブ上のシまでを地声で歌い、さらにその上のレまでを裏声で出している。男性でも女性でも、この音域を歌いあげるとはとても難しいが、この楽曲を歌う場合は、低い声と高い声に大きな音量の差が生まれないように、低い声はマイクを口に近づけ、高い声はマイクを口から離すなど、口とマイクの距離を意識して歌うと安定感が出るだろう。

エフェクターを使った感情表現・・・・・・・・・・

レコーディングされたこの楽曲のボーカルには、多くの「ボーカル・エフェクター」が使われ、場所によって切り替えられている。ボーカルへのエフェクターと言えば、「リバーブ」や「ディレイ」といった、空間を広げる効果を狙ったものが使用されることは多いが、この楽曲ではそれ以外のエフェクターも使われている。

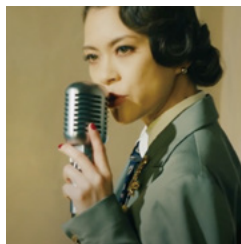
例えば、Aメロの出だしの8小節の間には、そこだけエレキ・ギターで使うような歪み系のエフェクターを掛けた「ラジオ・ボイス」が多重録音されている。これによって、歌詞の世界観に、閉鎖されたような感情表現がより強調されている。他にも、2コーラス目のサビ前の「♪わかんないよ」という一部分にだけ、ラジオ・ボイスのようなエフェクターを掛けた箇所がある。この効果は楽曲構成的にも有効で、その後に来るサビの広がりを強調する点火剤になっている。

参考にするなら、この曲もオススメ！



Bring Me The Horizon MANTRA

イギリスで結成された新時代ロック・メタル・バンド、ブリング・ミー・ザ・ホライズンの2018年にリリースされた5thアルバム『amo』からのシングル。低い声で歌い始めるAメロからサビで歌い上げるスタイルはすこぶるカッコイイ！



小柳ゆき 廻廻奇譚

日本を代表する女性シンガーの1人、小柳ゆきが2021年にYouTubeにアップしたカバー。過度なエフェクトを使わずジャズ風にアレンジ。原曲の旋律と歌い方を大切にされた彼女ならではの歌唱力は聴き応えあり。女性が歌いたいなら必聴。



ロック解体新書 ボーカル編

文・伊丹谷良介

Aimer 残響散歌

～和洋折衷な女性ボーカル～

この楽曲は、日本の女性シンガー、Aimer（エメ）の通算 20 枚目のシングルだ。2021 年 12 月に先行配信され、多くのランキングで瞬く間に 1 位を記録した。大ヒットの要因は、TV アニメ「鬼滅の刃 遊郭編」のオープニング・テーマに起用されたことだが、楽曲、アレンジ、Aimer のボーカル自体にも魅力があることは間違いない。

「気だるさ」と「力強さ」・・・・・・・・・・

この楽曲の歌声は、低く伸びやかで全体的に気だるいニュアンスで歌われているように聴こえる。しかし、その「気だるさの表現」は歌詞の世界にも通じ、逆に力強さまでも感じられる。秘訣は、「抜群のリズム感」にある。

気だるく歌うボーカル・スタイルには、十分に伴奏とシンクロしたリズム感がないと、ただの弱い歌声に聴こえてしまう。しかし、リズム感を伴うことで、気だるさに弱さをまったく感じさせないようにすることもできるのだ。そういった意味でも、この楽曲のボーカルには高い歌唱力が秘められている。例えば、サビのフレーズ「♪声よ 轟け 夜のその向こうへ」では、しっかりと 8 ビートのメロディーで歌われていることはもちろん、声の立ち上がり、フォール、



譜例 サビの出だし。8 分音符を 16 分音符で感じていることが大事

ビブラートなどの細い部分も、16 ビートで細かくきちんと歌われている（譜例）。配信されている動画をスロー再生してみれば、機関銃のように鳴っている 16 ビートのドラムとシンクロした歌声を聴くことができる。

この楽曲を歌いたい場合は、メロディー全体をできるだけ細かく 16 ビートを感じながらドラムの音（伴奏）とシンクロさせることが大事だ。そして、その上で気だるく歌うことを意識すると良いだろう。

日本語詞の美しさを洋楽風に歌う・・・・・・・・

1960 年代以降、日本のポピュラー・ミュージックでは「聞き取れる歌詞」よりも「響きのかっこ良さ」が優先されることが多くなっている。現代では、より洋楽（英語詞の楽曲）に影響を受けたリズムやメロディーで楽曲が作られているため、そのメロディーにあった日本語を選ぶセンスや、その歌詞を歌い上げる高い歌唱力が求められる。この楽曲では、歌だけではなく、「洋楽っぽいアレンジ」に「日本語の美しい響き」を合わせることがしっかりと吟味されている。

耳に残る、サビの最後の「♪残響」という一言に、その言葉選びだけではなく、歌い方にも一種のこだわりを感じる。「ざんきょう」とそのまま歌うのではなく、「ずあん きょううっ…」と、言葉だけではなく響きで伝えようとしている。この辺りは、日本語のわからない外国人が聴いても、「残響」の意味に感じる歌い方だろう。

この楽曲には「和洋折衷の進化」も感じられ、今後グローバルに活躍する日本人アーティストが増えるターニング・ポイントになるかもしれない。

参考にするなら、この曲もオススメ！



椎名林檎 丸の内サディスティック

人気・実力共にトップを走り続けるシンガー・ソング・ライター、椎名林檎のソロ・アルバム『無罪モラトリウム』に収録。その言葉選びと歌唱の表現力は類をみず、自身のバンド、東京事変と共に海外からの人気も高い。1999 年リリース。



和楽器バンド 千本桜

尺八、箏、津軽三味線、和太鼓などの和楽器とロック・サウンドが融合し、詩吟の師範でもある鈴華ゆう子がボーカルを担当する和楽器バンドが、2014 年にリリースしたカバー・アルバム『ボカロ三昧』に収録。和テイストの歌に魅了される。



ロック解体新書 ギター編

文・岩尾 徹

yonige アボカド

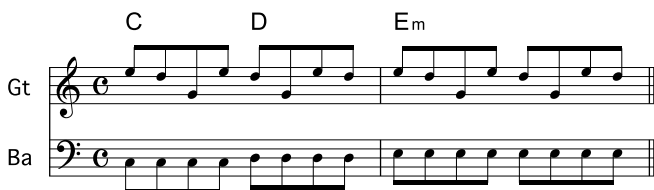
～シンプルなコード進行をカッコ良く弾く～

2017年にメジャーデビューしたガールズバンドの yonige が、インディーズ時代の2015年にリリースしたミニアルバム『Coming Spring』に収録されているこの楽曲は、喧嘩した彼氏にアボカドを投げつけるという印象的な歌詞でも話題になったが、コード進行もシンプルながら聴く人を飽きさせない構成に仕上がっている。

それは、派手さはないがツボを押さえているギターのプレイが1つの要因だといえよう。

ギターの弾き方で楽曲の表情が変わる……

この楽曲のイントロからAメロにかけては、同じコード進行のパターンが続くが、ギターの弾き方を変えることでまったく違う印象にしている。イントロではそれぞれのコードをストロークで弾き、コードの変化を前面に出すことで演奏にドライブ感を生んでいる。それに対して、1コーラス目のAメロではコードの移り変わりはベースに任せ、ギターはそれぞれのコードの使用可能な音を使ったアルペジオのフレーズを繰り返し弾き続けている。そうすることで、同じコード進行でもコードの流れがより自然なものとなり、落ち着いた雰囲気を演出している（譜例）。



譜例 1 コーラス目のAメロ。ルート音はベース、ギターは同じフレーズを弾く

また、2コーラス目のAメロでは後半の一部分だけをコードトーンに添ったアルペジオを、3コーラス目のAメロは全体的にコード進行を意識したアルペジオにする…というようにフレーズに変化を持たせている。まるで話かけているかのような淡々としたメロディのAメロを、楽曲の流れに合う印象深いものに昇華させている。

楽曲終盤のギターソロは、それまでの流れをすべて請け負って盛り上がりながらエンディングに向かうことが多い。そのため、通常はエモーショナルなソロを求められたりするものだが、この楽曲のようにシンプルなコード進行でクールな曲調の場合、同じフレーズや似たフレーズを繰り返し弾く…というのも1つの方法だ。この楽曲ではサビのメロディをなぞる様なフレーズが繰り返されている。

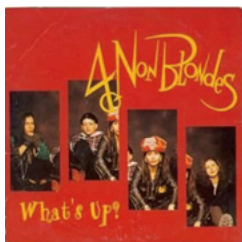
しかも、単にギタリストがソロを弾いているという見え方ではなく、バンド全体の演奏でドライブしている雰囲気を生み出している。バンドで演奏する場合は「うまく弾こう」という気持ちよりも、メンバー全員が1つになって演奏しているのだという「一体感」を目指した方が良いだろう。

ボーカルを支えるギターサウンド……

この楽曲のギターサウンドは、繊細な声の女性ボーカルに対して「ゴリッ」とした骨太な音作りになっている。これは、ドラム、ベースと絡むとどっしりとした安定感が出て、失恋のやるせなさを悲しみだけではなく「強さ」の感情表現として効果的だ。

このようなサウンドを出すには「ハムバッカー」タイプのピックアップを搭載したギターを使用すると雰囲気が出るだろう。

参考にするなら、この曲もオススメ！



4 Non Blondes What's up

5年の活動期間中にリリースしたアルバムはわずか1枚というアメリカのバンド、フォー・ノン・ブロンドの1993年のヒット曲。シンプルなコード進行ながらもドラマティックに盛り上がる名曲で、カバーしているアーティストも多い。



The Bangles A Hazy Shade Of Winter

1980年代に数々のヒット曲を放ったアメリカのガールズバンド、バングルス。1987年に公開された映画「Less Than Zero」のサントラ盤に収録された楽曲。カバー曲だが無駄のない楽曲構成とイントロのリフが印象的。



ロック解体新書 ギター編

文・岩尾 徹

ヨルシカ ノーチラス

～サウンドの異なるギターを使いこなす～

ヨルシカはコンポーザーの n-buna（ナブナ）が、女性シンガーの suis（スイ）と共に結成したバンドで、楽曲「ノーチラス」は、2019年にリリースした2nd アルバム『エルマ』に収録されている、軽やかなサウンドの中に溢れ出るような感情が伝わってくる切ないバラード曲だ。この楽曲を成立させるのに欠かせないポイントが、ギターの音色のチョイスと計算されたフレーズにある。

エレキとアコギの特徴を生かした使い分け・・・

バラード調の楽曲において、エレキ・ギターの他にもう1本、アコースティック・ギター（以下、アコギ）を採用することがよくある。これは、アコギが持つ独特の温かさがバラード曲にとってもマッチしているからだ。この楽曲は、歌、ピアノ、そしてアコギだけの演奏で唐突に始まるのだが、ピアノとアコギで伴奏することで、アコースティック楽器特有の音の温かさがボーカルをより優しい雰囲気で包み込んでいる。アコギの弾き方も、コードが変わっても押さえている一番高い音は変えずに、しかも1弦を使わないコード・フォームで爪弾いている（譜例）。コードの一番高い音を変えないことでコー

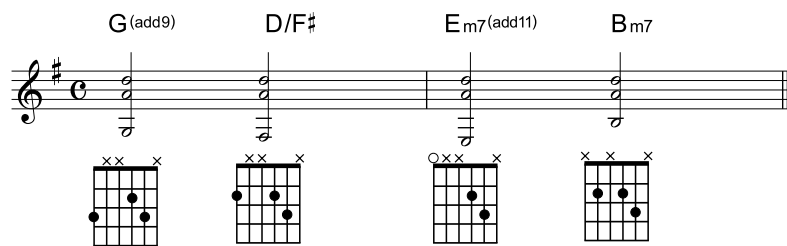
ド進行の響きを滑らかにし、1弦を使わないことでコードの響きがより柔らかくなっているのだ。

Bメロでは、ドラムとベースが入りビート感が出てくる。この時、エレキ・ギターも一緒に入ってくるのだが、Aメロからの流れが極端に変化しないように、ほど良い歪み具合の音色で音圧を抑えているところがポイントだ。サビは、楽曲の中で一番盛り上がる部分だが、そのままの流れでいくと、歌詞、メロディーにマッチしないテンションになりかねない。そこで、はじめの2小節はアコギのストロークとエレキ・ギターのアルペジオのみで、ややビート感を落ち着かせ、再度ドラムとベースが入ることで楽曲の盛り上がり方をうまく調整している。その時は、ギターもコード・ストロークでガッツリ弾くのではなく、アルペジオでドライブしている中にサウンドの広がりを出している。

バラード曲に合った音作り・・・・・・・・・・

この楽曲のような曲調をバンドで演奏する場合、エレキ・ギターはどんなタイプのギターであってもハードに歪ませすぎないことが

大切だ。アルペジオはもちろんのこと、コードを弾いた時も1音1音しっかりと音が分離して、コード感が感じられるようにセッティングすることが秘訣だ。アコギがない場合はエレキ・ギターでも構わないが、フロント側のピックアップを使うなど甘めのトーンを選択すると良いだろう。できれば、ギターのボディーに空洞があるセミアコースティック・ギターを使うと、より近い雰囲気になる。



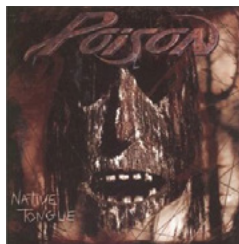
譜例 インтроのような雰囲気を出すコード進行と押さえ方の例

参考にするなら、この曲もオススメ！



Taylor Swift If This Was a Movie

世界的歌手テイラー・スウィフトが2010年にリリースした3rd アルバム『Speak Now』のデラックス・エディションに収録。印象的なアコースティック・ギターのアルペジオから始まり、サビから入るエレキ・ギターとの絡み具合が絶妙。



Poison Stand

アメリカのバンド、ポイズンがギタリストにリッチー・コッツェンを迎えて製作した4th アルバム『Native Tongue』からのシングル。共鳴板が付いたアコギ「ドブロ」の響きがカントリー感を演出する壮大なロック・バラード。1993年リリース。



ロック解体新書 ギター編

文・岩尾 徹

ニガミ 17 才 ただし、BGM

～「イマドキ」のクール系カッティング～

ニガミ 17 才は、元「嘘つきバービー」の岩下優介（ボーカル＆ギター）を中心に結成された 4 人組バンドで、昨今のシティ・ポップやヒップ・ホップ、ダンス・ミュージックなどを嫌味なく取り入れた和風ファンク・バンドだ。2018 年 2 月にミュージック・ビデオが公開された「ただし、BGM」は、わずか 1 年ちょっとの間に再生数が 130 万回を超えた。そのサウンドの要になっているのは、リズム・セクションに絶妙に絡むギターのクールなカッティングだ。

ワン・グルーブの中にも表情をつける……

この楽曲はコード進行がシンプルで、基本的には「ワン・グルーブ」といわれる同じビート感を楽曲の最後まで残しながら展開するアレンジになっている。その中において、セクションごとの抑揚はギター・パートによってコントロールされている。

A メロは、ベースが 1 小節パターンのフレーズを繰り返しているが、ギターはベースと同じリズム・パターンで弾かずに、あえて絡むようなフレーズでカッティングをしている。しかも、なるべく空



譜例 A メロ風なギターとベースのコンビネーション・フレーズ

(から) ストロークのブラッシングの音を抑えているところがポイントだ（譜例）。こうすることで、ベースとギターによるドライブ感が生まれ、上に乗るボーカルのラップをよりクールな印象にしている。また、2 コーラス目の A メロに入る前の部分では、ベース・ラインは同じにもかかわらず、カッティングをやや高音域な音使いに変えることで、今までの流れに変化を与えつつ、繰り返す A メロを飽きさせない効果を生んでいる。

さらに、B メロとサビは同じコード進行なのだが、B メロは休符を生かしたカッティング・パターンで少し落ち着いた流れを演出しているのに対し、サビでは空ストロークに思いっきりブラッシング音を出しているため、カッティングのドライブ感が増している。こうすることで、サビらしい疾走感を出すことができているのだ。

ギターのサウンド・メイキング……

この楽曲のようなカッティングをする場合、立ち上がりの良い音で弾くことによるフレーズのシャープさが求められる。岩下はフェンダー・テレキャスターを使い、リア・ピックアップとフロント・ピックアップをミックスした音切れの良いサウンドで弾いている。バンドで演奏する時は、シングルコイル・ピックアップが搭載されているギターで弾くと、こういったキレのあるカッティング・サウンドが出せるだろう。

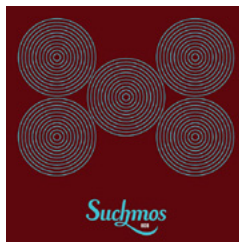
また、使用するアンプも「真空管アンプ」よりも、「トランジスタ・アンプ」の方が、より澄んだクリーン・サウンドを出すことができ、シャープでキレのあるクールなカッティングになるだろう。

参考にするなら、この曲もオススメ！



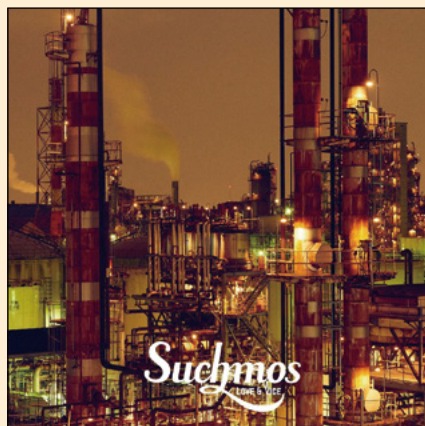
Chic Good Times

アメリカの R&B、ファンク、ディスコ・バンド、シックの代表曲。2 つのコードのみで構成されているが、ナイル・ロジャース (Gt) とバーナード・エドワーズ (Ba) のコンビネーションで素晴らしい楽曲に仕上がっている。1979 年リリース。



Suchmos 808

サチモスが 2018 年にリリースしたミニ・アルバム『THE ASHTRAY』に収録。彼らの代表曲「STAY TUNE」に続いて自動車の CM ソングに起用されたクールなシティ・ポップ系楽曲だ。イントロでのギターのクールなカッティングが印象的。



ロック解体新書 ベース編

文・山田潤一

Suchmos STAY TUNE

～楽曲の流れを作ってリードするベース～

「STAY TUNE」は、オシャレでアーバンな楽曲が特徴的なバンド、Suchmos が2016年にリリースした2ndEP『LOVE&VICE』に収録され、バンドを一躍有名にした代表曲だ。様々なジャンルが融合している音楽を得意とする Suchmos だが、この楽曲もダンスミュージックやブラックミュージックを軸に後半にはロック的なキメが出てくるなど、彼らしい面白いアレンジになっている。

この楽曲は、ドラムのあまり変化しないパターンに対してベースがセクションごとにフレーズを大きく変化させている。楽曲の流れをベースが仕切ってリードしているのだ。

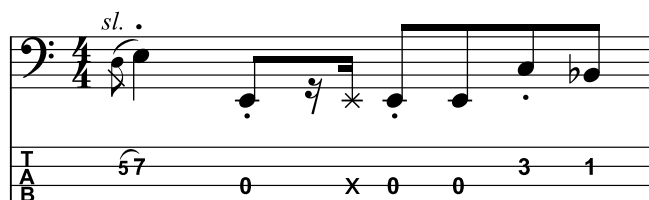
休符を意識したプレイで「グルーヴィー」に

この楽曲のベースは、サビの派手なフレーズに耳がいきやすいと思うが、注目すべきセクションは実は「Aメロ」だ。冒頭のサビ終わりのスラップからいきなり隙間を作ることで、Aメロに入った瞬間に楽曲に緊張感を生んでいる。このベースアレンジによって、ドラムの4つ打ちに耳がいくようになり、聴いてる人が自然と踊れるようになっている。

Aメロのフレーズは4小節で1つのパターンになっていて、始めの3小節は1拍目をスタッカート、4拍目は4分音符にすることでメリハリをつけている。さらに、4拍目には9thを入れてアーバンな雰囲気を出していることにも注目しておきたい。そして、4小節目はドラムのバスドラムに合わせているのだが、この時とても大事なのが1拍目と3拍目のスタッカートで、フレーズが転がっていくように聴こえる効果を出している（譜例）。

こういった休符を意識するプレイは、ものすごく目立つというわ

けではないが、グルーヴを作り出すパートであるベースにとって非常に大事なことだ。バンド演奏では派手なプレイもしばしば求められるが、新たなベースの魅力に気づくだろう。



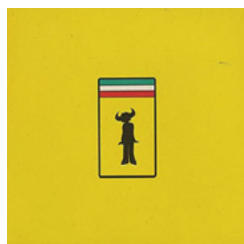
譜例 Aメロ4小節目の基本フレーズ。スタッカートの音の長さを注意して弾こう

踊れる音楽のセオリー・・・・・・・・・・

この楽曲は、Bメロまでは基本的に同じコードの繰り返しになっている。これはダンス系やブラックミュージックなどでよくあることだが、それはこのようなジャンルの場合「人を踊らせる」ことが前提にあって、少ないコード展開の「ループする気持ち良さ」によって体が自然に動いてくるからであろう。

Suchmosのベーシスト、HSU（スー）は、基本的に5弦ベースを使用していることが多い。ミドルが強いアクティブタイプのベースを使用していると思われ、バンドサウンドの中心にいて全体のグルーヴや楽曲を引っ張っている。ライブなどでは細かく音を調整することが多いようだが、それはベースサウンドが「踊れる音楽」にとって重要なポイントであるためだ。環境が変わっても、手元で音の微調整ができるアクティブベースを使用することの意味は大きいかもしれない。

参考にするなら、この曲もオススメ！



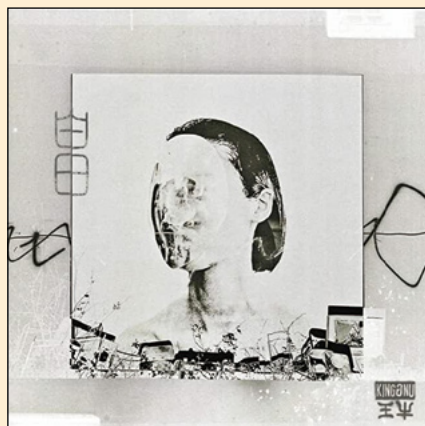
Jamiroquai Virtual Insanity

1990年代に大ブームを巻き起こしたジャミロクワイの3rdアルバム『Travelling Without Moving』に収録。同アルバムは世界で最も売れたファンクアルバムとしてギネス認定され、ミュージックビデオも一世を風靡した。1996年リリース。



Maroon 5 Sugar

アメリカの大人気ポップロックバンド、Maroon 5が2014年にリリースした5thアルバム『V』収録。ループするコード進行と4つ打ちのビートに楽器のフレーズを大きく変化させないことで踊れるクールな雰囲気を出している。



ロック解体新書 ベース編

文・山田潤一

King Gnu 白日

～ニュアンスで違いをつける巧みなプレイ～

2019年にメジャー・デビューを果たした King Gnu（キング・ヌー）は、今最も勢いのあるバンドの1つだ。自らの音楽を「トーキー・ニュー・ミクスチャー・スタイル」と称している通り、楽曲にロック、ジャズ、ヒップホップ、クラシックなど、様々な音楽のエッセンスが融合されている。ベーシストの新井和輝はエレキ・ベース、シンセ・ベース、ウッド・ベースを弾きこなす多才ぶりを発揮しているが、この楽曲でも「ハネ感」を絶妙にコントロールした巧みなベース・プレイが、楽曲のニュアンスに繊細な彩りをつけている。

「ハネる」グルーヴを作り出す・・・

この楽曲は、16分音符がハネている「ハーフタイム・シャッフル」と呼ばれるリズムになっている。そのハネ感を作り出しているのが16分音符の裏拍で、タイミングをコントロールすることで気持ち良いグルーヴが生まれている。例えば、Bメロのベース・フレーズは1小節でひとまとまりになっているのだが、前半は8分音符をスタッカートで弾くことでハネ感を強調しないようにして、後半の16分音符でハネたリズムを出している（譜例）。Bメロをあまりハネない印象にすることで、次にくるサビのハネ感が強調され、より



譜例 Bメロのフレーズ。16分音符の裏拍（×印）が入るタイミングを意識して弾こう

劇的な変化がもたらされているのだ。

サビのセクションも、同様に1小節でひとまとまりのフレーズになっているのだが、Bメロとの大きな違いは、1拍目の16分音符の裏拍にある。一見、さほど違いは感じないかもしれないが、ここに音符を入れることで、フレーズがハーフタイム・シャッフルのハネ感をより強く感じられるようになる。些細な変化ではあるが、こういったアプローチのような音符のコントロールで、楽曲の流れに盛り上がりを作り出しているのだ。演奏する時は、この違いを意識してみると良いだろう。

ニュアンスの使い分け・・・

基本的なリズムはハーフタイム・シャッフルなのだが、この楽曲の面白いところは、たまに「ハネていないフレーズ」が出てくるところだ。例えば、AメロからBメロに行く時のドラムのフィル・インなどは意識的にハネていないのだが、それがそのフレーズを「クール」に感じさせ、非常に良いスパイスになっている。ベースも同様に、2コーラス目のAメロに入る前のフレーズがハネていなかったりと、繊細にニュアンスを使い分けている。一番わかりやすいのは、2コーラス目のBメロで、ここでのベースとドラムは後半部以外、ほとんどハネていない。

このような手法は、ヒップホップなどのブラック・ミュージックでよく使われているものだが、こういったところからもリズム隊の音楽的なバック・ボーンを感じることができる。ハネ感というのは、些細な演奏の違いでニュアンスが変わってくるものなのだ。

参考にするなら、この曲もオススメ！



Suchmos MINT

サチモスが2016年にリリースした様々なリズムが混在している楽曲。ハネ感もちろんだが、ベースはレイドバックさせる（少しもたらせて弾くこと）などニュアンスを大事に弾いている。各セクションのグルーヴの絶妙な違いが感じられる秀作。



Dragon Ash Viva la revolution

日本のミクスチャー・バンド、ドラゴン・アッシュが1999年にリリースした同名アルバムの表題曲。ヒップホップ的な要素が強く、ハネないギリギリを攻めたニュアンスのリズムが聴ける。音数が少ない中、ドラムとのグルーヴの絡み具合は必聴。



ロック解体新書 ベース編

文・山田潤一

Saucy Dog シンデレラボーイ

～堅実さと華やかさを持つベース・フレーズ～

「シンデレラボーイ」は、3ピースのロック・バンド、Saucy Dogの2021年にリリースされた3枚目のミニ・アルバム『レイジーサンデー』に収録されている、バンドを代表する楽曲だ。ベース・ラインは、3ピース・バンドの音の少なさを補うようなメロディアスなラインと、バンドを支えるボトム感という、華やかさと堅実さの両方を兼ね備えたものになっている。

音域の高低差で楽曲の流れを作る

この楽曲のベースは、音域の使いわけが上手く行われている。1コーラス目のAメロでは、前半はシンプルだが、後半は裏メロのような細かいフレーズを弾いている。この時、9フレットより上のポジションの高い音域を使用することで、途中から入っても他の楽器と自然に馴染むことができていくのだ。

Bメロでは、コード進行がF#m7→E→Dと展開していて、それに合わせてベースも徐々に低い音域に変わっていくことで、サビに向けて徐々に安定感を作り出し、サビでは低い音域を使ってフレーズを構成することにより、ボトムをしっかりと支えている。バンドとしての一体感が強固になり、勢いのあるアレンジだ。また、2コーラス目からはドラムもしっかりとビートを出しているの、それに合わせてベースも低い音域でフレーズングしている。これにより、2コーラス目以降はよりバンド感溢れるアレンジに感じられる。

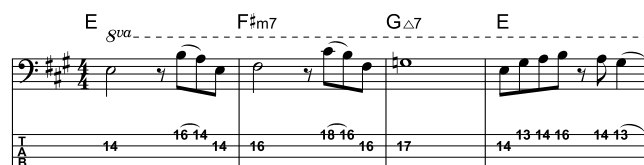
このように、この楽曲のベースは音域をうまく使い分けて楽曲のアレンジに大きく影響を与えているのだ。

ノン・コード・トーンの音使い

ベースが裏メロを弾いている時には、「ノン・コード・トーン」と呼ばれる、和音の構成音（コード・トーン）に含まれていない音が使用されている。ベース・ラインは、コード・トーンに合わせてフレーズを弾くことが多いが、ここではノン・コード・トーンの「4度」の音を使用することで、フレーズを印象的なものにしている。

例えば、1コーラス目のAメロの5小節目からベースはメロディアスなフレーズを弾いているが、5小節目からのコードはE→F#m7→Gm7→Eと進行しているのに対し、コードEの時には1弦14フレットのA(ラ)、F#m7の時には1弦16フレットのB(シ)の音を使用している。これが、コードに対して4度の音になっているのだ（譜例）。

この4度の音を入れることで、この部分がメロディアスな印象になっているのだが、コードが変わっても似たようなフレーズを繰り返すことでリフレイン効果も生まれ、裏メロらしい印象的なフレーズになっていることもポイントだ。バンド・アレンジの参考になるだろう。



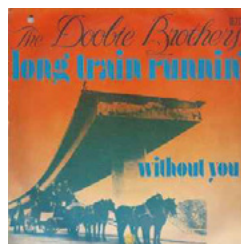
譜例 コードの4度の音を意識して弾いてみよう

参考にするなら、この曲もオススメ！



ハナレグミ 発光帯

SUPER BUTTER DOGのボーカル、永積タカシのソロ・プロジェクトであるハナレグミの楽曲。しっかりとボトムを支えつつ時々で出てくるメロディアスなベース・ラインが楽曲を彩る。まさに「ベース玄人」なプレイは必聴だ。2021年リリース。



The Doobie Brothers Long Train Runnin'

アメリカのバンド、ドゥービー・ブラザーズが1973年にリリースした大ヒット曲。コードGm7の有名なギター・リフにベースは4度のC(ド)音を入れてフレーズを構成している。通常のマイナー・セブンスとは少し違った響きが胸に迫る。



ロック解体新書 ドラム編

文・辻伸介

the peggies グライダー

～グランジとポップスが融合されたプレイ～

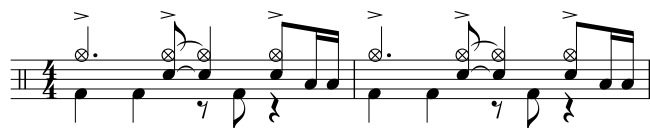
中学校の軽音楽部で一緒だった3人で結成され、高校時代にはすでに輝かしい経歴を築きあげていた the peggies は、メジャーリリース前からすでに並々ならぬセンスに溢れていたガールズバンドだ。この楽曲も、メジャーデビュー前の2015年に全国流通リリースしたアルバム『NEW KINGDOM』に収録されている、グランジサウンドとポップさが融合したハイセンスなロックナンバーだ。

グランジは、1980年代中頃からメジャーシーンに踊り出したアンダーグラウンドムーブメントの1つで、パンクロックの流れをくむ。ドラマーの大貫みくは、ボーカル＆ギターの北澤ゆうほから吐き出されるグランジ系のパワフルなギターや歌詞、そしてボーカルを後押しするようにフレーズを紡いでいく。

楽曲のイメージを理解して呼応する・・・

大貫みくのドラミングで何よりも特筆したいのは、女性特有の柔らかさを活かしたスティックのショットスピードだ。Bメロの基本的な8ビートのパターンも、イントロの1拍半フレーズも、彼女が叩くと躍動感のあるドラミングになる（譜例）。

また、難しいテクニックを使わずに、しかもあくまで「ポップ」に徹しているところは見逃せない。例えば、1コーラス目のサビで



譜例 インтроの1拍半パターン。最後のフロアタムが勢いを出す

は2拍4拍のスネアのバックビートを叩かないというアレンジになっている。通常ではサビで最も勢いを増すことがセオリーなので少しスカされた感じになるのだが、続くサビ後半の「♪おーうおー」と連呼するセクションへの橋渡しとなっている。1コーラスを経過した2コーラス目では流れを止めてしまうため行われていない。

そして、全体的に見てもBメロ以外は4分音符で4つ打ちするバスドラムを基本的なパターンとしている。2拍4拍のスネアの部分にもバスドラムを踏むことで、グライダーが滑空するような疾走感を演出し、歌詞にマッチするような表現となっている。

楽曲の構成は少し複雑だが、しっかりとセクションごとの世界観が作り出すイメージを理解して呼応しようという気持ちが伺える。それは、苦楽をともにしてきた3人だからこそ出せる一体感なのかもしれないが、譜面には書くことができない「バンド感」は、音楽を作っていく上で最も大切な部分だ。

サウンドメイクも「融合」・・・・・・・・・・

グランジサウンドの特徴は、シングルコイルのギターにファズ系の歪みエフェクターといった感じだが、ザ・ベグーズの場合は、その上に透明感のあるボーカルが乗る。そして、それらを支える重量感のあるドライブしたベースと、太くアタック感のあるドラムサウンドが何ともロックでかっこ良い。

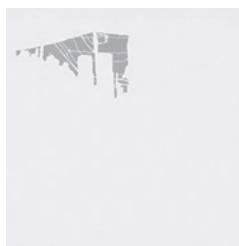
原曲の音から判断すると、スネアはウツの5インチ半や5インチの深さのものを使っているようだ。こういった音作りも、北澤のボーカルとギターを活かすには最適といえ、また、見事にグランジとポップスが融合されていると思える部分だ。

参考にするなら、この曲もオススメ！



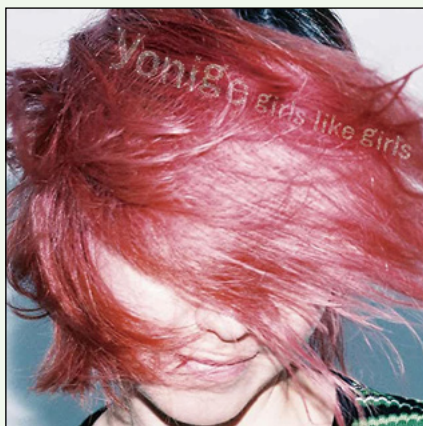
Hole Violet

コートニー・ラブ (Vo&Gt) 率いるアメリカのバンド、Hole の7th シングル。夫カート・コバーン (Vo&Gt) の自殺などセンセーショナルな話題が多かったが、女性グランジバンドの代表格として世界中で人気を博した。1995年リリース。



BUMP OF CHICKEN 天体観測

2001年にリリースされたBUMP OF CHICKENの2ndシングル。サビの最初からドカン！といかないところや4つ打ちのバスドラムの使い方など、比較的シンプルなパターンとリズムで楽曲をサポートするドラミングに注目。



ロック解体新書 ドラム編

文・辻伸介

yonige ワンルーム

～モヤモヤを表現するドラム～

ボーカル & ギターの牛丸ありさと、ベースのどっきんからなるユニットである yonige は、元メンバーだったドラマーが脱退してからサポート・ドラマーを入れて活動を続けている。2017年にリリースされたフル・アルバム『girls like girls』は、記念すべきメジャー第1作目であり、そのリード曲としてこの楽曲は収録されている。歌詞は、高校生には少し早いオトナの恋が描かれているが、恋愛に関するモヤモヤはどんな年代にも共通する想いだろう。そんな単純ではない感情を表現する2人のプレイに、ドラムも様々なアプローチでしっかりと楽曲を支えている。

ドラマを作る B メロのアプローチ

ドラムの基本パターンは、パンキッシュなアレンジに合うシンブルな8ビートに思えるが、実はイントロを聴けばわかるように、16分音符のゴースト・ノートを変えた「シェイク」のグルーブだ。深読みすれば、この「せわしない感」が歌詞の世界観とマッチしていて、胸にグッとくる部分でもある。歌詞の内容に対して明るめな印象さえ持ってしまう牛込のボーカルは、深刻な出来事をサラリと流してしまっている無常感や開き直りとも取れる。しかし、ドラムの「邪魔にならない程度の」せわしない16分音符が、心の奥底に潜む焦りや不安を絶妙に表現しているようにも感じてしまう。リズムで感情も表現できるのだ。

Bメロというセクションは、ドラマ作りの肝であるため、メロディーやコード進行などをはじめ、各パートが他のセクションとは違うアレンジにすることが多い。この楽曲のドラム・パターンにもそれは表れていて、1コーラス目も2コーラス目も少し変わったア

プローチになっている。特に、1コーラス目はスティッキングが複雑なフレージングになっていて（譜例）、歌詞のモヤモヤした複雑な心境をうまく表現している。

ポイントは、全音符のギター、4分音符のボーカル、8分音符のベースと、音価が被らないフレーズになっているところだ。それによって、AメロからBメロに入った時に広がりが出るだけでなく、Bメロ後半で全員が8分音符になった時に盛り上がりが高潮に達するようにになっている。その後のサビへの期待感も膨らむアレンジだ。



譜例 1コーラス目のBメロの最初。裏拍を常に感じることが大事

「気になる」スネア・ドラムのピッチ

この楽曲は、どこか粗野なガレージ・バンドっぽさがカッコ良い。それは、スネア・ドラムの音作りからも感じる。

わざとなのか偶然なのかはわからないが、簡単に言えば、スネアの出すメインのピッチ（音程）が楽曲のキーより絶妙に高いのだ。もう少し高くても低くても不協和音すぎて不快に感じたり、キーと合って「普通」になってしまう。この「気になる」スネアのピッチが、自然と聴く者をモヤモヤさせるのだ。しかし、ここが良い意味での素人さを演出し、歌詞の世界観を表現することに一役買っている部分でもある。ドラムも楽器なので、そのサウンドにも気を配ろう。

参考にするなら、この曲もオススメ！



The Offspring The Kids Aren't Alright

アメリカのポップ・パンク・バンド、オフスプリングの5thアルバム『Americana』からのシングル。シリアスな内容の歌詞に対していろいろな感情をかき立てさせるドラムのプレイがスピード感とパワフルさと共に迫ってくる。1999年リリース。



ASIAN KUNG-FU GENERATION リライト

2004年にリリースされたジャパニーズ・ロックの雄「アジカン」の5thシングルであるこの楽曲は、今やJ-ROCKのバイブル的存在だ。スピード感あふれるドラミングと共にピッチが絶妙なスネア・ドラムがガレージ・バンド感を出している。



ロック解体新書 ドラム編

文・辻伸介

Hump Back 今日が終わってく

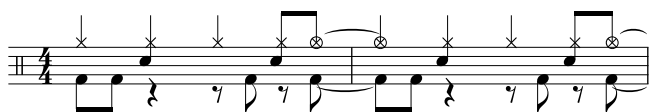
～ボーカルとアレンジにシンクロするドラム～

紆余曲折の末、2018年にメジャー・デビューを飾った3ピース・ガールズ・バンド、Hump Backの1stシングルである『拝啓、少年よ』に収録されているこの楽曲は、キャッチーでストレートなロック・ナンバーだ。Hump Backは、唯一のオリジナル・メンバーであり、ボーカル & ギター、作詞、作曲を担当する林 萌々子のソロ・プロジェクトの延長線上にありつつ、しっかりと1つのバンド・サウンドとしてまとまっている。それはドラムのフレーズやプレイにも現れていて、シンプルながらも感情を歌詞と歌に乗せたボーカルと、ソリッドに鳴り響くギターにシンクロするようなプレイになっている。

バリエーションのあるシンコペーション・・・

Hump Backのドラム・フレーズは、どの楽曲もシンプルかつ、的を得たフレーズが多い。また、ドラミングの基礎的なプレイもよく見られるため、コピーすれば初心者ドラマーには得られるものが多いだろう。

この楽曲では、リズムのアクセントを前に移動させる「シンコペーション」が様々なパターンで使われている。最もわかりやすいのが、イントロの最後部やBメロなどで出てくる、シンバルとバス・ドラムで行うものだ。ロックのシンコペーションの多くは、小節を跨ぐ



譜例 Bメロのシンコペーション。スネアでテンポ・キープを心がけることがコツ

時に8分音符で行われるが、この楽曲のBメロがまさにそれだ（譜例）。このアクセントは、歌のメロディーとギター・カッティングにリンクしているのだが、この緊張感はシンコペーション直前のギターとベースの休符によるものだ。休符の一瞬の静寂に続くスネア、そして全員でユニゾンするシンコペーションはとてもスリリングで、その後にくる熱いサビへ向かう良いステップとなっている。

また、シンコペーションのバリエーションはいろいろあり、この楽曲でも他にいくつか使われている。サビは、スネアが4分音符の頭打ちを演奏しながらのシンコペーション。イントロは、ハイハットをハーフ・オープンで4分音符で叩き続けながらバス・ドラムだけで行うもの。1コーラス目の繰り返しのAメロは、ハイハットをクローズした8分音符で2拍目裏から3拍目にかけて行っている。シンバルを叩かない場合は、右手が足につられやすいので演奏する時には注意が必要だ。

温かみのあるスネア・サウンド・・・・・・・・

ミュージック・ビデオのライブ映像を見ると、スネア・ドラムはメイプル・シェルのスネアを使用しているようだ。メイプル・シェルは、温かみがありながらもパンッと乾いた高音が特徴のスタンダードなウッド・スネアで、この楽曲の歌詞やサウンドにもよく合っている。

ウッド・シェルではなくても、打面のヘッドを少しキツめに張って、嫌な高音の倍音が出ていたら端の方にガムテープを棒状に丸めて貼ると良いだろう。ボーカルや楽曲のイメージを生かすサウンドを模索しよう。

参考にするなら、この曲もオススメ！



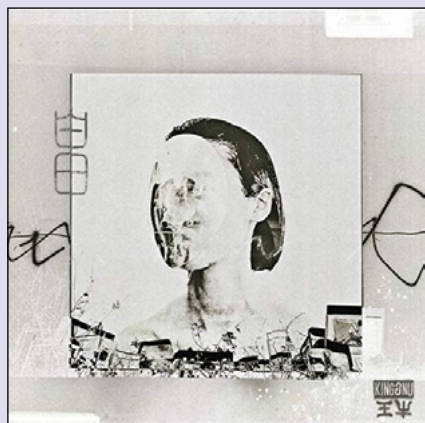
Sum41 The Hell Song

正統派パンク・バンドでありながら、オルタナ系、メロコア系の側面もあるカナダ出身のバンド、Sum41の2003年にリリースされた8thシングル。見事なまでにユニゾンする8ビートとサビのシンコペーションがパンキッシュに炸裂する！



渡辺美里 Lovin' You

シンガー、渡辺美里が過去に発売された自身の楽曲をセルフ・カバーしたアルバム『HELLO LOVERS』に収録。ドラムは元TOTOのジェフ・ボーカロで、ウッド・シェル・スネアの温かいサウンドと的確なプレイが楽曲を包み込む。1992年リリース。



ロック解体新書 キーボード編

文・竹中敬一

King Gnu 白日

～歌の表現力に寄り添ったプレイ～

今や日本を代表するバンドとなった King Gnu。豊富な音楽知識や高いスキルを持つ4人によって作り出されるサウンドは、様々な音楽スタイルを自由に取り込む文字通りのミクスチャーバンドだ。

この楽曲は、2019年にテレビドラマの主題歌として書き下ろされたものだが、歌詞の内容にドラマとのリンクが見受けられる。そして、その歌詞を歌い上げるボーカルの表現に寄り添ったキーボードのプレイが秀逸だ。

歌のノリに合わせたピアノバックング……

この楽曲のキーボードは、早弾きのような難しいテクニックを駆使したフレーズや演奏はほとんど登場しない。冒頭から聴こえるピアノは、楽曲を通してほぼ1拍単位で大きくコードバックングをする程度だ。簡単そうに思えるプレイだが、実は歌が生み出すリズムに寄り添っていないと楽曲全体がギクシャクしてしまう。

まずは、歌とピアノでしっかりと始まる冒頭部分。この楽曲は4分の4拍子なのだが、ボーカルは1拍を3連符(8分の12拍子)のように細かく感じて歌っている(譜例)。ピアノはコードをアルペ



譜例 細かくリズムを感じながら大きくとらえるコードバックング

ジオで鳴らしているが、アルペジオの速さは楽曲のイメージによって変わる。この冒頭部分のように歌が唯一リズム感を出しているような場合、アルペジオ全体が間延びしないためには歌に寄り添いながら自らテンポキープをすることが大事だ。

しかし難しいのはその後で、Bメロからシーケンスのループが入ってくるのだが、このループはサビの細かいビートへつなげる伏線になっていて、歌とのノリが若干違って聴こえる。キーボードもこのループではなく、歌のリズムに寄り添ってバックングしているため、サビでループが提示したリズムが生ドラムに受け継がれ、世界観が変わって聴こえるのだ。

ボーカルを中心とする楽曲を演奏する時は、歌をしっかりと聴いてメロディをメンバー全員が口ずさめるようになるまで理解することが大事だ。この楽曲は、そうすることによって初めてアンサンブルはまとまっていくのだという証だ。

隠し味のオルガン……

よく聴いていないと気づかないが、隠し味で随所にオルガンが楽曲に色彩を加えている。楽曲全体にはではなく、ここぞという部分だけの絶妙なさじ加減で、楽曲のストーリーに合わせその場所に適切な音域でプレイされていて、その混じり具合がとても心地良い。

2コーラス目のBメロや間奏後の落ちサビ後半などは、レースのカーテンのように薄く淡い音色で全体を覆い、エンディングのピアノのフレーズには低い音域でジャズっぽい音色が重なっている。さらに、アクセントとなるサビの1拍目はグリッサンドでかっこ良く仕上げられている。

参考にするなら、この曲もオススメ!



Donny Hathaway For All We Know

原曲は1934年発表のジャズナンバー。アメリカのシンガー、ダニー・ハサウェイがR・フラックとの共同名義アルバムでカバーしたものだが、完全に自分の楽曲として昇華させている。ピアノと歌の間合いが心に響く。1972年リリース。



矢野顕子 中央線

稀代のシンガーソングライター、矢野顕子の2006年にリリースされたベストアルバム『ひとつだけ』に収録。数々のバージョンがあるが、本作の歌&ピアノのソロパフォーマンスは情感豊かなプレイが圧巻。オリジナルはTHE BOOM。



マカロニえんぴつ レモンパイ

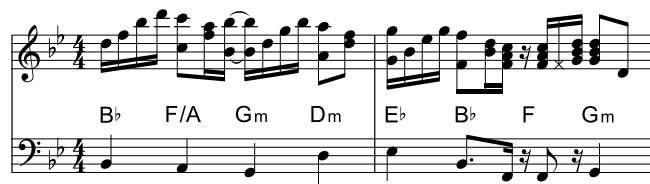
～キーボードで作る楽曲の世界観～

メンバー全員が音楽大学出身のバンド、マカロニえんぴつが2018年にリリースした「レモンパイ」は、青春の甘い恋を描いた歌詞に軽快でポップなメロディーが心地良い楽曲だ。ドラム、ベース、ピアノのリズム・アレンジも一体感があり、そこに絡むギターのカッティングも気持ち良い。

軽快さを作り出すラテン風ピアノ・フレーズ

この楽曲は、ポップなラテン風ピアノ・イントロで始まるが、フレーズは中南米カリブ海のトリニダード・トバコの伝統音楽である「カリブソ」っぽい雰囲気がある（譜例）。ドラム缶をすり鉢状に成形して音階を作る楽器「スティール・パン」で有名な音楽と言えばイメージしやすいかもしれない。このイントロのピアノ・フレーズは、リフとして随所に登場し楽曲を象徴するものだが、3拍目の16分音符がシンコペーションしているところがポイントだ。ルート音はあえて4分音符で動くことで、2ビート感が増してフレーズが生きている。また、オクターブ・ユニゾンになっている部分にアクセントがついて躍動感が出ていることも見逃せない。

イントロでは同じリズムを刻んでいたバス・ドラムが歌に入ると4分音符の4つ打ちになり、ベースも抜けてピアノとドラムだけに



譜例 イントロなどに出てくるカリブソ風ピアノ・リフ

なる。このアレンジがこの楽曲の必要な要素で、イントロはユニゾンすることによって一体感のある疾走感を出し、歌に入ると落ち着いた雰囲気を作っているのだ。空間ができることで歌詞がより前に出てくる効果もある。

多彩な音色で楽曲のセクションを際立たせる

キーボードの音色は、曲中は一般的なピアノの音だが、イントロだけ「ホンキー・トック」風な音色になっていて、さらにラテンな雰囲気が出ていて面白い。ホンキー・トックとは調律がちゃんとされていないピアノのことを指し、「ラグタイム」や「ブギウギ」などの音楽が演奏されていた20世紀初頭のアメリカの酒場に置かれているピアノをイメージした音色だ。シンセサイザーやエレクトリック・ピアノでも、この音色は入っていると思うので、マルチ・ティンバーで弾く時はピアノをレイヤーで重ね、1つのピアノのディチューンを少しずらせば簡単に作れる。音色を確認しながらずらしすぎないようにするのがコツだ。

サビには、アナログ・シンセサイザーの音色で音価の長いカウンター・メロディーが入っているが、この音色はノコギリ波（Saw Wave）だ。ノコギリ波はLeadなどによく使われる音色だが、これをそのまま使うと攻撃的な音色になってしまうので、この楽曲ではフィルターのカットオフ・フリークエンシー（写真1）が少し絞られていると思われる。

もう1つ注目したいのは、大サビ後の落ちサビでの「クラビネット」の音色だ。ここで出てくるクラビネットは特にエフェクト処理されておらず、あえて素の音色で演奏することで、盛り上がり後の落ち着いた「落ちサビ」を演出している。

参考にするなら、この曲もオススメ！



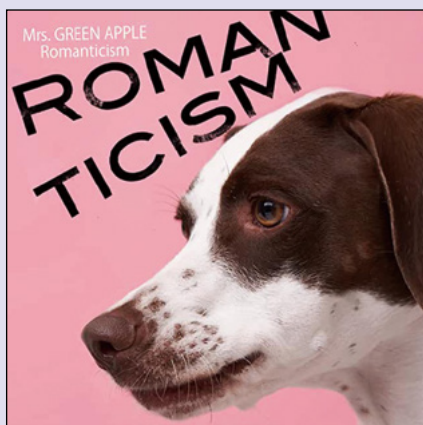
Official 髭男dism I Love...

「ヒゲダン」こと、Official髭男dismが2020年にリリースした4枚目のシングルで、ドラマの主題歌にもなった楽曲。ドラム、ベース、キーボードが同じリズムを刻むことで楽曲の中に空間ができ、メロディーをうまく前に出している。



Billy Joel Don't Ask Me Why

アメリカのシンガー・ソング・ライター、ビリー・ジョエルの7thアルバム『Glass Houses』からのシングル。ラテン風アレンジに乗るポップなメロディーが心地良い。間奏のピアノは15台ダビングされたとの逸話も残る。1980年リリース。



ロック解体新書 キーボード編

文・鳥居克成

Mrs. GREEN APPLE ロマンチズム

～オルガンで支えるバンド・サウンド～

2015年メジャー・デビューのMrs. GREEN APPLEが、2019年にリリースした9枚目のシングルであるこの楽曲は、制汗剤のコマーシャル曲として流れていたこともあって記憶に新しい。美しいオーケストラ・アレンジなどの楽曲が多く目立つ彼らだが、「ロマンチズム」のキーボードはオルガン中心で構成されており、軽快なビートに乗って曲全体に彩りを加えている。

力強いオルガンの音色で上がるボルテージ・・・

この楽曲は、ギター中心のアレンジだが、その上で聴こえてくるオルガンの音色は心地良い。このオルガンの音色は、代表的なオルガンとして知られる「ハモンド・オルガン」だ。本来、ドローバーと呼ばれる9本のスライダーを使って音色を作っていくのだが、最近のシンセサイザーにはオルガンの音作り用にドローバーを搭載したモデルも多く見られる（画像）。ピアノの音色とは違って音が減衰しないので、ロック・オルガンの演奏では歪みの強いギターの音色に負けないように、9本のドローバーを全開にして演奏される楽曲も多い。この楽曲も同様に、ドローバー全開なサウンドからサビの力強さとボルテージを感じることができる。

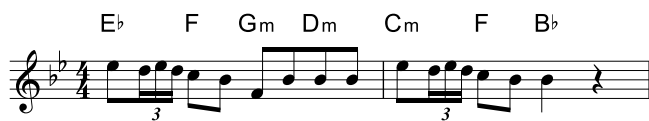
力強いのに心地良さを感じる要因は、オルガンの音色に欠かせない「レスリー・スピーカー」の存在だ。これは、低音と高音を別々のスピーカーで回転させながら鳴らす仕組みになっていて、回転速度を調節できる。高速回転での音色は非常にスピード感のある音色だ。この楽曲のサビでも、高速回転の設定で全音符のコード・プレイが、軽快なビートに負けないスピード感を出している。レスリー・スピーカーは、エフェクターとして内蔵されている機種も多い。多

くが「ロータリー・スピーカー」というエフェクト名でプリセットされていて、回転速度をモジュレーション・ホイールを使って変化させるのが一般的だ。

違う音色で繰り返されるフレーズの効果・・・

この楽曲で使われているキーボードの音色としては、オルガンの他に「ハーブシコード」「グロッケン」などもある。特に、ハーブシコードとオルガンが同じフレーズを交互に弾くアレンジの部分は、サビの中で次へ向かう場面展開として重要だ。基本的には歌のメロディーと同じなのだが、16分音符の3連符を使うことでバロック調のクラシカルなフレーズに聴こえる（譜例）。

2コーラス目で出てくるこのアレンジは、先にこのフレーズをオルガンが弾き、続いてハーブシコードが繰り返しフレーズを弾いている。また、オルガンはフレーズを弾いた後でグリス・ダウンをしており、これがハーブシコードへ渡すつなぎになっている。オルガン中心のアレンジだが、随所に出てくるハーブシコードもこの楽曲の彩になっているのだ。



譜例 16分音符の3連符（半拍3連符）が光るフレーズ

参考にするなら、この曲もオススメ！



TOTO Rosanna

アメリカのバンド、トトの4thアルバム『TOTO IV』に収録。様々なキーボードの音色で構成されている中、オルガンが重要な役割を担っている。最後のサビではブラス・セクションとのフレーズの掛け合いが楽曲を盛り上げる。1982年リリース。



佐野元春 約束の橋

今なお一線で活動を続けるシンガー・ソング・ライター、佐野元春が1989年にリリースした28thシングル。ハモンド・オルガンのフレーズやコード・プレイが光る。レスリー・スピーカーの回転を変えることでの柔らかさ、力強さも感じ取れる。



「簡単に楽典を学びたい」と考えている女子高校生ギタリスト、歌田メイ。そしてメイの近所に住んでいて楽典に詳しい謎のロックおやじ、半ズボン先生。メイの兄で先生の一番弟子、歌田ダンの3人。彼女たちと一緒にマンガと文章による解説で楽しく楽典を学びましょう!

著者：辻 伸介／作画：榎田道也

マンガでわかる!
ロック楽典
キャラクター紹介

歌田メイ

音楽とギターをこよなく愛する軽音楽部所属の女子高校生。師匠とアニキのちょっと変わったレッスンから、楽典を部活動やバンドに役立てようと思っている。



半ズボン先生

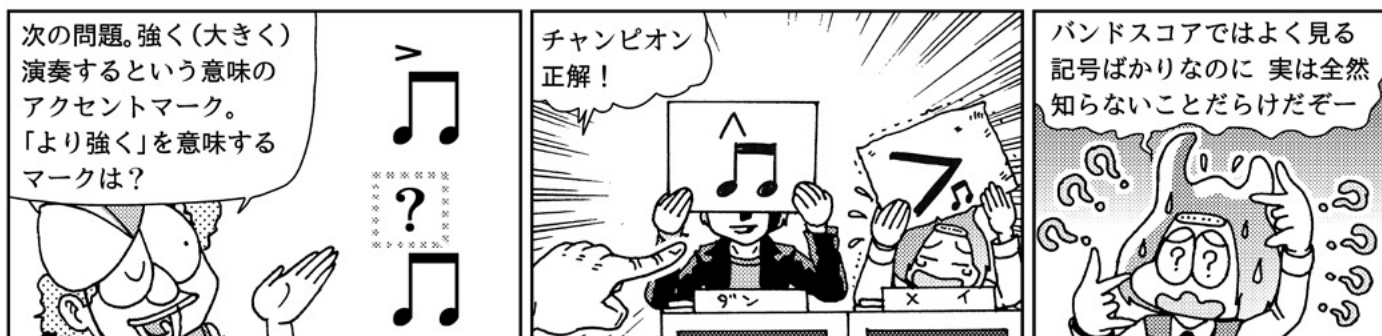
メイの近所に住む楽典マスター。本名や年齢、経歴などプロフィールは一切謎だが、楽典を「ロック」に教えてくれるメイの師匠。音楽的「格言」が好き。

歌田ダン

メイの兄で、音楽にも詳しい。ギターやバンドをもっと楽しんでもらうためにメイを半ズボン先生に紹介。ちょっと抜けてる先生のサポート的存在。







いろいろな記号

奏法記号

音符に標語や記号を付けて演奏方法に関することを指示します。

1. 音量に関する記号

① アクセント

ある音を他の音より強く（大きな音で）演奏することを指示します。その指示される音符の上や下に「>」や「^」の記号が付記されます。

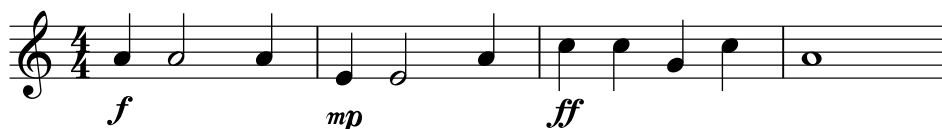


② ピアニッシモ

ある音やフレーズを弱く（小さな音で）演奏することを指示します。音量の小ささはそれぞれメゾピアノ「*mp*」→ピアノ「*p*」→ピアニッシモ「*pp*」→ピアニシッシモ「*ppp*」の順に小さく演奏することを意味します。

③ フォルティッシモ

ある音やフレーズを強く（大きな音で）演奏することを指示します。音量の大きさはそれぞれメゾフォルテ「*mf*」→フォルテ「*f*」→フォルティッシモ「*ff*」→フォルティシッシモ（フォルテ・フォルティシモ）「*fff*」の順に大きく演奏することを意味します。

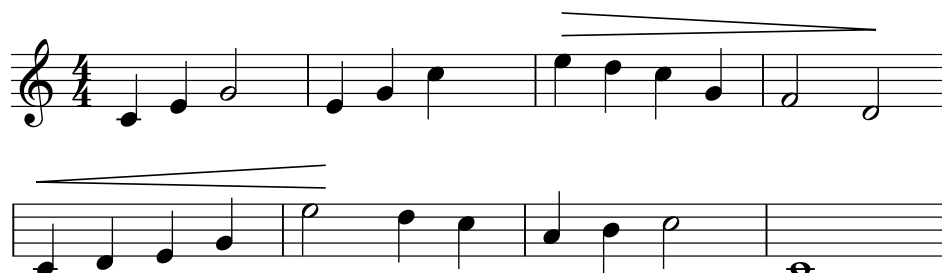


④ クレッシェンド

だんだん音量を上げて演奏することを指示します。その範囲は ♪ ————— ♪、によって指示されます。

⑤ デクレッシェンド

だんだん音量を下げて演奏することを指示します。その範囲は ♪ ————— ♪、によって指示されます。



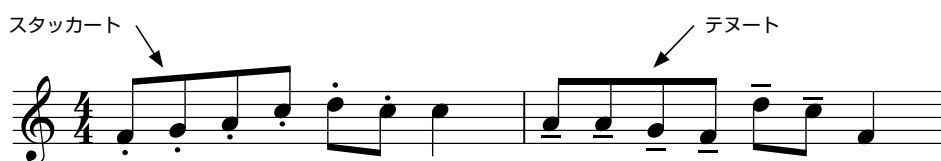
2. 演奏の仕方（表情の付け方）に関する記号

① スタッカート

音を短く切って演奏することを指示します。音符の上下に点が付けられます。

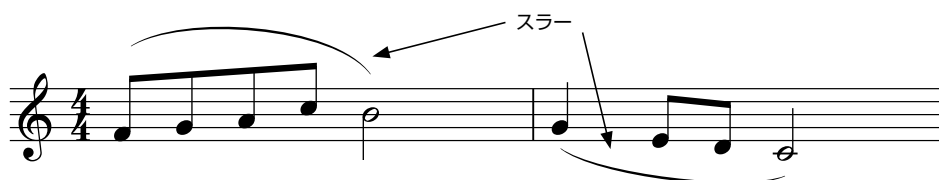
② テヌート

音の長さを十分に保って演奏することを指示します。音符の上下に短い横線が引かれます。



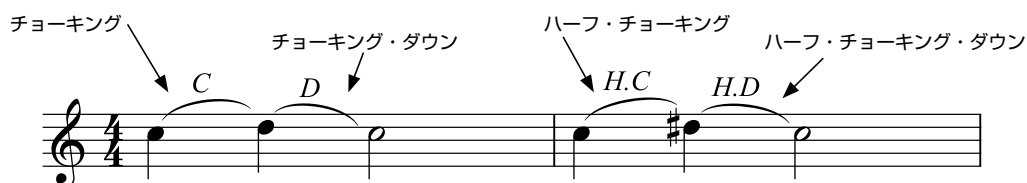
③ レガート

音を切らずに滑らかに演奏することを指示します。その範囲は「スラー」と呼ばれる弧線によって指示されます。



④ チョーキング

ギターやベースで弦を押上げて（あるいは下げて）、音程を変化させることを指示します。普通半音～2音変化させる場合が多く、ロックには欠かせない奏法の1つです。弦を押上げた状態で弾いてもとの音に戻す「チョーキング・ダウン」、チョーキングしておいてビブラートをかける「チョーキング・ビブラート」などもあります。

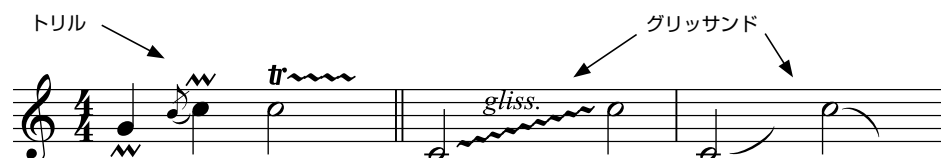


⑤ トリル

主となる音と、その半音下（あるいは半音上など）の音をできるだけ速く交互に演奏することを指示します。音符の上に波線が付けられます。

⑥ グリッサンド

2つの音の間をスライドさせて演奏することを指示します。ロックでは始まりの音は決まっていないこともあり、指板や鍵盤をテンポやリズムに合わせてスライドさせる奏法全般を指すこともあります。グリリス、グリリスダウンとも言われます。



いろいろな記号

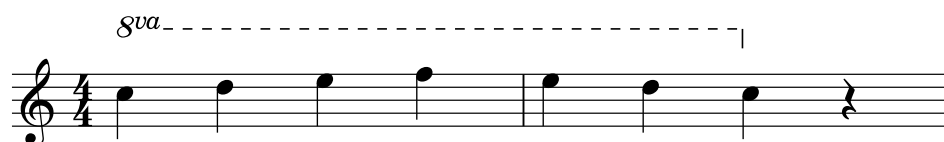
④ アルペジオ

和音を一度に発音するのではなく、低い音（あるいは高い音）から順番に演奏することを指示します。日本では「分散和音」とも言い、1つのコードを1音ずつ（あるいは複数音）順番にテンポに合わせて演奏すること全般を指すこともあります。

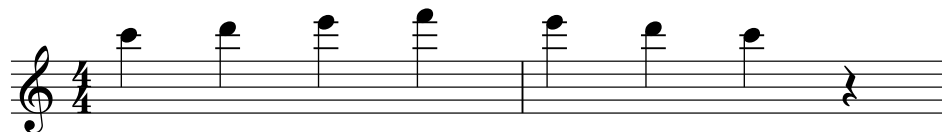


⑧ オクターブ記号

五線譜上の音符を、記されているよりも1オクターブ上げて（あるいは下げて）演奏することを指示します。その範囲は「8va」の標語と点線によって表されます。音符の上に記されていればオクターブ上で、下であればオクターブ下で演奏するという意味になります。



実際に演奏する音程



ロックギターやベースでは、ある種エレキ弦楽器独特と言っても良い特殊な奏法がたくさんある。弦を弾いたあとに左手の指で弦を叩いて音を出す「ハンマリング・オン (H)」、逆に弦を弾いたあとに左手の指で弦をはじいて音を出す「プリング・オフ (P)」、弦を弾いたあとに違う音までフレットをそのまま移動させる「スライド (S, Sl.)」、右手をブリッジの上などに置きながらピッキングする「ミュート奏法 (Mute)」…など。現在ではこれらを譜面上で表すための奏法記号が次々生まれているが、コピーする時は実際の演奏をよく聴いてニュアンスまでコピーしよう！

3. バウンス記号

基本となるリズムの取り方を「バウンス（跳ねる）」することを指示します。記譜通り（イーブン）ではなく、8分音符や16分音符の裏拍を3連符の3つ目ととして演奏することを指示します。



実際に演奏する符割り



シャッフルやハーフタイム・シャッフルの曲の場合も本来の拍子は4拍子や2拍子であることを意識しよう。例えば、シャッフルは8分の12拍子ではなく、4分の4拍子で感じる事が大切だということである。バウンス記号はある意味ロック独特の表記だと言えよう。また、曲によっては演奏者の加減でキッチリ3連ではなく少しルーズにハネることもある。

小節の記譜省略記号

譜面表記の時に同じ音または同じ音型やパターンが連続している場合は、その記譜を省略することがあります。

① 記譜省略記号

前の小節とまったく同じことを演奏することを指示します。何小節ぶんなのかは点で囲まれた斜め線の数で示され、小節数が多い時はその数を数字で表記します。コードネームの省略やドラム譜の上半身部（あるいは下半身部）などにも使われます。

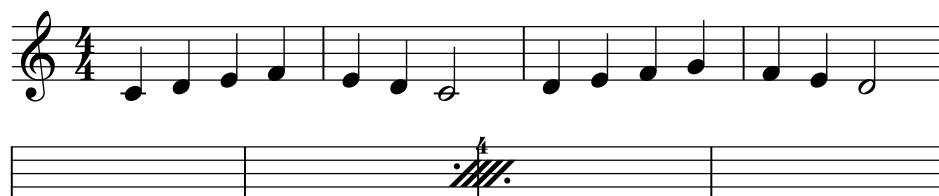
1小節繰り返し



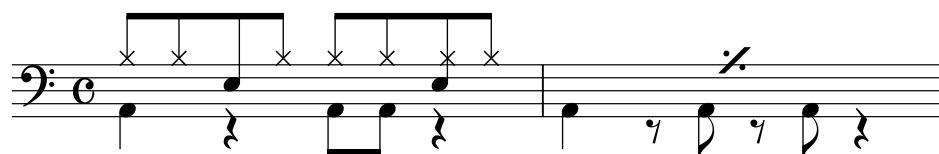
2小節繰り返し



4小節繰り返し



上半身部のみ繰り返し



② シミール

以下同様に演奏するということを指示します。略して「*sim.*」と表記されることもあります。



よく誤解されているが、シミールは「リピートマーク」ではない。「このあとはこんなカンジで続けてください」という意味だ。ミュージシャンそれぞれの感性に任されているポピュラー・ミュージックに適した記号だ。ロックはシミールの音楽だと言っても過言ではなかろう！

速度記号で謹賀新年！

新年
あけまして
おめでとう
だぞー

今年も
たくさん
ロックする
だぞー！

おーい！メイ！
あいさつはいいから
手伝ってくれーっ！

年末についたモチは
全部食ってしまった
から、またつくぞー！

もちつき！？

モチつき機で
作った方が早いだぞ、
ししまいさん

誰がししまいだー！
前から言ってるが
わしは素顔だ！

それに、ワシが、ただ単に
モチつきをしようか？

正月早々、モチつきで
リズムの練習だ！！

おー！！

モチつきは、つく人と
返し手のリズム
アンサンブルだ！

なるほどー！！楽しみながら、
リズム感が養えて、
さらにモチも食べ
られるという
深い考えが
あったんで
すねーっ！！

モチ3んだ

モチ……

さ、準備、準備

モチつきに重要なのは「テンポ」だ。2人で息を合わせるのだ

テンポよくやらないとケガをするぞ

NO~!

テンポの指定は、クラシックではややあいまいな表記が多い。

アンダンテ
・Andante = 歩くような速さで

アレグロ
・Allegro = 快速に

モデラート
・Moderato = 中位の速さで

しかしロックではメトロノーム表記が一般的だ。1分間に指定された音符を何回打つか、という意味だ

♩ = 120
1分間に4分音符が120回

すなわち、♩=60は、1秒ということです。メトロノームがないときは、時計を使えば60, 120はすぐわかります

よし、まずはゆっくり ♩=60からだ

はい！ それ、1・2

行進曲などは ♩=120が多いので、何か曲を思いうかべてもだいたいわかるぞ

いいかんじだ！テンポを乱すな!!

ひえ～ かなりの重労働だぞ

よし!!そろそろアツチエルだ!がんばれメイ!!

acce!

あ、あっちえる!!

速度を曲中で変化させる記号もあるから覚えておこう!

アツチエレランド アツチエル
・accelerando(accel.) = だんだん早く
リタルダンド リット
・ritardando(rit.) = だんだん遅く

アツチエルは英語訳で「アクセル」、スピードをあげることです。リットは曲のエンディングでよく使うので、全員そろって遅くなれるようにしましょう

ほれ、どんどんアツチエルだ

よし、少しリットだ

リズムトレーニングはきびしいだぞ～

今度は ♩=150までアツチエル!

最後はリットで仕上げだ!

終わった～ やっぱ、先生はモチが食べたかっただけみたいだぞ～

やっぱりつきたてはうまいのー

何しとる、早く着替えてこい。新年の挨拶をするぞ

とにかくにも今年もよろしくお願ひしますだぞー!

ふい～ハラいっぱいだわい

速度記号で謹賀新年！

速度記号

楽曲の速さ（テンポ）を表す記号のことを速度記号と言います。普通、譜面の楽曲タイトル部分の左横に表記されます。現代のポピュラー・ミュージックでは**メトロノーム表記**で示されることが多く、音符＝数字、または M.M.＝数字のように表されます。M.M.とは「メルチェル（メトロノームを作った人の名前）のメトロノーム」と言う意味の略称です。最近では DAW (Digital Audio Workstation＝パソコンで音楽を作っていくこと) の普及から、**BPM** (Beats Per Minute) という言い方をする場合もあります。120 BPM は ♩ = 120 と同じ意味です。

1. メトロノーム表記

4分音符などが1分間に何回（何拍）あるかを指示します。曲中にテンポが変わる場合にはそのつどその小節の最初に表記します。

例) 4分音符が1分間に120回という意味



★ロックの場合、下記のような表現でだいたいのテンポを示すことがあります。

スロー (Slow)、スローバラード (Slow Ballad) → ♩ = 60 ~ 80

ミディアムスロー (Medium Slow)、ミドルテンポ (Middle Tempo) → ♩ = 100 前後

アップテンポ (Up tempo)、ファスト (Fast) → ♩ = 140 以上

★テンポや拍子を変えずに、テンポが変化したように演奏する場合の表現もあります。

ハーフタイム → 例えば4分の4拍子を2分の2拍子のように感じて演奏します。テンポが半分に遅くなったように聴こえるためこう呼ばれます。

倍転 → 例えば4分の4拍子の1小節を2小節のように演奏します。テンポが倍に速くなったように聴こえるためこう呼ばれます。

2. 速度を変化することを意味する記号や標語またはその略号

メトロノーム表記によって指示された楽曲のテンポが、曲中やエンディングなどで変化する場合には、下の記号や標語またはその略号が表記されます。

① フェルマータ

音符や休符の上に記号「」が付けられた音符や休符は、その長さを適当（普通2～3倍）に伸ばして演奏することを指示します。ロックではエンディング・ロールに使用されることが多く、その場合は特に長さを決めないで音を伸ばすことがほとんどです。

② リタルダンド

そこからだんだん遅く演奏することを指示します。略して「*rit.* (リット)」と表記されることが一般的です。

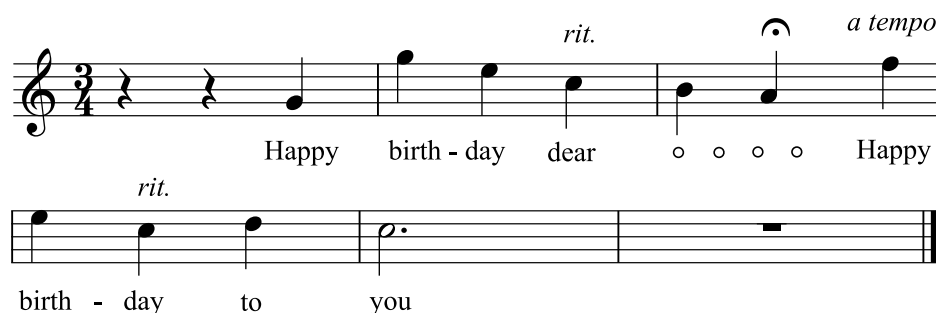
③ アツチェランド

そこからだんだん速く演奏することを指示します。略して「*accel.* (アツチェル)」と表記されることが一般的です。

④ ア・テンポ

リットやアツチェルしたあと、標語「*a tempo*」からもとのテンポに戻ることを指示します。日本のポピュラー・ミュージックでは、そのままのテンポで、という意味で「*in tempo* (イン・テンポ)」と記される場合もあります。

例) ♪ Happy Birthday To You の後半部分



⑤ テンポ・ルバート

特にテンポを指定せずに演奏者に任せることを指示します。ボーカルなどの旋律がある場合、その抑揚に合わせてテンポや強弱を付けて演奏します。完全にテンポが自由というより、設定された基本のテンポよりやや遅めにゆるやかに演奏するのが一般的です。自由なテンポで、という意味で「*tempo free* (テンポ・フリー)」と記される場合もあります。



「だんだん」とか「適当な」など曖昧な表現が多いが、このへんはケースバイケースだったりするので、その加減が難しいところだ。しかし、こういった部分に個々の音楽的なセンスがあらわれるものとも言えよう！ 頑張ってセンスを磨こう！

テンポは人間の感情に訴えかける大事なものだ。速いテンポは軽快に元気良く感じ、遅いテンポはゆったりとリラックスした気持ちになる。演奏中に感情の流れにそぐわないテンポの乱れがあると、アップテンポでもスローテンポでも心地良くない。また、毎回同じ表情を演奏で出すため

には毎回同じテンポで演奏する必要がある。プロのレコーディング現場ではテンポを1上げる(または下げる)かどうかを決めるのに時間をかける。楽曲には「ベストテンポ」があり、テンポが1違うだけで楽曲の表情がガラッと変わるからだ。走ったあとは心拍数が上がるため感覚的にいつもより速いテンポで演奏してしまったり、寝起きや体がダルい時はいつもより遅くなったりするので、個人練習やバンド練習に関わらず、いつもメトロノームでテンポを確認しながら練習しよう。

ポピュラー・ミュージック用のメトロノームは基準が♩ = 120 になっている。なぜなのか正確にはわからないが、♩ = 60 は1分間に4分音符が60回、すなわち1秒ということなので、♩ = 120 は0.5秒でわかりやすいからだろうと思われる。クラシックの標語による速度記号では「Moderato (モデラート)」が「中くらいの速さで」という意味で、だいたい♩ = 85 ~ 120 ぐらい。「Allegretto (アレグレット)」が「やや軽快に」という意味で、だいたい♩ = 105 ~ 130 ぐらいだ。行進曲(マーチ)は基本的に♩ = 120 なので、軽快に歩いているかちょっと早足ぐらいが基準ということだ。

アーティスト



日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校

音楽を一生続けていく ために大切なこと

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はアーティスト活動続ける上での「アーティスト・デュアルキャリア」の重要性について、日本工学院専門学校ミュージックカレッジ ミュージックアーティスト科の志鎌先生に伺いました。

ー 様々なアーティストが日々情報を発信し、活動していますが、YouTube や SNS が隆盛している現代において、大切なポイントを教えてください

志鎌：ステージでパフォーマンスをするのと同じで、「魅力的なコンテンツを発信し続ける」ということを心がけることが大切です。自分が出したコンテンツの先には、それを受け取る人たちがいて、その人たちがどう思うのかを常に考えて、発信をする…。そこにまで気を遣える人たちのコンテンツが生き残っていくのだと思います。

大切なポイントは、まずは好きなことをやってみることです。自分が「良い」と思ったことをやってみて、「違うな…」と思ったら修正する。トライ＆エラーの繰り返しだと思います。たとえば、なかなか結果が出なかったとしても、日々修正を加えていき、受け取り側の人たちが幸せになれたり、喜んでもらうために、常にブラッシュアップを心がけたいですね。それが「自己プロデュース」につながっていると思います。

あとは、好きなことを真似ることから始めると思うので、写真の撮り方から服装から、発信の仕方まで、まずは真似をしてみて、それが自分にフィットするか、しないかですね。フィットしたら続けるべきだし、違うと感じたら変えるべきで…。まずは、真似をすることが大切だと思います。

ー 昨今「デュアルキャリア」というワードを耳にすることが多くなりました。メリットや注目されている要因は、どのあたりにあるのでしょうか？

志鎌：これまでは「音楽は芸の道だから、それに集中しなさい」という考え方が主流だったと思うのですが、「実は、そうじゃないんじゃない？」というのが「アーティスト・デュアルキャ

リア」の考え方です。「音楽を一生続けていくために、仕事もしっかりやる」という考え方で。例えば、年相応な平均年収を稼いでいれば、家賃が払えて、おいしいご飯も食べられて、おしゃれもできて、彼女や彼氏とのデートもできるわけですね。

アスリートの世界に目を向けてみると、スポーツの世界ではアスリートの第二の人生を充実させるための「アスリート・デュアルキャリア」の情報をたくさん見つけることができます。アスリートの世界はとても厳しくて、競技にもよりますが、25歳で現役の区切りをつけるケースが多いようです。

また、興味深いレポートがあって、トップアスリートが一番不安に思っていることは「収入」ということでした。十分に「強化費」が貰えない場合は自己財源を切り崩していくことになり、親族からの支援も必要になってくる。バックアップ体制があるアスリートと、そうでないアスリートでは、レース前から結果が出てしまいますよね。「在学中にコーチから「卒業後、仕事はどうするんだ？」と一言でも言って欲しかった」というコメントがあったことに、僕は衝撃を受けたんです。そういう不安を払拭するために、人生の早い段階で仕事を意識することはプラスに働くのだと思います。それは芸術家やアーティストも同じだと考えています。

ただ、僕たちの世界は「アーティスト」なので、「アスリート」のように活動期限があるわけではありません。一生音楽を磨き続けていけるわけで…。「アーティスト活動」とは「音楽と仕事の『二刀流』の活動」である、と胸を張って言える世の中を10年後に創る!というミッションを達成するため、本校では今年度から啓蒙活動をスタートさせたところです。音楽も人生、大事な2つ、どちらも犠牲にしないということですね。

ー 最後に、音楽やエンターテインメントの世界で活動したいと考えている高校生にメッセージをお願いします

志鎌：音楽の世界だけでなく、どの業界にも通じることですが、やはり「挨拶」「時間を守る」「人を裏切らない」「謙虚である」…これだけは忘れてはいけないし、この4つをしっかりやれば生きていけると思います。これらの要素がないと、いくら美人でも、いくらスタイルが良くても、いくら歌やギターが上手でも、絶対に長続きはしないので、「人間的にしっかりとしましょう」と伝えたいですね。

守れていなくても、何とかやっていけるのは若い時だけです。「若さ」という期間限定のとても輝きが消えた時、これらのことができていない人たちはいなくなります。ただし、若いうちは「若さ」をトップ・プライオリティに持ってきた方が良いと思います。若い人たちは若さを売りにするべき、それにプラスして、自分から積極的に挨拶をしたり、約束の時間を守ったり、謙虚な姿勢を併せ持っておくと、入れ替わりの激しい世界でも生き残っていけるのではないのでしょうか。それから、未成年のうちは両親や家族とのコミュニケーションもしっかりと取って、アドバイスを得るようにして欲しいですね。



▲音楽を一生続けるために「二刀流」を応援します
(写真：左から 志鎌先生、多田先生)

日本工学院 × FM yokohama 84.7

Startline
84.7MHz
startline847.com

FMヨコハマ
「Startline」
毎週土曜日20:30~O.A.
(パーソナリティ)
坂詰美紗子(本校卒業生)
中村豪(やるせなす)

オープンキャンパス+体験入学

7/9(日) 16(日) 23(日) 29(土) 30(日)

8/5(土) 6(日) 19(土) 20(日) 21(月)

26(土) 27(日) 随時開催

参加者全員に、交通費補助として
QUOカード ¥1,000分を差し上げます。

<https://www.neec.ac.jp/taiken/>



**CONCERT
STAFF**

**RECORDING
ENGINEER**

ACOUSTIC MEDIA DEPT.

CONCERT EVENT DEPT.

It all begins here!

DANCER

DANCE PERFORMANCE DEPT.

MUSICIAN

VOCALIST

MUSIC ARTIST DEPT.

ミュージックアーティスト科 職業実践専門課程

- サウンドクリエイターコース ● ヴォーカリストコース
- プレイヤーコース

コンサート・イベント科 職業実践専門課程

- コンサート制作コース ● コンサートPAコース
- コンサート照明コース ● コンサート舞台コース
- イベント企画コース

音響芸術科 職業実践専門課程

- レコーディングエンジニア専攻 ● MAエンジニア専攻
- ラジオスタッフ専攻

ダンスパフォーマンス科 職業実践専門課程

浦田キャンパスのみ

- プロダンサー専攻 ● バックダンサー専攻
- ダンス&ヴォーカル専攻 ● コレオグラファー(振付)専攻
- ダンスインストラクター専攻 ● テーマパークダンサー専攻

日本工学院 ミュージックカレッジ

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

☎0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

☎0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

<https://www.neec.ac.jp/>



@nihonkougakuin



@neec_official



nihonkogakuin



照明

光でステージを演出する仕事です



専門学校東京ビジュアルアーツ

音楽やエンターテインメントに関する職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回は照明にまつわる仕事について、専門学校東京ビジュアルアーツ／音楽総合学科照明コースの龍野先生に伺いました。

ー 照明の仕事全般について教えてください

龍野：軽音楽部に在籍している生徒の皆さんはわかると思うのですが、照明の仕事はコンサートやライブが主体になっており、他には日本だと和太鼓や三味線などの「和もの」をはじめ、「洋もの」ではバレエや古典芸能などがあります。それから、お芝居やミュージカル、オペラなどにも照明は付きものです。ちなみに、これらの「舞台照明」以外に、商業施設や飲食店に向けた「店舗照明」も照明にまつわる仕事の1つです。本校ではコンサートやホテルの照明の仕事に就く卒業生が多く、全国にある有名テーマパークに就職する卒業生もいます。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか？ 高校時代にやっておいた方が良いことも教えてください

龍野：特に知識は必要なく、「日本は100Vです」ということがわかれば、良いと思います。これは私自身の経験になるのですが、若い頃にバンド活動をしていたおかげで「リズム感」が体に備わっているのと「楽譜を読む」というのが、すごく助かりました。クラシック音楽の現場に多いのですが、照明担当にも譜面が渡されるんです。その譜面を追いながらオペレートすることになるのですが、「今、どこを演奏しているんだろう？」というのがわからないと仕事にならないんです。私が多少の譜面を読む人間だったので、新人にもかかわらず大振舞されたことがありました。そもそも、音楽や楽器に親しんでいるとアーティストが演奏を始めた瞬間から、その世界に入り込めるし、楽曲の起伏や「次は、こんな展開が来るのかな…？」という勘も働くので、照明の世界では「強み」になると思います。

ー この仕事の楽しいところを教えてください

龍野：音響と照明を比較すると、照明は視覚的に飛び込んでくるので、わかりやすいんですよ。ステージに立っているアーティストや演者が、自分のオペレートが良い時は「照明、すごく良かったです！」という風に言ってくれますし、良くない時はダメな点を指摘してくれるんです。もちろん会場にいる観客も同時に盛り上がってくれますし、例えば、音楽フェスティバルの現場では音響や照明のブースの周りは観客ばかりですので、そこでの感動は一際大きいんです。そのやりがいを感じられるところが楽しい部分だと思います。

ー この仕事の大変なところを教えてください

龍野：いわゆる「3K（キツイ・汚い・危険）」に近いところでしょうか…。会場に入る時間は照明が一番早く、終演後、会場を後にするのも照明が一番遅いです。それから、音響も重たい機材がありますが、照明も同様、かつ物量が多く、細かい部品やパーツもあります。ドームでのコンサートの場合、スポットライトだけで何千台…という数になるんです。

それから、「緊張感」ですね。照明のプランニングが思い浮かばない時が辛い。アーティストからの要望も受けながら、照明の設計図を作らなくてはいけないのですが、なかなかひらめかなかったり、ありきたりになりがちなのが大変に感じます。ただ、本番が終わって、客電を点けたところで「うまくいった良かった…」という達成感を感じるんですよ。その感動やホッとした瞬間があるから、僕自身も長年続けてこれたと思います。

ー この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか

龍野：まずは「好きな気持ち」ですね。僕自身、「本当に照明が好きなんだ…」と思います。どの現場やプロジェクトもワクワクしますし、もちろん緊張もします。ですが、本番を無事に終えられた時のホッとした気持ちは何物にも変え難いものがあるので、いつもフレッシュな気持ちで臨んでいます。

そういう、いろいろなことに興味や関心を持ち続けるという「好き」の部分と、体力。そして、「負けないぞ！」という根気でしょうか。これは照明の業界に限ったことではありませんが、仕事を続けていると、どうしても壁にぶつかってしまうことがあります。それを乗り越える気持ちが大切です。

私は学生に「高校生の頃は、ただ単に遊んでいただけだったものを、意識を持って遊んでください」と伝えていますが。例えば、コンサート会場に足を運んだとしたら、今までは純粹にコンサートを楽しんでいただけだったところを、これからは「あの照明は、どの方向から当てているのだろうか？」とか「何人くらいのスタッフさんがいるのかな？」という視点で見てみたり、考えながら過ごすことができると良いな…と思います。



▲調光卓を使用して、灯体をコントロールします

★ 音楽が好きなあなたへオススメの★

OPEN CAMPUS

TOKYO
VISUAL
ARTS

初めてでも大丈夫！

はじめてのライブPA・照明体験

● プロ仕様のライブホールでスタッフ体験！

音響：最新の音響機材が整ったライブホールで、サウンドチェックから本番まで、PAエンジニアのお仕事を体験してみよう！

照明：アーティストの楽曲に合わせて照明のプランニングを立てて、実際に機材を操作してライブ照明にチャレンジしてみよう！



PA体験 7/9・23
照明体験 7/16・23



LESSON-1

初めての人向け！

サウンドクリエイター体験

● 作曲を理論的に学んでメロディーを組み立ててみよう！

メロディーの作り方なんて何もわからない！そんなあなたも大丈夫！

音楽の3要素、メロディー・ハーモニー（コード）・リズムを使ってメロディーを理論的に組み立てる方法を教えます！

まずはコードを自分で選び、メロディーをつけてみよう！



7/9・23

LESSON-2

初めてでも大丈夫！

パート別！マンツーマンレッスン

▶ ボーカル ▶ ギター ▶ ベース ▶ ドラム ▶ キーボード

● 現役のプロミュージシャンによる本格パート別レッスン！

現役のプロミュージシャンでもある本校の講師が一人ひとりのレベルに合わせて丁寧にレッスンをを行います！基本のテクニックレッスンはもちろん、演奏の悩みをプロに聞いてもらう貴重なチャンスです！



7/9・23



LESSON-3

はじめてのレコーディング体験



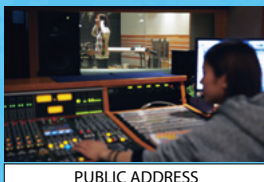
初めてでも大丈夫！
レコーディングの仕組みから
録音、MIXまでの流れを
一緒に作っていきましょう！

7/23・30

LESSON-4

音楽総合学科

第一線で活躍するプロが直接指導！
実践のカリキュラムで憧れの業界へ
授業は実習をメインに、業界の第一線で
活躍するプロが少人数体制で直接指導。
徹底的に現場を意識した設備・環境の中
で学びながら、2年間で現場の即戦力と
なる人材へと導きます！



PUBLIC ADDRESS



VOCAL/GUITAR/BASS/DRUM



SOUND CREATOR



STAGE LIGHTING



RECORDING

TOKYO
VISUAL
ARTS

Adachi学園グループ

学校法人 東京ビジュアルアーツ
専門学校

〒102-0081 東京都千代田区四番町11 www.tva.ac.jp

お問い合わせ

東京ビジュアルアーツ 入学相談室

0120-64-6006

Email: info@tva.ac.jp



LINE



設置学科：音楽総合学科／映像学科／マスコミ出版・芸能学科／写真学科／特殊メイク学科／パフォーミングアーツ学科／ダンス学科

照明

観客の反応を肌で 感じられる仕事です



専門学校名古屋ビジュアルアーツ

音楽やエンターテインメントに関する職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回は照明にまつわる仕事について、専門学校名古屋ビジュアルアーツ／音響学科 照明コースの野田先生に伺いました。

ー 照明にまつわる仕事全般について教えてください

野田：照明の仕事はコンサートやイベントをはじめ、演劇やテレビなど、様々な演目に携わることになります。具体的には、それぞれの現場に相応しい灯体や機材を選ぶところから始まり、現場で色味や動きをプログラミングし、本番では曲のキッカケや事前に決められたタイミングに合わせてスイッチを押して、明かりをコントロールする…という仕事です。

本校に入学する学生の大半はコンサートやライブを見て、照明に興味を持った…という人が多いのですが、その他にも、単純にお芝居を見たり、音楽を聴くのが好きで、そういった中で「自分も裏方として、この業界の仕事に携わりたい」という動機で進学を希望する学生もたくさんいます。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか？ 高校時代にやっておいた方が良いことも教えてください

野田：特に「入学前に、これをした方が良いでしょう」というものはないのですが、実際に仕事をしていく中で電流や電圧といった「電気」の知識が必要になるので、それらの簡単な復習ができると良いですね。また、機材の重量や積載量を計算する場面も多々あるので、数学の知識も今のうちから蓄えておけると、将来も役立てることができると思います。

仕事になると、好き／嫌いにかかわらず、いろいろな分野の照明に携わったり、様々なジャンルの音楽を聴いたり、お芝居を見たり…ということが多くなるので、学生のうちからライブ映像やミュージックビデオを見たり、音楽番組を視聴するなど、いろいろな映像作品を見て、その中で「カッコ良いな…」と思った照明や演

出のメモを取り、自分の知識としておくのは高校生のうちからできて、実際に照明の仕事に携わるようになってからも生かしていけることではないでしょうか。

なお、楽器を演奏できたり、譜面が読めるというのは、できるに越したことはないですが、必須ではありません。照明のプランを考える際に、いわゆる「譜割」といって、A メロが何小節で、B メロが何小節で…という数え方をするので、そういう場面では軽音楽部や吹奏楽部出身の人は入り込みやすいのではないのでしょうか。コンサート系の照明に携わるのであれば、そのスキルは重宝すると思います。一方、演劇系の照明はまったく異なり、「決められたキッカケを逃さずに反応する」という反射神経に通じる部分の方が重要なので、楽譜を読めたり、楽器を演奏できるというのは、そこまで重要なポイントではないと考えています。

ー この仕事の楽しいところを教えてください

野田：照明の効果は目に見えてわかるものなので、出演者や観客の反応を身近に感じられるところが楽しい部分だと思います。実際に演者の方から「この曲の、あの照明がかっこ良かった！」と言っていたり、コロナ禍以前のことになりますが、コンサートの現場でも会場が暗転し、「おお～！」という歓声を聞くことができるなど、照明に対するレスポンスを肌で感じられるのが醍醐味です。そのキッカケを照明担当である自分が握っているの、責任重大なのですが、やりがいを感じられるシーンの1つだと思います。

ー この仕事の大変なところを教えてください

野田：どうしても、本番前日は夜遅くまでの作

業になりがちなので、大変な部分の1つです。加えて、野外でのコンサートの場合は空が暗くならないと照明が映えないので、必然的に夜間の仕事になります。また、照明の仕事は大きな機材を運んだり、重たい灯体を取り付ける場面も多々あるので、体力に自信のない人は大変に感じてしまうかもしれません。

ー この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか。3つほど教えてください

野田：一番大切なことは、コンサートやイベントなどを「好きでいること」だと思います。好きだからこそ、頑張ろう！と思えますし、夜遅くの作業になってしまっても、かっこ良くしよう！という思いがあるなど、気持ちの部分が高められます。

2つ目は、たくさんの人たちと協力して、1つのものを作り上げることができる「協調性」。3つ目は、新しい機材や技術が次々と登場したり、便利な環境が整ってきている中で、常に新しいことに挑戦し、学ぼうとする「チャレンジ精神」です。照明の仕事は学校で教わることに以上に、現場で学ぶことが多いので、どんなことでも勉強するぞ！という気持ちで取り組める姿勢が大切だと思います。



▲ミュージシャンを交えたホールでのライブ実習の様子

NAGOYA

VISUAL ARTS



公式HP

好きが私の原動力。

パフォーミングアーツ学科

声優コース
俳優・タレントコース
ダンサーコース

ミュージシャン学科

ボーカルコース
ダンスボーカルコース
ギターコース
ベースコース
ドラムコース
キーボードコース

音響学科

PAコース
照明コース
企画・制作コース
レコーディングエンジニアコース
映像音響コース
サウンドクリエイターコース

映像学科

バラエティー番組コース
ドラマコース
ライブ・中継技術コース
映画監督コース
映画技術コース
動画ディレクターコース
動画ミュージックビデオコース
動画VFX・3DCGコース

写真学科

コマーシャルフォトコース
ライブフォトコース
ファッションフォトコース
スポーツフォトコース
営業写真コース
写真作家コース
ブライダルフォトコース
クリエイティブフォトコース



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century



文部科学省認定専修学校／職業実践専門課程認定校
名古屋ビジュアルアーツ

パフォーミングアーツ学科 / ミュージシャン学科 / 音響学科 / 映像学科 / 写真学科

お問い合わせ

入学相談室

TEL:0120-7575-48



高校生のための

自分にピッタリの業界を見つけよう!

お仕事発見DAY

さんぽう職業体験シリーズ

7.23(日) 7.30(日) 13:00-16:30
12:00-受付

★ VAO

学校法人 Adachi学園

ビジュアルアーツ専門学校

お友達との参加もOK!

服装自由!

ネットクリエイター

VTubeerから
エンタメ業界について聞こう!

長尾景

成瀬鳴

©ANYCOLOR Inc.

7/30(日)限定 にじさんじ所属
長尾景さん&成瀬鳴さんによる
特別セミナー!

ボカロP・
サウンドクリエイターに挑戦!

ボカロソフトを触って実際に曲を作ってみましょう!
初心者でも大丈夫!ソフトの触り方は1から教えるので
大丈夫です!初音ミクに歌わせてボカロPを体験しよう!

ダンス

ダンスを仕事に!!

Ryo

7/23(SUN)
D.LEAGUE「KADOKAWA DREAMS」
チームリーダー Ryo

Yuika

7/30(SUN)
テーマパークダンサー
ビジュアルアーツ卒業生 Yuika

コンサートスタッフ

LIVEに関わるスタッフ体験
(PA(音響)/照明/映像)

ミュージシャンにお越しいただき、プロ仕様の機材を使って
ステージで音響、照明、映像撮影など音楽ライブに携わる
スタッフを体験してみよう!

直接来校される方には交通費補助あり!

大阪	500円	和歌山	1,000~5,000円
兵庫	500~5,000円	三重	2,000~5,000円
京都・滋賀	1,000~3,000円	岡山・香川	5,000円
奈良	1,000~2,000円	広島	8,000円

※適用条件等、詳細はHPからご確認ください。
※大学生、社会人、留学生、保護者や付添の方は含まれません。

7.30(日)
限定

遠方の方には
無料送迎バスあり!

バス出発地点

三重	滋賀	京都
兵庫	奈良	和歌山
岡山	広島	香川

参加ご予約はこちら



ご参加される方は
事前に予約をお申込みください

校舎の場所やバス集合場所など、詳細は裏面をチェック!

主催

VAO ビジュアルアーツ専門学校

〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-23
TEL: 0120-69-2299 Mail: info@vao.jp

協力

未来をカタチにする
株式会社さんぽう 大阪支社

〒530-0012 大阪市淀川区木川東2-5-35



Pop & Rock Music, Jazz



昭和音楽大学 | 昭和音楽大学短期大学部 ポップ&ロックミュージックコース / ジャズコース

Event Information 2023

オープンキャンパス

昭和音大を体感してみよう!

7/9 Sun 8/2 Wed・3 Thu・4 Fri 9/23 Sat 他

参加無料
要事前予約

対面

イベントの一部の内容はオンラインでも受講できます!

受験講習会

個人レッスンで
プロの技を身につけよう!

8/26 Sat 9/23 Sat 10/21 Sat 11/12 Sun 他

●実技個人レッスン ●ポピュラー音楽理論 他

対面 オンライン

夏期講習会

受験生受講率No.1!!
夏休みにレベルアップ

8/2 Wed ~ 5 Sat

●実技個人レッスン
●ポピュラー音楽理論 ●DTM講座 他

対面 オンライン

アンサンブルセミナー

参加無料
要事前予約

本学教員がアドバイス!! ジャムセッションを楽しもう。

個人またはバンド
単位で参加可能

9/23 Sat

対面

▶6月現在の情報です。日程や内容は変更となる場合がありますので、詳細や最新情報はウェブサイトをご覧ください。◀



お申込・
詳細は
ウェブで!

お問い合わせ / 入試広報室

☎0120-86-6606

✉nyushi@tosei-showa-music.ac.jp

〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-1



受験対策スクール
"パスウェイズ"入室募集中!

音大受験生に対し、本学の講師陣が継続的に個人レッスンを行います。
オンラインも可能です。【対象：高校生(既卒者含む)、中学生】



教員紹介 (2023年6月現在)

★タイガー大越客員教授は年に数回、特別レッスンを行う予定です。

 稲葉智 (Go)	 稲葉政裕 (Go)	 内田充 (Go)	 梶原順 (Go)	 関根彰良 (Go)	 福原将宜 (Go)	 古川昌義 (Go)	 川崎哲平 (B)	 櫻井哲夫 (B)	 白船睦洋 (B)	 種子田健 (B)	 古館恒也 (B)	 安が川大樹 (B)	 あらきゆうこ (Dr)	 荒山諒 (Dr)	 石川武 (Dr)	 今井義頼 (Dr)
 江口信夫 (Dr)	 川口千里 (Dr)	 小山太郎 (Dr)	 斎藤たかし (Dr)	 則竹裕之 (Dr)	 渡多江健 (Dr)	 平川象士 (Dr)	 横山和明 (Dr)	 秋田慎治 (P)	 安部潤 (P)	 金親清香 (P)	 桑野洋子 (P)	 KOUGA (P)	 小林俊太郎 (P)	 新澤健一郎 (P)	 田中菜緒子 (P)	 力石理江 (P)
 林良 (P)	 守屋純子 (P)	 岡崎正典 (Sax)	 近藤和彦 (Sax)	 斎藤尚久 (Sax)	 本田雅人 (Sax)	 エリック・マシロ (Tp)	 岡崎好朗 (Tp)	 清水康弘 (Tp)	 タイガー大越 (Tp)	 田中充 (Tp)	 池田雅明 (Tb)	 駒野逸美 (Tb)	 秋葉隆行 (Vo)	 大槻水澄 (Vo)	 Minako Tsukagawa (Vo)	 Gajiri (Vo)
 工藤聖紀 (Vo)	 斉田佳子 (Vo)	 坂本卓也 (Vo)	 柴矢裕美 (Vo)	 SHUUBI (Vo)	 白井友紀 (Vo)	 白鶴慧海 (Vo)	 DAISUKE (Vo)	 藤井奈緒 (Vo)	 高田三郎 (Vo)	 竹沢敦子 (Vo)	 名知玲美 (Vo)	 西司 (Vo)	 はんごまこと (Vo)	 吉川智子 (Vo)	 中嶋美也 (Comp)	 森萬史 (Chord P)



バンドはエンターテインメントだ！

軽音楽部は高校生の間で人気の高い部活動です。軽音楽部というと「音楽が好き」や「楽器演奏が楽しい」といった点が注目されますが、それだけではありません。バンドに大切なのは**コミュニケーション**と**クリエイティビティ**と**チームワーク**と**エンターテインメント**です。軽音楽部は社会に出たから必要とされるこれらの能力を音楽やバンド活動を通して学ぶことができる部活動です。バンド活動はメンバー同士で相談しないと何も進みません。軽音楽部での活動を通して、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことで「コミュニケーション力」や「協調性」を育むことができます。